

# 多摩川下流域における神社の境内の樹木の研究

—特に境内の樹種構成とその配置について—

2001年

秋山好則

東京都立武蔵高等学校教諭

# 目 次

I 調査研究の目的 .....	1
II 調査方法 .....	1
III 調査地の概要 .....	2
IV 結 果 .....	6
1. 境内に生育する樹木について .....	6
(1) 境内樹木の生活型分類 .....	6
(2) 1神社あたりの出現種類数について .....	6
(3) 境内面積と出現種類数との関係 .....	9
2. 御神木の分布 .....	9
(1) イチョウ (いちょう科) .....	12
(2) スダジイ (ぶな科) .....	20
(3) ケヤキ (にれ科) .....	25
(4) クロマツ (まつ科) .....	29
(5) ムクノキ (にれ科) .....	32
(6) カヤ (いちい科) .....	33
(7) クスノキ (くすのき科) .....	33
(8) サワラ (ひのき科) .....	33
(9) スギ (すぎ科) .....	34
(10) タブノキ (くすのき科) .....	34
(11) ホウノキ (もくれん科) .....	34
大木の分布 (世田谷区・大田区) .....	36
3. 特徴種の境内における分布 .....	39
4. 主な神社の境内における樹木配置について .....	45
(1) 六所神社 .....	46
(2) 奥澤神社 .....	48

(3) 八幡神社 .....	50
(4) 宇山稻荷神社 .....	52
(5) 北澤八幡神社 .....	54
(6) 玉川神社 .....	56
(7) 東玉川神社 .....	60
(8) 神明神社 .....	62
(9) 世田谷八幡宮 .....	64
(10) 用賀神社 .....	66
(11) 駒繫神社 .....	68
(12) 浅間神社 .....	70
(13) 雪ヶ谷八幡神社 .....	72
(14) 子安八幡神社 .....	74
(15) 六所神社 .....	76
V ま と め .....	78
謝 辞 .....	79
参 考 文 献 .....	80
資 料 .....	81

# 多摩川下流域における神社の境内の樹木の研究

— 特に境内の樹種構成とその配置について —

東京都立武蔵高等学校 秋山好則

## I 調査研究の目的

とうきゅう環境浄化財団の助成（1996年～1997年）を受けて、「多摩川中流域における神社の境内の樹木の研究—特に境内の樹種構成とその配置—」のテーマで西多摩（一部）・北多摩地域にある188社の境内の樹木調査を行い、多くの知見を得ることができた。

今回は調査範囲を多摩川の下流域（世田谷区・大田区）に設定して、前報と同じような方法で研究する。下流域特に大田区内に位置する神社の場合、大正12年（1923）の関東大震災による破壊や焼失、昭和20年（1945）の戦災による焼失、昭和30～40年代（1955～1965）の京浜地区の大気汚染などの影響を中流域の多摩地区に比べて大きく受けてきたと考えられる。さらには住宅密集地に境内が位置するため、地域住民との関係も難しい面が多くあり、樹木の伐採・強剪定などの現象として現れる。いずれも境内に生育する樹木にとっては強い圧力となり、その生存さえも脅かされる事になる。世田谷地域の場合は戦災の影響も一部に見られるが、多くは広い境内に歴史を感じさせる御神木や大木が残され、地域ごとに特色を持って存在している。

今回の調査を通して、多摩川中・下流域のいわゆる都市部に残る境内の樹木について、その現状と歴史的変遷等について多面的に理解したいと考えている。

## II 調査方法

多摩川の流れに沿って、下流域に位置する世田谷区と大田区を調査対象とした。1万分の1地形図（国土地理院）（東京地図出版）、住宅地図（ゼンリン）、東京都神社名鑑（上巻）（東京都神社庁）、各区から出版されている各種案内などを参考にしながら調査対象の神社をマークした。世田谷区内58社、大田区内106社を今回の調査対象神社とした。

直接神社を訪れて、拝殿・本殿を中心に、摂社、末社、社務所、神楽殿、御輿庫、手水舎などの建物と、狛犬、灯籠、参道、鳥居等の配置を調べて、作図した。

境内に生育する樹木については、DBH（胸高直径）10cm以上のすべての個体を対象として調査を行った。境内における位置（場所）、樹種名を記録し、DBH（胸高直径）、H（樹高）を目測あるいは簡単な物差しで計測し、御神木などの場合は直径巻尺を用いて計測し、配置図を作成した。

御神木、大木（DBH50cm以上）、記念樹等は特に注意して記録した。可能な限り、神社関係者（宮司などの神官、神社の管理を委託されている方、氏子の方）や神社の近隣に住み、神社のことについて良く知っている方などへの聞き取り調査を行った。聞き取り調査の内容は、①境内の昔の



様子、②御神木の種類とその由来や変遷、③神社の由来や歴史、④戦災にあっているかどうか、⑤境内の樹木について、⑥神社と近隣の関係、⑦その他である。さらに文献などから当該神社に関する記述について、調査を行った。

### Ⅲ 調査地の概要

多摩川下流域の左岸側に位置する神社164社（世田谷区内58社・大田区内106社）を対象として調査を行った。前記の方法で調査対象をマークしたが、実際に現地を訪れると、工事中で立ち入ることができない、境内面積が狭く、樹木がほとんどない、神社が存在しない、あるいは一般には開放していない、等の理由で調査ができなかった神社が、世田谷区内で3社（世-17、世-23、世-32）、大田区内で12社（大-8、大-12、大-23、大-28、大-30、大-35、大-36、大-40、大-66、大-78、大-80、大-105）あった。結果として世田谷区内55社、大田区内94社（計149社）について調査を行った。（資料1、2）

また、樹木の現存数の調査においては、143社（世田谷区51社、大田区92社）について行った。（図1）

神社名で多い順に並べると、稲荷神社（25社）、八幡神社（24社）、天祖神社（14社）、諏訪神社（7社）、北野神社（4社）、熊野神社（4社）、神明神社（4社）、氷川神社（4社）、六所神社（4社）、浅間神社（3社）、貴船神社（2社）、玉川神社（2社）、天神社（2社）、白山神社（2社）、羽田神社（2社）、三輪神社（2社）であった。149社の中で、計60種類の神社名があった。1社しかないのが44社で29.5%を占めている。中流域では188社で77種類、1社のみが66神社で35%であった。稲荷神社と八幡神社が多いのは共通している。

調査地域の地形を見ると、世田谷区内では全域に武蔵野台地が拡がり、多摩川流域沿いに、沖積低地がわずかに見られる、大田区内でも台地は南北に走る京浜東北線沿いに末端部がせまり、区内南部と東部に沖積低地が広がっている。世田谷区の北部域は目黒川の支流である北沢川、烏山川、蛇崩川が西部から東部へ区内全域を流れ、台地を刻んでいる。南部は丸子川、野川、多摩川が流れ、凹凸のある地形をつくっている。したがって段丘崖斜面が多く見られる。

大田区内ではほぼ中央部を呑川が北西部から南東部にかけて流れている。そして多摩川が西部から南部へ区境を大きく蛇行している。

神社の位置している地形を見ると、台地や沖積低地の平坦部にあるのが世田谷区内で24社、大田区内で64社（計88社-59.1%）、段丘崖斜面上に位置しているのが世田谷区内で27社、大田区内で30社（計57社-38.3%）、段丘崖上の平坦地には世田谷区内で4社、大田区内で0社（計4社-2.7%）であった。いずれも周辺より一段高い場所に位置している場合が多い。（図2）

拝殿・本殿などの境内の建物は南向きに建てられている場合が多い。（中流域では56.9%）149社の拝殿・本殿の向きを調べた結果が次の表と図3である。

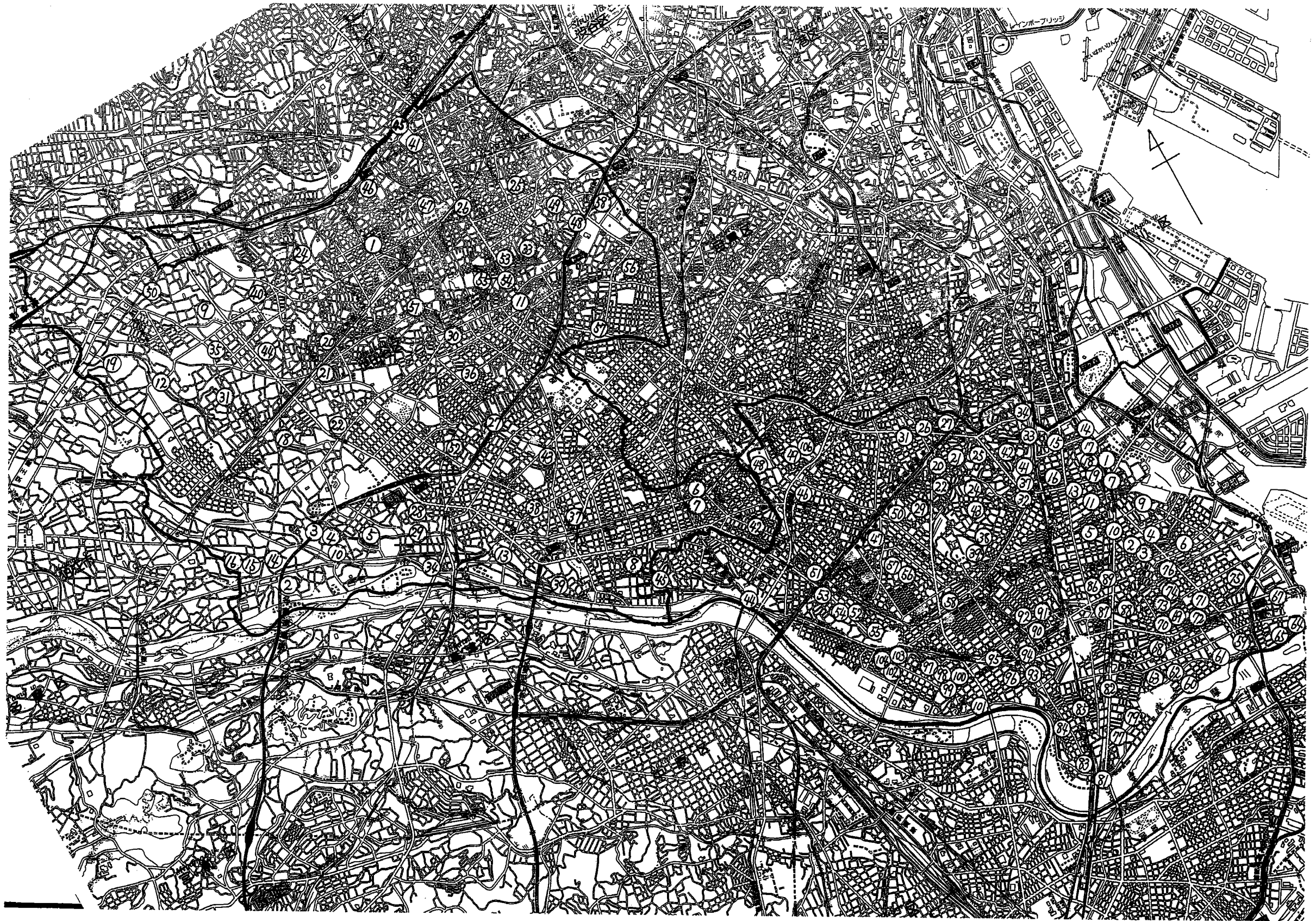


図1 調査地



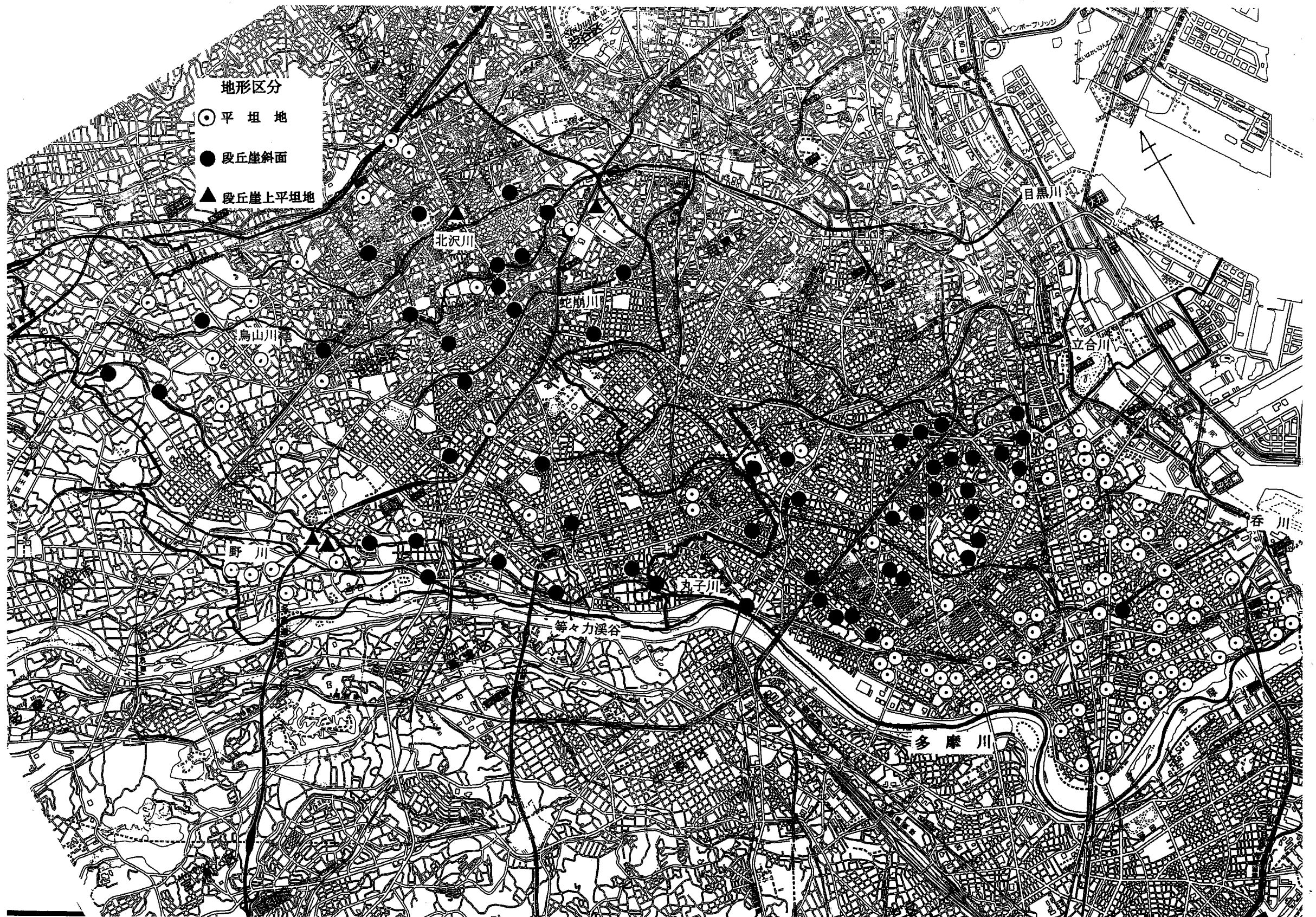


図2 神社の立地の地形区分



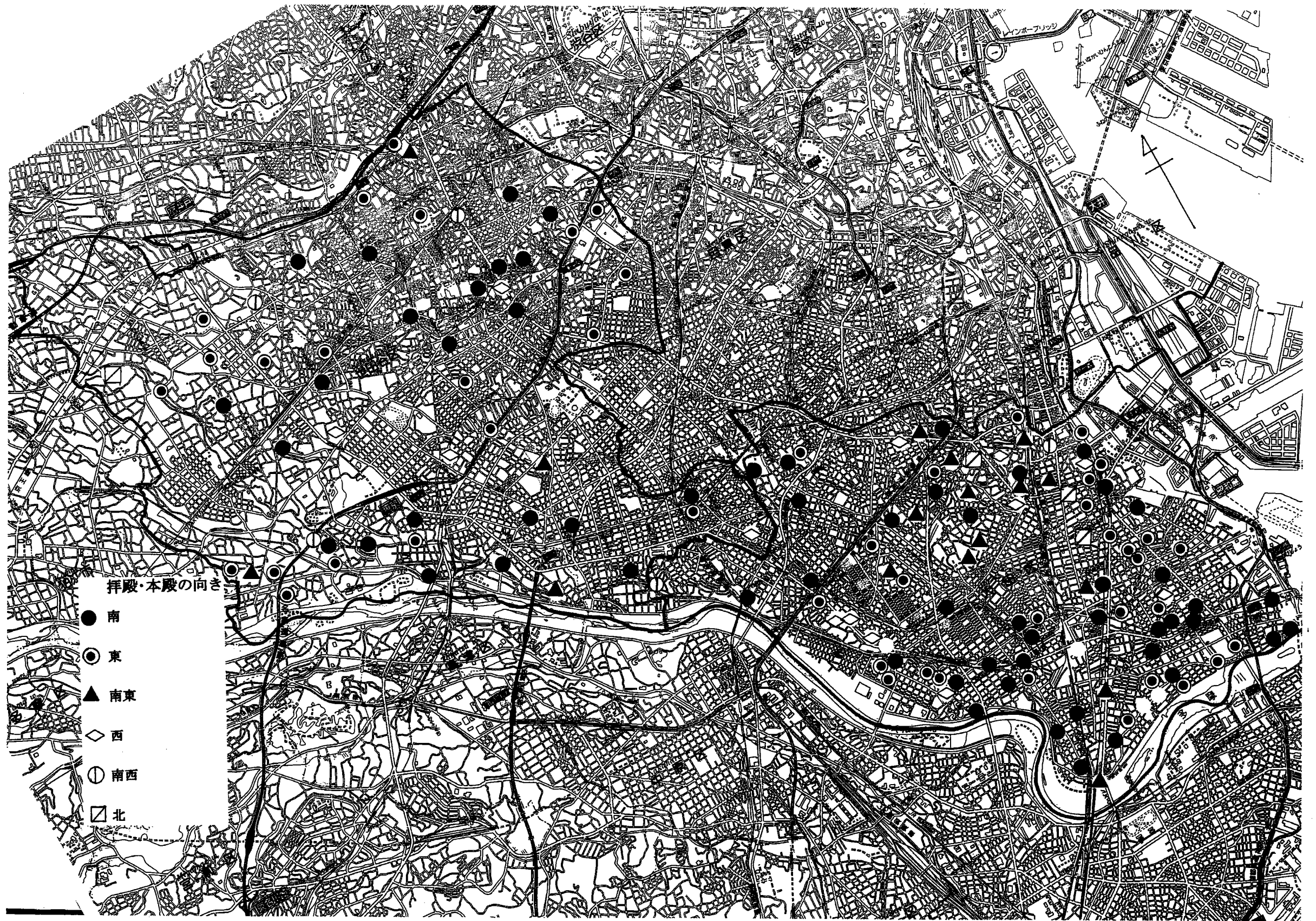


図3 神社の拝殿・本殿の向きの分布

向 き	南	東	南 東	西	南 西	北	計
世田谷区	22	20	4	5	3	1	55
大 田 区	38	28	13	9	3	3	94
計	60	48	17	14	6	4	149
%	40.3	32.2	11.4	9.4	4.0	2.7	

南向きは世田谷・大田区内でともに40%、東向きがそれぞれ36%、30%であった。南・東・南東向きを合計すると83.9%で、中流域の84.1%とまったく同じであった。都内の神社の場合は南―南東―東向きに拝殿・本殿が建てられていると考えて良い。それ以外については、地形との関係、氏子の大部分が東側や南側に生活して、西や北のはずれに建てられているなどが考えられる。また例外的に土地提供者の方を向いて建てられたなどの例もあると聞いた。

## IV 結 果

### 1. 境内に生育する樹木について

#### (1) 境内樹木の生活型分類

調査した149社において、DBH10cm以上の樹木の総出現種類数は125種類であった。2、3種類について、種名がはっきりしなかったものは分析から除いた。出現したすべてを生活型で分類し、まとめたものが表1である。

落葉広葉樹が最も多く59種類(47.2%)であった。次に常緑広葉樹が45種類(36.0%)、常緑針葉樹が20種類(16.0%)、落緑針葉樹が1種類(0.8%)であった。中流域(138種類出現)と比較すると、その割合がほとんど同じであった。アキニレ、コウゾ、サイカチ、ナンキンハゼ、ニワウルシ、ニワトコ、ハクモクレン、ヒメシャラ、イスノキ、カクレミノ、キョウチクトウ、クロガネモチ、西洋シャクナゲ、イチイ、トウヒの15種類が新しく加わった。中流域にのみ見られた種類としては、山地や丘陵地等に生育するウワミズザクラ、カジノキ、クサギ、クリ、ゴンズイ、ヌルデ、ネムノキ、ハクウンボク、ハリギリ、マンサク、ヤマボウシ、カラマツ等が目立ったが、全体的に共通して出現する種類が多かった。

#### (2) 1神社あたりの出現種類数について

表2には149社について、各神社あたりの出現種類数の分布を示した。最も少なかったのは2種類で、3社があった。三輪神社(大-5)は境内面積1438.8㎡と割合広いが、境内にはイチョウ6本、サクラが2本生育しているだけだった。稲荷神社(大-18)は境内面積241㎡と狭く、サクラが3本、イチョウが1本だけ見られる。諏訪神社(大-27)は境内面積248㎡と狭く、スダジイが2本、ミカン類が1本生育している。

調査した境内で最も多かったのは八幡神社(大-50)の37種類である。呑川の左岸側の段丘崖

表1 境内樹木の生活型分類 (125種類)

	落葉広葉樹		常緑広葉樹	常緑針葉樹	落葉針葉樹
1	アオギリ	ヒメリンゴ	アカガシ	アカマツ	メタセコイア
2	アカシデ	フジ	アラカシ	イチイ	1種類
3	アカメガシワ	ハウノキ	イスノキ	イヌガヤ	
4	アキニレ	ボダイジュ	イヌツゲ	イヌマキ	
5	イイギリ	ポプラ	ウバメガシ	カイズカイブキ	
6	イチョウ	マユミ	ウラジロガシ	カヤ	
7	イヌザクラ	ミズキ	オガクマノキ	キャラボク	
8	イヌシデ	ムクノキ	カクレミノ	クロマツ	
9	ウメ	ムクロジ	カナメモチ	コウヤマキ	
10	エゴノキ	モクレン	キョウチクトウ	ゴヨウマツ	
11	エノキ	モモ	キンモクセイ	サワラ	
12	エンジュ	ヤマナシ	クスノキ	スギ	
13	オオシマザクラ	ヤマハンノキ	クロガネモチ	チャボヒバ	
14	オニグルミ	59種類	ゲッケイジュ	トウヒ	
15	カエデ		サカキ	ヒノキ	
16	カキノキ		サザンカ	ヒバ	
17	カシワ		サンゴジュ	ヒマラヤスギ	
18	カツラ		シャクナゲ(西洋)	ヒムロ	
19	カリン		シュロ	モミ	
20	キリ		シラカシ	ラカンマキ	
21	クヌギ		シロダモ	20種類	
22	クワ		スダジイ		
23	ケヤキ		ソテツ		
24	コウゾ		タイサンボク		
25	コナラ		タブノキ		
26	コブシ		タラヨウ		
27	サイカチ		ツクバネガシ		
28	サクラ		ツバキ		
29	ザクロ		トウネズミモチ		
30	サルスベリ		トベラ		
31	サンシュユ		ナギ		
32	シダレザクラ		ネズミモチ		
33	シダレヤナギ		ヒイラギ		
34	シャラノキ		ヒイラギモクセイ		
35	スズカケノキ		ヒサカキ		
36	トウカエデ		ビワ		
37	トネリコ		マテバシイ		
38	ナンキンハゼ		ミカン		
39	ニガキ		モウソウチク		
40	ニセアカシア		モチノキ		
41	ニワウルシ		モッコク		
42	ニワトコ		ヤブニッケイ		
43	ハクモクレン		ヤマモモ		
44	ハナミズキ		ユズ		
45	ハルニレ		ユズリハ		
46	ヒメシャラ		45種類		

表2 出現種類数分布

出現種類数	神社数	出現種類数	神社数
2	3	21	7
3	5	22	4
4	9	23	7
5	2	24	5
6	8	25	3
7	6	26	4
8	7	27	1
9	6	28	1
10	8	29	0
11	5	30	1
12	10	31	0
13	7	32	1
14	7	33	0
15	2	34	0
16	7	35	0
17	4	36	0
18	5	37	1
19	6	計	149
20	7	平均	14.2

斜面上に位置し、境内面積5672.7㎡と広い。ミズキ、エノキ、コブシ、スダジイ、アカメガシワ、コナラ、ムクノキなどの自然生の樹木に加えて、多くの種類が植えられている。DBH50cm以上の大木が7種類、15本も生育していて、特にスダジイはその中で8本を占めている。

次に多かったのが北沢八幡神社（世-25）の32種類であった。北沢川の左岸側にあり、斜面上に位置している。境内面積3346㎡と広く、DBH50cm以上の大木が7種類、22本生育していて、ケヤキ、イヌシデ、イチョウが多く見られる。拝殿・本殿周辺には特に樹木が多く、常緑樹の大木が目立つ。鳥居を入ると右側が公園になっていて、ケヤキの大木がまとまって生育している。

六所神社（世-1）では4009㎡の境内に30種類が生育していた。アカマツ、クロマツの大木に加えて、シラカシ、スダジイ、モチノキ、サカキ、ウラジロガシなどの常緑広葉樹が参道沿いや拝殿・本殿の周囲に多く生育し、境内全体を厳かな雰囲気になっている。特に参道中央部が密に分布している。

世田谷区域では平均18.2種類、大田区域では11.9種類とかなりの違いがあった。これは境内面積の平均が世田谷区域では2863.2㎡、大田区域では1715.7㎡であることが一つの要素であるが、後でも詳しく触れるが、戦災による焼失なども影響していると考えられる。149社全体では平均すると14.2種類の生育が見られた。（中流域では13.8種類であった）

現存数の分布を表3に示した。ここでも世田谷では平均66.7本、大田区では38.1本と大きな差がある。

表3 現存数分布

	世田谷区	大田区	計
現存数	神社数	神社数	神社数
0～9	2	11	13
10	2	21	23
20	3	14	17
30	9	14	23
40	0	10	10
50	8	3	11
60	5	5	10
70	5	5	10
80	3	4	7
90	5	1	6
100	3	0	3
110	2	0	2
120	1	0	1
130	1	2	3
140	0	0	0
150	2	0	2
160	0	2	2
	51	92	143
平均	66.7	38.1	48.3

(3) 境内面積と出現種類数との関係

境内面積（東京都神社名鑑（上巻）による）のはっきりしている137社について、境内面積と出現種類数の関係を表4と図4、5に示した。境内面積は椿神社（大-89）の66㎡（約20坪）から松陰神社の15000㎡（約4545坪）の範囲にあり、平均すると1978㎡（約600坪）となる。世田谷区と大田区に分けて図に示した。

世田谷区内では全体にまばらに分布している。境内面積も217.8～15000㎡の範囲と幅広く、種類数も4～32種類と拡がりを持っている。4000㎡までは種類数が増加するが、それ以上の境内面積では20～25種類の範囲になっている。全体では20種類前後に集中している。

一方、大田区内では境内面積は66.0～13200㎡の範囲にあるが、4000㎡以上の面積を持つ境内は6社と少なく、2000㎡以下に集中している。種類数は2～37種類と広いが、4000㎡まで種類数が増加し、それ以上の境内面積では25種類前後となり、世田谷区と共通している。境内面積2000㎡以下で、15種類以下に集中している。

2. 御神木の分布

境内にあって御神木は特別な存在である。注連縄を張り、時には柵をもうけて大切にしている。境内に生育している樹木をすべて神木としている神社もあるが、特に大きく、樹齢も古い個体が



表4 境内面積（㎡）と出現種類数の関係

境内面積	種類数	境内面積	種類数	境内面積	種類数
15000.0	18	1970.0	12	958.7	8
13200.0	25	1880.0	22	924.1	10
13134.0	24	1877.7	12	915.0	10
11550.0	21	1864.0	13	908.0	18
8580.0	19	1848.0	23	877.8	6
6612.0	27	1834.0	20	847.0	22
6600.0	24	1808.3	15	836.4	7
6600.0	24	1762.0	16	821.0	16
5672.7	37	1698.0	12	798.0	6
5610.0	26	1683.0	8	796.7	5
4958.0	25	1669.0	21	792.0	16
4950.0	23	1653.0	8	760.3	11
4066.1	8	1650.0	21	757.0	10
4009.0	30	1619.0	12	726.0	8
3960.0	24	1615.5	13	694.0	11
3960.0	19	1610.0	13	680.0	13
3552.0	11	1600.0	20	661.2	4
3451.0	18	1573.0	23	660.0	10
3435.3	22	1522.0	13	651.5	4
3346.0	32	1518.0	9	627.5	6
3305.8	18	1508.0	21	593.2	7
3305.8	16	1441.3	19	572.0	12
3300.0	23	1438.8	9	562.0	4
3300.0	23	1418.0	16	544.5	7
3167.0	23	1418.0	14	542.2	12
3041.3	20	1395.1	25	495.0	3
3008.2	14	1379.0	21	479.0	4
2970.0	17	1376.1	7	396.0	10
2957.5	11	1322.3	9	376.0	6
2752.0	26	1320.0	19	370.3	3
2667.8	14	1297.0	12	363.0	6
2641.3	16	1296.0	11	339.1	7
2640.0	26	1229.9	8	304.1	6
2640.0	21	1226.0	14	304.1	4
2599.1	18	1225.0	9	255.0	4
2595.0	17	1203.0	14	249.7	3
2471.0	23	1156.3	10	247.9	2
2402.4	9	1155.0	19	241.3	17
2386.0	22	1122.0	21	241.3	2
2376.0	28	1056.0	24	221.0	20
2145.0	20	1046.1	7	217.8	4
2112.0	12	1013.0	13	208.3	6
2083.0	26	990.8	13	204.4	3
2003.0	16	990.0	9	132.2	10
2000.0	14	990.0	4	66.0	3
1986.0	17	958.7	14	計	137社

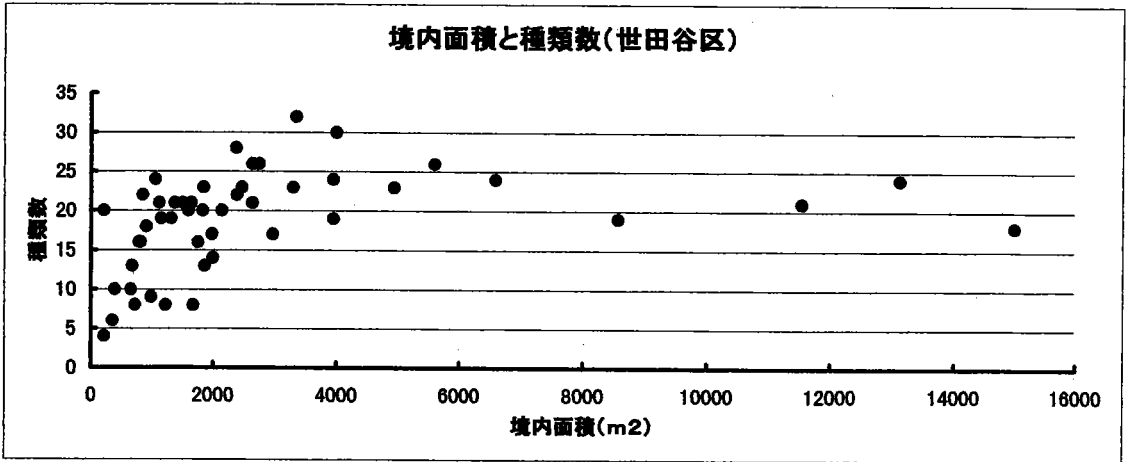


図4 境内面積と種類数(世田谷区)

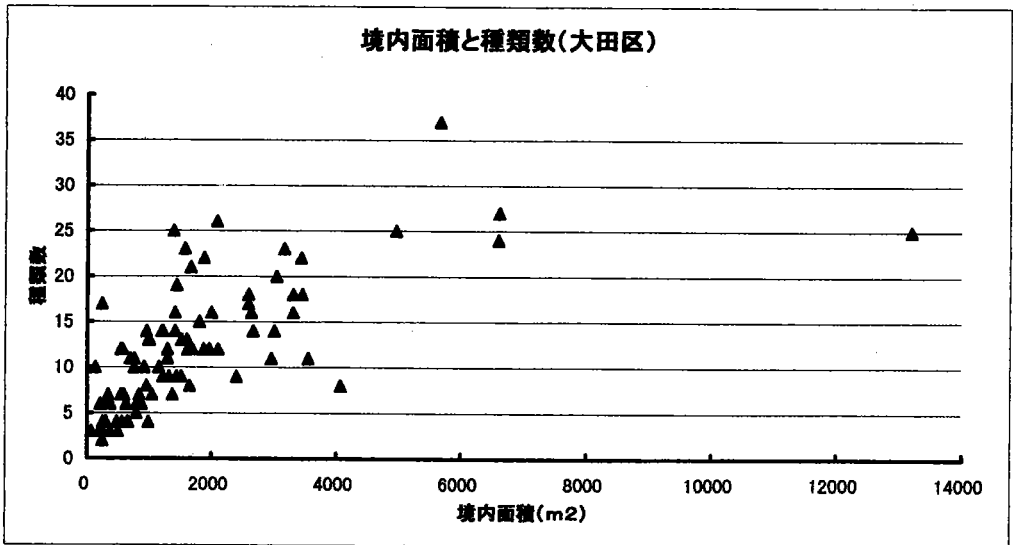


図5 境内面積と種類数(大田区)

神木とされる場合が多い。調査に訪れて、神社関係者への聞き取り調査ができた場合は、御神木について、その樹種、由来、神社との関係等についてお聞きした。また、聞き取りができなかった場合は、境内の樹木の中で特に大木になっている個体、拝殿・本殿などの近くにある個体などで、幹に注連縄が張られていないかどうかを確認し、張られている場合は神木と判断した。

今回調査対象とした世田谷区内55社、大田区内94社において、御神木として、①イチョウ10社、②スダジイ7社、③ケヤキ6社、④クロマツ5社、⑤ムクノキ2社、⑥カヤ1社、⑦クスノキ1社、⑧サワラ1社、⑨スギ1社、⑩タブノキ1社、⑪ハウノキ1社の計11種類が確認された。世田谷区内で22社（40%）、大田区内で14社（14.9%）で御神木が見られた。全体では24.2%であった。その分布を示したのが図6で、詳細については表5に示した。前回の中流域（西多摩の一部・北多摩地区内の神社計188社対象）の調査では全体で14種類、御神木が認められたのは計73社で全体の39%であった。サワラ、ハウノキ、ムクノキなどは御神木としては中流域では認められなかった。御神木の存在率では、中流域と世田谷区内ではほとんど同じで、大田区内ではかなり低い値になっている。

御神木に加えて、特に境内に生育するDBH50cm以上の大木の存在に注目して、調査を行った。環境悪化の中でも大木まで成長できている事は、その樹木がその場所で長期間生育が可能であったことを示し、あるいは枯死した場合には生育・成長を阻害する環境の変化があったことを表現するわけで、大木の存在・変遷を継続的に調べれば、地域の環境の変化を時間を追って理解できると考えた。

#### (1) イチョウ（いちょう科）

今回調査対象とした143社の中でDBH10cm以上のイチョウが生育していたのが136社（91.3%）と他の種類に比べて圧倒的に多く、ほぼ全域にわたって見る事ができた。現存数も762本で、1社平均5.6本となり、いずれも良好な生育であった。その中で直径50cm以上の大木に注目すると、世田谷区内34社、大田区内36社（計70社-50%）に見られた。その分布を示したのが図7である。図中の大きな丸は、1つの境内にイチョウの大木が5本以上生育し、小さな丸は1～4本生育していることを示す。以下に示すスダジイ、ケヤキ、クロマツ、クスノキの分布図も同様である。

世田谷区内では目黒川の支流の北沢川、烏山川の流域沿いに位置する境内に多く見られた。境内に5本以上のイチョウの大木が存在する神社は主に区域東部に多く、多摩川に近い西部域には少ない。大田区内では北部域の台地上に多く存在する。南部や東部の沖積低地域では少ない傾向が見られた。

御神木としては世田谷区内8社、大田区内2社に見られた。

氷川神社（世-2）は多摩川沖積低地の平坦地に位置している。昭和20年（1945）の東京大空襲により社殿が消失し、昭和30年（1955）に社殿を建築、さらに平成11年（1999）に新たに社殿・社務所が完成した。拝殿左手前に御神木のイチョウの大木がある。胸高直径（DBH）が120～140cm、樹高（H）が22mと立派で、空襲による消失から逃れ現在に至っている。幹の途中で折れていて、そこから新しい枝が伸びている。

表 5 世田谷区・大田区の御神木

	No	神社名	所在地		御神木	DBH(cm)	H(m)	備考
1	世-2	氷川神社	世田谷区	宇奈根 2-13-19	イチョウ	120~140	22	
2	世-6	奥沢神社	世田谷区	奥沢 5-22-1	イチョウ	100	20	
3	世-9	八幡神社	世田谷区	粕谷 1-23-18	イチョウ	110~120	18	
4	世-26	代田八幡神社	世田谷区	代田 3-57-1	イチョウ	100、95	22、23	2本
5	世-35	稲荷神社	世田谷区	千歳台 5-17-23	イチョウ	95	20	
6	世-49	三宿神社	世田谷区	三宿 2-27-6	イチョウ	70	20	
7	世-56	駒繫神社	世田谷区	下馬 4-27-26	イチョウ	100	25	
8	世-57	稲荷神社	世田谷区	野沢 2-2-13	イチョウ	103	30	
9	大-14	磐井神社	大田区	大森北 2-20-8	イチョウ	110、135	20、18	2本
10	大-22	湯殿神社	大田区	南馬込 5-18-7	イチョウ	115、125	30、30	2本(御神木の)
11	大-26	天祖神社	大田区	北馬込 2-28-13	スダジイ	95	12	昔クロマツ
12	大-33	天祖神社	大田区	山王 2-8-1	スダジイ	90	11	
13	大-34	日枝神社	大田区	山王 1-6-2	スダジイ	102	11	
14	大-50	八幡神社	大田区	仲池上 1-14-22	スダジイ	90~120	6~12	大木5本
15	大-56	八幡神社	大田区	久が原 2-18-4	スダジイ	100	10	
16	大-94	八幡神社	大田区	東矢口 3-28-7	スダジイ	45	9	
17	大-96	諏訪神社	大田区	多摩川 2-10-2	スダジイ	60	7	
18	世-20	天祖神社	世田谷区	経堂 4-33-2	クロマツ	100	20	
19	世-33	八幡神社	世田谷区	太子堂 5-23-4	クロマツ	65	20	
20	世-44	神明神社	世田谷区	船橋 4-40-17	クロマツ	60~70	18~20	
21	大-51	御嶽神社	大田区	北嶺町37-20	クロマツ	90	23	樹齢300年
22	世-1	六所神社	世田谷区	赤堤 2-25-2	マツ類	40~65	20~25	アカマツとクロマツ
23	世-5	八幡神社	世田谷区	岡本 2-21-2	ケヤキ	100~110	20	
24	世-22	宇山稲荷神社	世田谷区	桜丘 4-14-18	ケヤキ	105	25	
25	世-31	神明社	世田谷区	祖師谷 5-1-7	ケヤキ	100	20	
26	世-52	用賀神社	世田谷区	用賀 2-14-3	ケヤキ	110	20	
27	大-46	雪ヶ谷八幡神社	大田区	東雪谷 2-25-1	ケヤキ	90	18	
28	大-97	新田神社	大田区	矢口 1-21-23	ケヤキ	150×130	9	
29	世-15	須賀神社	世田谷区	喜多見 4-3-23	ムクノキ	110	20	
30	大-47	八幡神社	大田区	久が原 1-7-9	ムクノキ	90	18	
31	世-40	八幡社	世田谷区	八幡山 1-12-2	カヤ	35	15	
32	世-58	池尻稲荷神社	世田谷区	池尻 2-34-15	クスノキ	55	15	
33	世-27	新田稲荷神社	世田谷区	新町 2-17-1	サワラ	65	15	
34	世-41	羽根木神社	世田谷区	羽根木 2-17-5	スギ	83	8折損	昭和20年戦災枯死
35	大-52	白山神社	大田区	東嶺町31-17	タブノキ	130	12	
36	世-45	稲荷神社	世田谷区	大原 2-29-21	ハウノキ	枯株85×65	枯株 2	萌芽(2本) 11cm-8m 12cm-8m

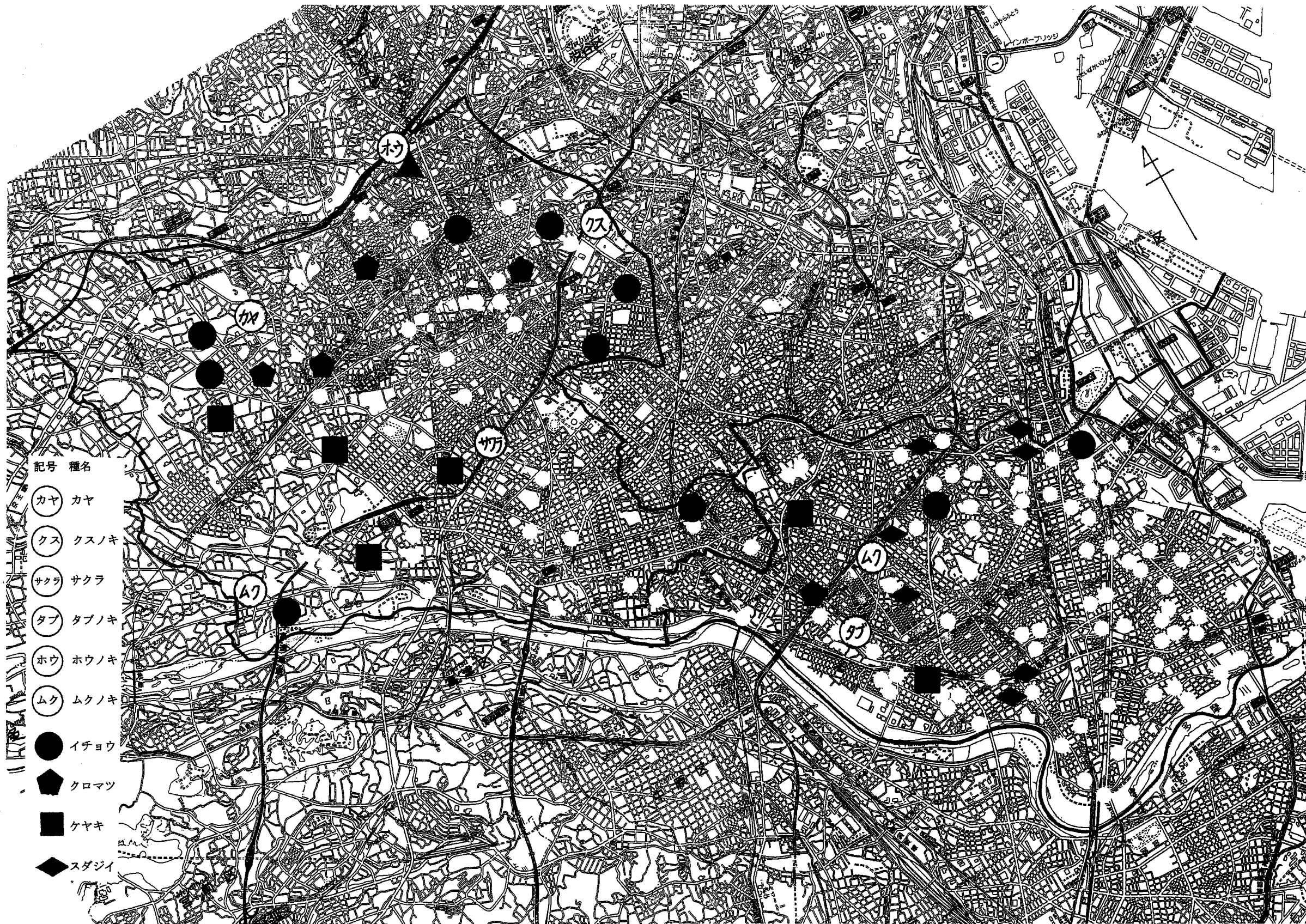


図6 御神木の分布





図7 イチョウの分布

奥澤神社（世－6）の境内地は平坦になっているが、少し離れて東側に呑川が流れている。拝殿の左横に雌木の御神木（DBH100cm、H20m）が位置している。宮司さんによれば、昔とほとんど大きさが変わらないと言う。樹齢ははっきりしない。拝殿の南側手前の参道沿いにさらに大きいイチョウ（DBH100～120cm、H22m）がある。こちらは樹齢200年にはなっていないと言う。さらに南側には世田谷区の名木百選に選ばれているスダジイの大木がある。境内で最も古いと思われる。参道を挟んでもう1本シイノキがあったが、40年前に枯れたという。



### 写真①

奥澤神社（世－6）のイチョウ

撮影日 00. 3. 19

八幡神社（世－9）は烏山川左岸側の緩やかな東向き斜面上に位置している。南側には蘆花恒春園が広がっている。昭和34年（1959）3月に放火により社殿が全焼したという。その時境内の樹木にあまり影響がなかったのか、大木が多い。御神木のイチョウは拝殿の左手前にある。DBH110～120cm、H18mで勢いがよい。その他サクラ、ケヤキ、ヒノキ、アカマツ等が見られ、本殿の両側にはヒノキの若木が列状に植えられている。さらに鳥居の右手前に「わかれのスギ」と表示されたスギの枯株（DBH70cm、H1m）が残され、保存されている。いつ頃枯れたのかは確認できなかった。

代田八幡神社（世-26）は南側を流れる北沢川左岸側に位置していて、緩やかな傾斜地の上にある。東側は環七通りに面している。境内地は南側の道路も含めて2～3mほど高くなっていて、階段が設置されている。昭和20年（1945）4月25日、戦火により、一切の境内の造営物が消失した。現社殿は昭和23年（1948）に建設、昭和35年（1960）にその他の施設が建設されたという。

御神木のイチョウは2本あり、注連縄で繋がれている。ほとんど同じ大きさで拝殿の右手前の広場にある。（DBH100cm、H22m）（DBH95cm、H23m）戦火の影響はあまり受けてはいないようだ。環七通りができる昭和33年（1958）頃まで、境内地は環七通りの反対側までであったという。当時は緩やかな斜面を登った場所に拝殿があった。その当時イチョウはその南側の、現在2～3m下がった場所にあるケヤキの大木群と同じ高さの地面にあった。イチョウのある場所はその後かなり盛り土されたもので、環境激変の中でも勢いの衰えないイチョウの生命力の強さが感じられる。



写真② 代田八幡神社（世-26）のイチョウ

撮影日 00. 9. 24

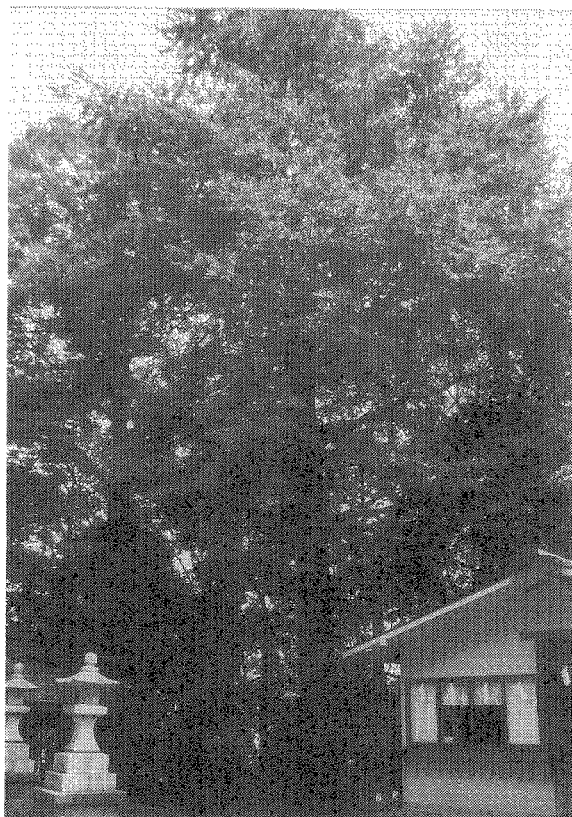
稲荷神社（世-35）の境内からやや離れて、西側を仙川が流れているが、境内は平坦地に位置している。イチョウの大木が8本ある。拝殿・本殿の周囲をイチョウが包み込んでいる。その他ケヤキ、イヌシデ、メタセコイア、クロマツと樹木の多い境内である。最大の個体（DBH95cm、H20m）が神木とされている。

三宿神社（世-49）の南側を烏山川が西から東へ流れている。境内は南向きの斜面上に位置している。拝殿・本殿の裏側は急な斜面になっていて、斜面を削り平坦にして建物が配置されている。



鳥居を入ると三カ所の階段を上がり、拜殿の前に立つ、その左手前にイチョウの大木（DBH70cm、H20m）がある。注連が張られて、御神木と思われる。社殿は戦火にあい消失したという。境内にはイチョウの他にケヤキ、カヤなどの大木が生育している。

駒繫神社（世-56）は目黒川の支流の蛇崩川が境内の西-北-東側を蛇行して流れている。境内は斜面を利用して、上部を平坦にして配置されている。戦災にはあっていない。樹木の大変多い境内で、全体に鬱蒼としている。23種類、100本以上の樹木が生育している。珍しいのは世田谷区の名木百選になっているモッコク（DBH40、45、50cm、H13m）が3本あり、さらに隣には3代目と言われる「駒繫ぎの松」（クロマツDBH45cm）がある。御神木のイチョウは鳥居を入り階段を上った場所、参道の左側にある。DBH95~100cm、H25mの大木で良好な生育を示している。



写真③

駒繫神社（世-56）のイチョウ

撮影日 00. 8. 24

野沢稲荷神社（世-57）から少し離れて南西側を環七通りが走っている。境内地は北東側に緩やかに下がっている。その先に鶴が久保公園があり湧水がある。戦災にはあわず、境内には樹木が多く、なかでもイチョウが21本と多く全体の3分の1を占めている。御神木は拜殿の左手前にあり、DBH103cm、H30mと立派である。さらに拜殿の左側にはクスノキの大木（DBH134cm、

H18m)が大きく枝を広げている。アカガシの大木(DBH50cm、H9m)は最近樹勢が衰え、樹木医の治療を受けたばかりという。

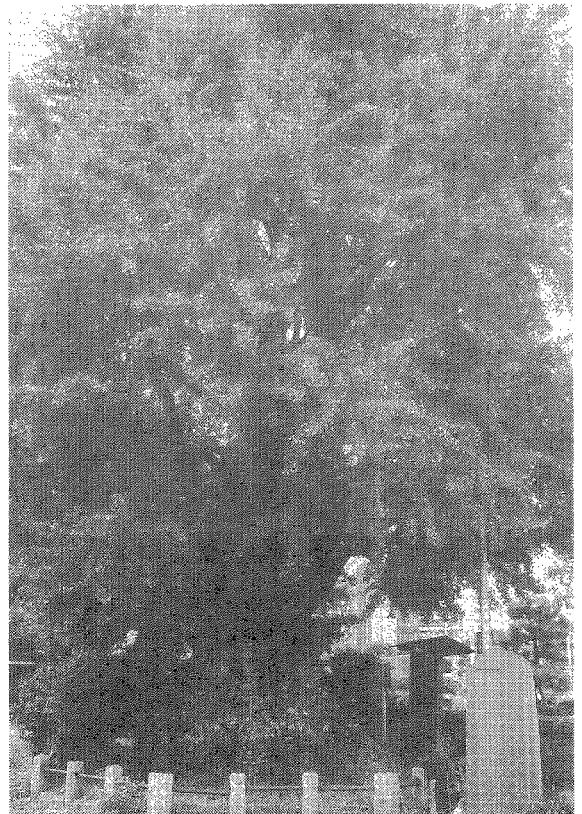
磐井神社(大-14)は「延喜式神名帳」にもその記載が見られる大変歴史のある神社である。江戸時代後半に書かれた「江戸名所図会」にも「鈴森八幡宮」の名で記録されている。そこに描かれた境内の図を見ると、境内全域に松類が多く、その中に落葉広葉樹の大木が2本、拝殿の近くに存在する。これが現在残るイチョウであろう。当時でもかなりの大木であったことが想像できる。戦災にあい、社殿すべてを消失した。御神木のイチョウの幹を見ると両方とも焼けこげている。戦災時のものと思われる。東側を交通量の多い第一京浜が走っているが、イチョウの勢いは良い。北側の個体は(DBH100~110cm、H20m)、南側の個体は(DBH130~140cm、H18m)である。



写真④

磐井神社(大-14)のイチョウ

撮影日 98. 8. 29



写真⑤

磐井神社(大-14)のイチョウ

撮影日 98. 8. 29

湯殿神社（大-22）は段丘崖の斜面上に位置している。南側の鳥居側が低く、北側の拝殿側が高くなっている。御神木は特に定めてはいないと、氏子総代さんが教えてくれたが、あまりにも立派なので、御神木的な意味を持たせたいと思い取り上げた。鳥居のすぐ内側に参道を挟んで、西側に雌木（DBH110～120cm、H30m）、東側に雄木（DBH120～130cm、H30m）が対になって配置されている。神社創建の年代は明らかではないが、いずれも創建時に植えられたものと理解されている。雌木の方がやや小さいのは実を付けるからであろうと教えてくれた。境内には他に、アカガシ、スダジイの大木が拝殿の脇の斜面上に大きな株をつくり生育している。その近くに御神木のイチヨウ並の大きさを持ったクロマツがあったが、戦前に枯れたという。



写真⑥

湯殿神社（大-22）のイチヨウ

撮影日 98. 9. 12

## (2) スダジイ（ぶな科）

スダジイを御神木とする神社は大田区内のみに存在する。DBH50cm以上の大木の分布（図8）を見ると、世田谷区内では22社（40%）に分布し、計51本、大田区内では24社（25.5%）に計56本が生育し、現存数はほとんど同じである。世田谷区の場合は区域南部に多く、北部や西部域には少ない。等々力溪谷を持つ谷沢川や呑川上流域に多いようである。大田区内では、北部の台地上の呑川流域、台地の縁の部分に位置している境内に多い。東南部の沖積低地には非常に少ない。世田谷区では同じ境内に生育するスダジイ以外の樹種が御神木になっている場合が多い。（9カ

所で見られる)

スダジイの場合は河川の段丘崖の斜面上に大木が生育し、残されている場合が多い。これは河流域の調査でも同じ傾向であった。ロームの厚く堆積する台地上には適さないであろう。

天祖神社(大-26)は都営浅草線馬込駅前の道路から斜面を上った段丘崖の斜面上に位置している。焼夷弾が落とされたので、境内はモザイク状に燃えた被害があったという。昔から馬込地区のスダジイは有名で、神社や民家に多く見られたという。自然の分布も多かったのではなかろうか。

東向きに拝殿の右手前にスダジイの大木がある(DBH95cm、H12m)。さらに鳥居付近にも同じような大きさの個体があり、御神木とされている。神社関係者のお話では樹齢150年位だろうとのことであった。以前ここでは拝殿・本殿の裏の少し高まった部分(古墳と想像されて、外から科学探査をしたが何もなかったという)に3本の大きなクロマツがあった。戦前に1本は枯れ、50年前までは、2本残っていたと言う。三本松町の地名にもなっていたことがあり、漁師が漁に出たときにこの三本松を目印に戻ってきたという。戦中は目印になっては困るというので、枝を落としたりしたらしい。境内全体はあまり広くはないが、大木が多く、斜面上の眺望の良い場所であって、なかなか雰囲気の良い境内になっている。

天祖神社(大-33)は京浜東北線大森駅前の道路の反対側の急斜面を20m位上がった段丘崖の斜面上に位置している。南東向きに拝殿の右手前に御神木のスダジイがある。建物がある場所は平坦にされているが、スダジイの右側は急斜面になっている。大木は2株3本生育している。いずれも大田区の保護樹に指定されている。(DBH90cm、H11m)(DBH80cm、H12m・DBH95cm、H10m)他に特徴のある樹種としてはタブノキがある。斜面下部の道路に近い部分に生育している。DBH85cm、H13mと大きい。若いイチョウが境内全域に植えられている。

日枝神社(大-34)は天祖神社(大-33)から少し北側に行った段丘崖の斜面上に位置している。境内にはスダジイの大木が4本と多く、その中で東向きに拝殿の左手前にひとときわ大きいスダジイが根元を石垣で囲まれて存在する。御神木であろう。DBH102cm、H11mで、南側の幹が黒く焼けている。戦災の影響かどうかは確認できなかった。他にイチョウの大木が3本生育している。さらに北隣にある円能寺境内にはDBH105cm、H28mの大イチョウがある。

子安八幡神社(大-50)は呑川左岸側の段丘崖斜面上に位置している。南向きに拝殿・本殿などの建物は階段を上り詰めたいちばん高い部分にある。その階段の両側の斜面上にスダジイの大木が5本生育している。どの個体がとは特定されていないようだが、御神木群と言えようか。DBH80、115、110、95、110cm、Hは6~10mある。拝殿の左側(西側)も急斜面になっていて、





図8 スタジイの分布



写真⑦

天祖神社（大-33）のスタジイ

撮影日 98. 8. 29



写真⑧

日枝神社（大-34）のスタジイ

撮影日 00. 8. 10



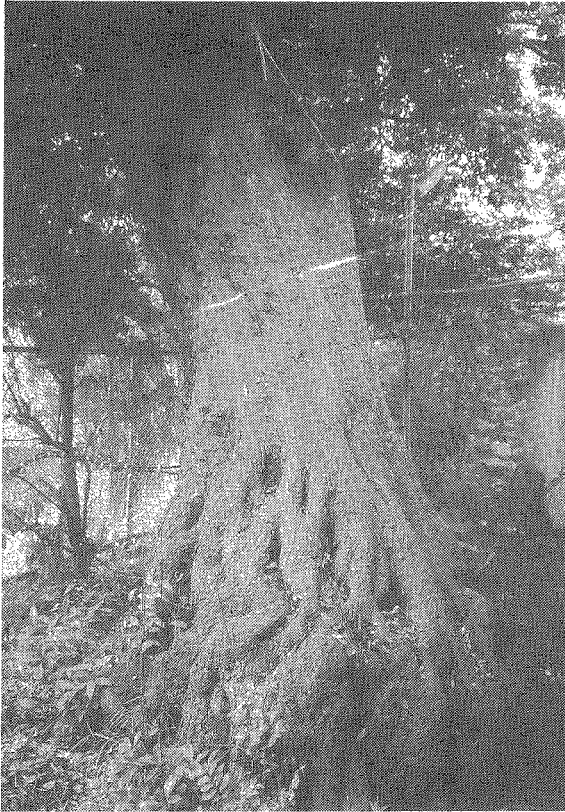
写真⑨

子安八幡神社（大-50）  
のスタジイ

撮影日 00. 4. 6

その上部にスダジイが列状に生育している。こちらは南側斜面よりもやや小さい個体が多い。

八幡神社（大-56）は南側から「宮坂」を上がり、境内に達する。境内地は平坦になっている。久ヶ原村の村社で、社伝によれば、神護元年（765）9月に宇佐八幡宮を勧請し、久ヶ原の一番高い場所に奉祀したとされている。本殿の左側（南側）にスダジイの大木がある。DBH 100cm、H10mで、境内では最も大きい。すぐ左側は斜面になっている。



写真⑩

八幡神社（大-56）のスダジイ

撮影日 00. 4. 6

若宮八幡神社（大-94）は多摩川の沖積低地の平坦地にある。御神木としてスダジイが植えられている。DBH45cm、H9mで、戦災にあっているため、境内の樹木は当時すべて失われた。戦後に植えられたもので、すべて若い個体である。

諏訪神社（大-96）は多摩川の沖積低地の平坦地にある。大戦中に境内のすべてが焼失した。残されたのは鳥居ぐらいであったという。その中で、参道沿いのイチョウ（DBH40cm、H10m）が幹が焼けた状態で今でも残っている。成長はよくない。御神木としてスダジイが植えられている。（DBH60cm、H7m）戦後に植えられたものである。境内の西側の塀沿いにサクラが列状に植えられている。同時期に植えられたものであろう。社務所に戦災で焼けた境内の写真が残さ



れている。今後、拝殿・本殿・社務所などの立て替え工事が予定されている。

### (3) ケヤキ (にれ科)

ケヤキを御神木とする神社は世田谷区内に4社、大田区内に1社存在する。ケヤキのDBH50cm以上の大木の分布(図9)を見ると、世田谷区内では40社(72.7%)に分布し、計124本、大田区内では24社(25.5%)に計56本が生育している。世田谷区域内ではほぼ全域に多数の生育が見られる。大田区内では、北部の台地上を中心に分布が見られ、低地には少ない。

八幡神社(世-5)は境内の南側を離れて丸子川が西から東に流れている。その段丘崖の斜面上に位置している。境内の範囲ははっきりしていない。近くに岡本民家園、静嘉堂文庫等がある。境内全域にイヌシデの高木が多い。特に拝殿裏側の斜面には密度が高い。アラカシ、ミズキ、アカガシ等が混じって生育して、自然的要素の多く残る境内になっている。斜面の一部を削り平坦にして、拝殿・本殿が造られている。

拝殿前には広場があり、その南端の斜面の縁にケヤキの御神木がある。DBH105cm、H20mに達する。斜面下部にはケヤキのさらに大きい個体がある。DBH115cm、H30mで大きな枝の拡がりを見せている。その近くにクロマツの枯株がある。昭和62年3月に世田谷名木百選に選ばれている。DBHは90~100cmもあり最近まで生存していたであろうと考えられる。

宇山稲荷神社(世-22)の以前の御神木はクロマツだった。拝殿の右手前、現在の社務所の前にあったという。昭和15~16年(1940~41)頃に枯れたらしい。現在の御神木のケヤキよりも大きかったが、枯株は残っていない。拝殿の左手前にあるケヤキはDBH105cm、H25mとなかなかの大木である。昔天神様の祠が根元にあったと言うから、昔から御神木だった可能性もある。

神明社(世-31)は平坦地に位置している。大木としてケヤキ、シラカシ、イチョウ、アカマツなどが見られる。御神木のケヤキは拝殿の左手前にあり、境内では最大で、幹に注連縄が巻かれている。

用賀神社(世-52)は谷沢川が西側を流れている。東急新玉川線用賀駅から東に坂を上ると境内に着く。境内の北西端にケヤキの大木があり、DBH110cm、H20mに達する。周りにはイヌシデ、ムクノキの大木群が生育している。階段を上り拝殿前の広場に出る。拝殿・本殿の裏は傾斜地になっていて、そこにはスダジイが9本まとまって生育している。自生のものとのことだが、植えた可能性がある。

雪ヶ谷八幡神社(大-46)は呑川が境内の南側を流れている。緩やかな斜面上に位置している。



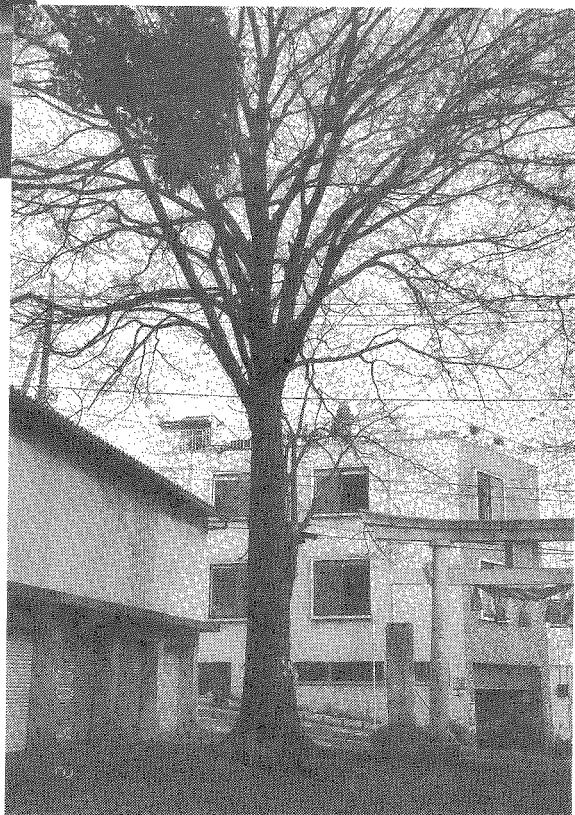
境内にはスダジイやマテバシイ等が多く生育し、鬱蒼とした景観をつくっている。拝殿・本殿から参道を鳥居の方にもどるとそばにケヤキの大木がある。幹に注連縄が張られてDBH90cm、H18mに達する御神木である。近くに他の樹木が無く勢いはよい。



写真⑪

宇山稲荷神社（世-22）のケヤキ

撮影日 00.12.10



写真⑫

雪ヶ谷八幡神社（大-46）のケヤキ

撮影日 00.4.2



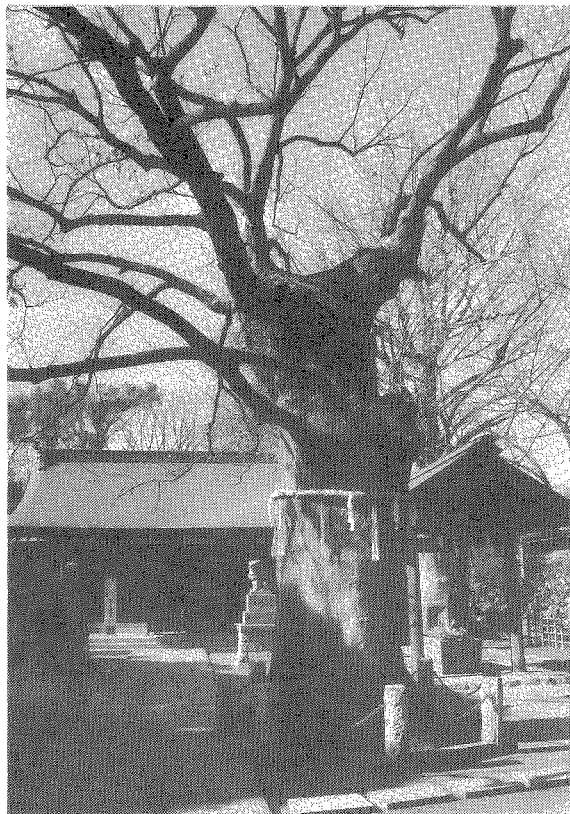
図9 ケヤキの分布





図10 クロマツの分布

新田神社（大-97）は多摩川沖積低地の平坦地に位置している。東向きの拝殿の右手前に御神木のケヤキがある。神木の周囲は柵が施され、幹には立派な注連縄が巻かれている。戦災にあっているが、ケヤキ、スダジイ、イチヨウなどの大木が残った。ケヤキはやや樹勢が良くないが、枝を伸ばしている。本殿の裏は円墳になっていて、新田善興公の御塚になっている。塚の上にはエノキの高木が多い。



写真⑬

新田神社（大-97）のケヤキ

撮影日 00. 1. 22

#### (4) クロマツ（まつ科）

クロマツを御神木とする神社は世田谷区内に4社、大田区内に1社存在する。クロマツのDBH50cm以上の大木の分布（図10）を見ると、世田谷区内では21社（36.3%）に分布し、計54本、大田区内では6社（6.4%）に計19本が生育し、世田谷区域内にかたよった分布が見られる。世田谷区の場合は区域全体に見られる。大田区内では、北部の台地上のみ見られる。以前はもっと多かったと思われるが、枯れたか、焼失し、減少したものであろう。

天祖神社（世-20）は烏山川右岸の段丘崖の斜面上に位置している。昭和51年（1976）に本殿を北側に移築した。もともと茅葺きの本殿であった。その周囲にスギが生育していた。現在の拝殿の場所にもスギがあったが枯れてしまったという。環八通りの影響なのか、今から約30年前には

スギが全滅した。当時イヌツゲも枯れた。御神木のクロマツは新しい拝殿の真正面に、少し離れた場所にある。DBH100cm、H20mで根元をカエデ、ミカン、コブシなどの樹木が囲んでいる。生育状況はよい。他にもクロマツは多く、11本が拝殿・本殿の西側、南側にまとまって配置されている。北側の公園との境にはサクラやケヤキが列状に生育している。全体に樹木の多い、鬱蒼とした境内をつくっている。



#### 写真⑭

天祖神社（世-20）のクロマツ

撮影日 00. 3. 5

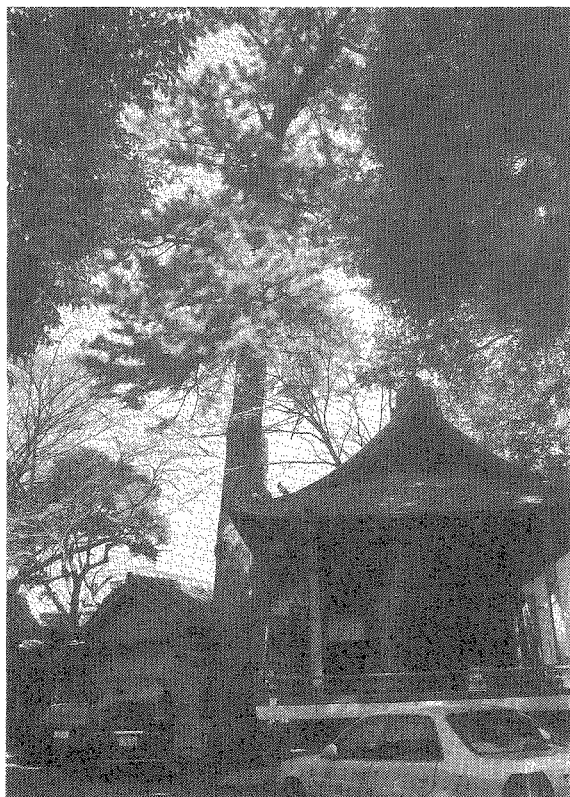
太子堂八幡神社（世-33）は烏山川右岸の段丘崖の斜面上に位置している。境内には樹木が多く、19種類、131本も生育している。中でもケヤキは多く40本ある。クロマツは3本でその中の最大の個体で、拝殿の右手前に高い枝を伸ばしている。DBH65cm、H20mである。

神明神社（世-44）は平坦地に位置し、拝殿は東向きに配置されている。北側は宝性寺、南側には船橋小学校がある。西側には少し離れて環八通りが走っている。江戸時代からあるというクロマツが御神木で、参道の両側に8本生育している。DBH60~70cm、H18~20mに達し、見事な光景をつくっている。拝殿・本殿の裏側にはヒノキの若木が多数見られ、神社独特の雰囲気を持っている。

平成2年（1990）、拝殿・本殿が過激派ゲリラによる時限発火装置付きの火炎瓶により全焼し

た。午前2時～3時頃で、管理人さんは社務所にいたという。本殿の南側にはケヤキやヒノキ、スダジイなどが多く植えられていたが、ヒノキは焼けてしまった。少し離れて生育していたケヤキやスダジイは助かったが、今でも幹が焼け焦げている。しかし、防火機能を果たし、隣の船橋小学校への類焼は防げたという。拝殿の北側にはイチョウの大木があり、火勢を止め、社務所や寺への類焼を防いでくれたという。本殿側のイチョウの幹には焼け焦げた後が残っているが、樹勢は回復している。

御嶽神社（大-51）は段丘崖の斜面上に位置している。戦争中、鳥居を中心にした南側の一部が燃えたという。御神木のクロマツは南向きの拝殿の右側にある。DBH90cm、H23mと大木である。樹齢300年と言われている。鳥居を入ると桜並木が迎えてくれ、拝殿・本殿の裏側にはスダジイ、アカガシ、シラカシ等の常緑樹が多い。さらにサカキが10本あり、参道の両側や境内社の真ん前などに植えられている。神事によく利用するとのことだった。



写真⑮

御嶽神社（大-51）のクロマツ

撮影日 99. 2. 7

六所神社（世-1）は北沢川の左岸側の段丘崖斜面上に位置している。鳥居をくぐると徐々に上がっていく。拝殿までの参道沿いにはスダジイ、シラカシ、モチノキ、アラカシなどの常緑樹が多く、暗い雰囲気をつくっている。拝殿の右側は開けて広場になっている。隣接して神社経営の幼稚園がある。御神木は境内全域に生育するアカマツとクロマツの松類であるとのことだった。



参道沿いや、鳥居の外側のやや東寄りの境内の境界に沿って大木が高い幹を持って存在する。30種類、126本も生育し、ウラジロガシの生育が見られるのは珍しい。

#### (5) ムクノキ (にれ科)

ムクノキを御神木とする神社は世田谷区内に1社、大田区内に1社存在する。ムクノキのDBH 50cm以上の大木は世田谷区内では11社(20%)に分布し、計15本、大田区内では6社(6.4%)に計6本が生育している。

須賀神社(世-15)では御神木がムクノキの大木(DBH110cm、H20m)で、他にケヤキの大木が本殿を囲んでいる。本殿は盛土されて高くなった部分に位置している。東向きの神社で南側には広場があり南の端に建物がある。その南側には古墳が残されている。説明文があり、古墳の表面にはモウソウチク林がある。

道々橋八幡神社(大-47)の境内は平坦地になってはいるが、北に、南に緩やかに下がっている。拝殿の左手前にムクノキの大木があり、注連縄が巻かれている。DBH90cm、H18mに達する。他にはスダジイ、クスノキ、ケヤキ、サクラ等の大木が散在している。



写真⑩

八幡神社(大-47)のムクノキ

撮影日 00. 4. 6

(6) カヤ (いちい科)

カヤを御神木とする神社は世田谷区内に1社のみ存在する。カヤのDBH50cm以上の大木は世田谷区内では4社(7.3%)に分布し、計4本、大田区内では2社(2.1%)に計2本が生育しているのみである。

八幡社(世-40)は平坦地に位置している。御神木的な役割を持つ樹木としてカヤ(DBH35cm、H15m)を考えているとの説明が管理を委託されている方からあった。以前、拝殿西側の社務所の裏側にイチョウの大木があったというが、詳しいことは分からない。境内の樹木の枝が強く剪定されているのが気になった。特にイチョウに対する苦情が多かったという。

(7) クスノキ (くすのき科)

クスノキを御神木とする神社は世田谷区内に1社のみ存在する。クスノキのDBH50cm以上の大木の分布(図11)を見ると、世田谷区内では14社(25.5%)に分布し、計28本、大田区内では10社(10.6%)に計17本が生育している。世田谷区域内ではほぼ全域にまばらに生育が見られる。大田区内では、北部の台地上を中心に分布が見られ、低地にはない。

池尻稲荷神社(世-58)は昭和37年(1962)東京オリンピック開催に伴う国道拡幅のため、境内地の一部が買収され、縮小境内地に社務所、町内御奥庫を再建した。昭和38年(1963)社殿の地上げ工事等を行った。前宮司の奥様に色々とお教えていただいた。昭和24年(1949)にお嫁にきた頃には境内にクロマツがあった。昭和36~37年、(1961~62)国道拡幅の時にケヤキの大木3本を伐採した。クロマツは参道沿いに残っていたが、昭和30年代には枯れた。

拝殿右手前にあるイチョウの切り株は平成12年(2000)に伐採したものである。成長に伴い盛り土した石垣に影響が出たためである。社務所の右側にスダジイの大木があったが降雪で幹が折れ、枯れたので伐採した。

玉川通り沿いにクスノキの切り株(DBH100cm)がある。そばに塀があり危険なので3年前に伐採したと言う。境内地は小高い丘の上であり、昔は本殿の裏手は沼地になっていたという。周辺は田んぼや畑地であった。昭和の初め頃はススキの原が北東部にある三宿神社のあたりまで広がっていたという。現在の御神木としては拝殿の真正面にあるクスノキが選ばれている。DBH55cm、H15mで良く枝を広げている。ただし、本殿の左側にケヤキの大木(DBH100cm、H22m)があり、この幹にも注連縄が巻かれている。イチョウの多いのも特徴がある。

(8) サワラ (ひのき科)

サワラを御神木とする神社は世田谷区内に1社のみ存在する。サワラのDBH50cm以上の大木は世田谷区内では4社(7.3%)に分布し、計4本、大田区内には見られない。



久富稲荷神社（世-27）は平坦地に位置している。北側にある道路から長い参道を南に行くと、拝殿がある。以前は参道沿いに樹木が多かったというが、現在ではイチョウが散在しているだけで、住宅の中の裏通りのようである。拝殿・本殿の裏に御神木のサワラがある。昔は周辺の樹木の中で際だって背が高かったという。落雷があり幹が2つに裂けて危ないので幹全体に布が巻き付けてある。珍しい光景である。さらに軽くするために上部を切断した。DBH65cmで、上部がなく、樹高は15mである。昔はスギ、ヒノキなどが多かったが枯れてしまい、残った中で大きく、本殿の後方にあるので御神木にしたのだという。建物の周囲には他にスダジイ、イチョウ、エノキなどが生育している。

#### (9) スギ（すぎ科）

スギを御神木とする神社は世田谷区内に1社のみ存在する。生存する大木は境内にはまったく見られない。

羽根木神社（世-41）は平坦地に位置している。昔「北原の御稲荷様」と言われていた。江戸時代にはすでに現在地に鎮座していた。昭和20年（1945）5月、戦災により全焼した。御神木のスギはその時燃えて枯れた。しかし以後も御神木として大切に保存している。DBH83cmで、上部がなく樹高は8mしかない。そばにスダジイの生存木と焼けて枯れた切り株が残っている。その他、サクラ、イチョウ、ケヤキ等の大木が目立つ。

#### (10) タブノキ（くすのき科）

タブノキを御神木とする神社は大田区内に1社のみ存在する。タブノキのDBH50cm以上の大木は大田区では5社（5.3%）に分布し、計9本、世田谷区内の境内には見られない。

白山神社（大-52）は段丘崖の斜面上に位置している。境内に樹木は多くないがその中でひときわ目立つのが拝殿の左側（北側）にある御神木のタブノキである。DBH130cmで、Hは12mである。中心の幹は枯れて、皮層から出た枝がそれを包み込み、遠くから見れば樹勢の良い個体に見える。実際葉量も多く多数の枝を伸ばしている。他は若い樹木がほとんどで、戦災の影響が大きいと思われる。

#### (11) ホウノキ（もくれん科）

ホウノキを御神木とする神社は世田谷区内に1社のみ存在する。大田区内の境内には見られない。

稲荷神社（世-45）の境内は平坦地にある。すぐ南側を京王線が走っている。境内の樹木の大部



図11 クスのノキの分布

分は昭和7年(1932)に拝殿・本殿を建設したとき以降に植えたものである。その中で御神木のホウノキとクロマツ、スダジイは江戸時代以来のものである。以前の境内は杉林であったという。現在京王線の南側に浄水場があるが、その一部を含み、京王線の線路、東側にある墓地も境内地であったという。村の西はずれに建てられたものである。浄水場のあたりにも杉林があった。戦災にはあっていない。羽根木神社が南側にあるが、この神社から南側が戦災にあっている。ホウノキを御神木とする境内は中流域の多摩地域の調査、世田谷区、大田区以外の23区域においても見られず、これまでの調査ではこしかな珍しい存在である。中心部の本体は枯れていて、萌芽が2本出ている。昭和40年(1965)頃から弱り始め、昭和47年(1967)までは花をつけていたが、上部から徐々に枯れていった。枯株の大きさはDBH85×65cmで、2m位の高さで伐られて残っている。萌芽した個体はDBH11cm、H8m、DBH12cm、H8mにまで成長している。御神木以外では、本殿の裏にあるスダジイが大きい。DBH90cm、H18mで、以前は2本あったが1本伐採したという。境内の南西角にイチョウの大木が生育している。以前はそのすぐそばにクロマツの大木があった。京王線の線路上に枝がかかり危ないので伐採した。イチョウの未来も心配である。

#### 大木の分布(世田谷区・大田区)

境内に分布するDBH50cm以上の大木に注目して、作成したのが表6と図12である。図中の大きな丸は境内に大木が10本以上生育する場合、小さな丸は1～9本生育することを示している。多摩川下流域では戦災の影響が大きいので、図にそのほとんどの地域が戦災にあった地域を破線で表示した。(戦災地域図による)図中の破線から右側(東側)では全域戦災にあって焼失している。中には境内が樹木の存在で戦災を免れている場合もある。もちろん左側(西側)地域でも部分的に戦災にあってはいるが、図には表示していない。また、世田谷区域では戦災の影響は大田区域ほど全面的ではなかったので表示しなかった。

世田谷地域ではほとんどの境内(94%)に大木が存在し、大田区の場合は35社(38%)に大木が1本も生育していなかった。大木はイチョウ、ケヤキ、スダジイ、クロマツなど32種類、850本が生育していた。そのうち世田谷区内には全体の約63%が生育している。大田区内に大木が少ないことが分かる。その原因は戦災その他の要因が大きく影響していると考えられる。これに関して大田区の六郷神社宮司の鈴木武司さんが経験をふまえて教えてくれたので、紹介したい。

六郷神社(大-77)は戦災にはあっていない。本殿の後方にスギやケヤキの大木があったが、昭和30年代(1955)の初め頃すべてが枯れたという。昔からの樹木で残っているのは、神門前のクロマツとケヤキ、本殿前のクスノキとケヤキの4本ぐらいらしい。枯れた理由は京浜工業地帯の出す汚染物質による大気汚染と地下水汲み上げによる地下水位の低下が原因と考えられる。当

表6 世田谷・大田区の大木分布

	種 名	現存数
1	イチョウ	184
2	ケヤキ	180
3	スダジイ	107
4	クロマツ	73
5	サクラ	72
6	クスノキ	45
7	シラカシ	31
8	イヌシデ	30
9	アカガシ	22
10	ムクノキ	21
11	ヒマラヤスギ	11
12	タブノキ	11
13	エノキ	11
14	アカマツ	11
15	カヤ	6
16	アラカシ	6
17	メタセコイア	4
18	ミズキ	4
19	サワラ	4
20	ヒノキ	2
21	トネリコ	2
22	コナラ	2
23	クヌギ	2
24	モッコク	1
25	ポプラ	1
26	ツクバネガシ	1
27	スズカケノキ	1
28	シダレヤナギ	1
29	カツラ	1
30	ウラジロガシ	1
31	アカメガシワ	1
32	アカシデ	1
	計	850

世田谷区

	種 名	現存数
1	ケヤキ	124
2	イチョウ	101
3	クロマツ	54
4	スダジイ	51
5	サクラ	45
6	クスノキ	28
7	イヌシデ	27
8	シラカシ	24
9	ムクノキ	15
10	アカガシ	12
11	アカマツ	11
12	エノキ	7
13	アラカシ	6
14	ヒマラヤスギ	5
15	カヤ	4
16	サワラ	4
17	メタセコイア	3
18	クヌギ	2
19	コナラ	2
20	タブノキ	2
21	トネリコ	2
22	ヒノキ	2
23	アカシデ	1
24	アカメガシワ	1
25	ウラジロガシ	1
26	カツラ	1
27	ツクバネガシ	1
28	モッコク	1
	計	537

大 田 区

	種 名	計
1	イチョウ	83
2	ケヤキ	56
3	スダジイ	56
4	サクラ	27
5	クロマツ	19
6	クスノキ	17
7	アカガシ	10
8	タブノキ	9
9	シラカシ	7
10	ムクノキ	6
11	ヒマラヤスギ	6
12	ミズキ	4
13	エノキ	4
14	イヌシデ	3
15	カヤ	2
16	メタセコイア	1
17	スズカケノキ	1
18	ポプラ	1
19	シダレヤナギ	1
	計	313

大木率(%)	0	0～9	10	20	30	40	50	60	計
世田谷区	3	10	23	10	3	1	0	1	51
大田区	35	22	20	10	4	0	1	0	92
計	38	32	43	20	7	1	1	1	143



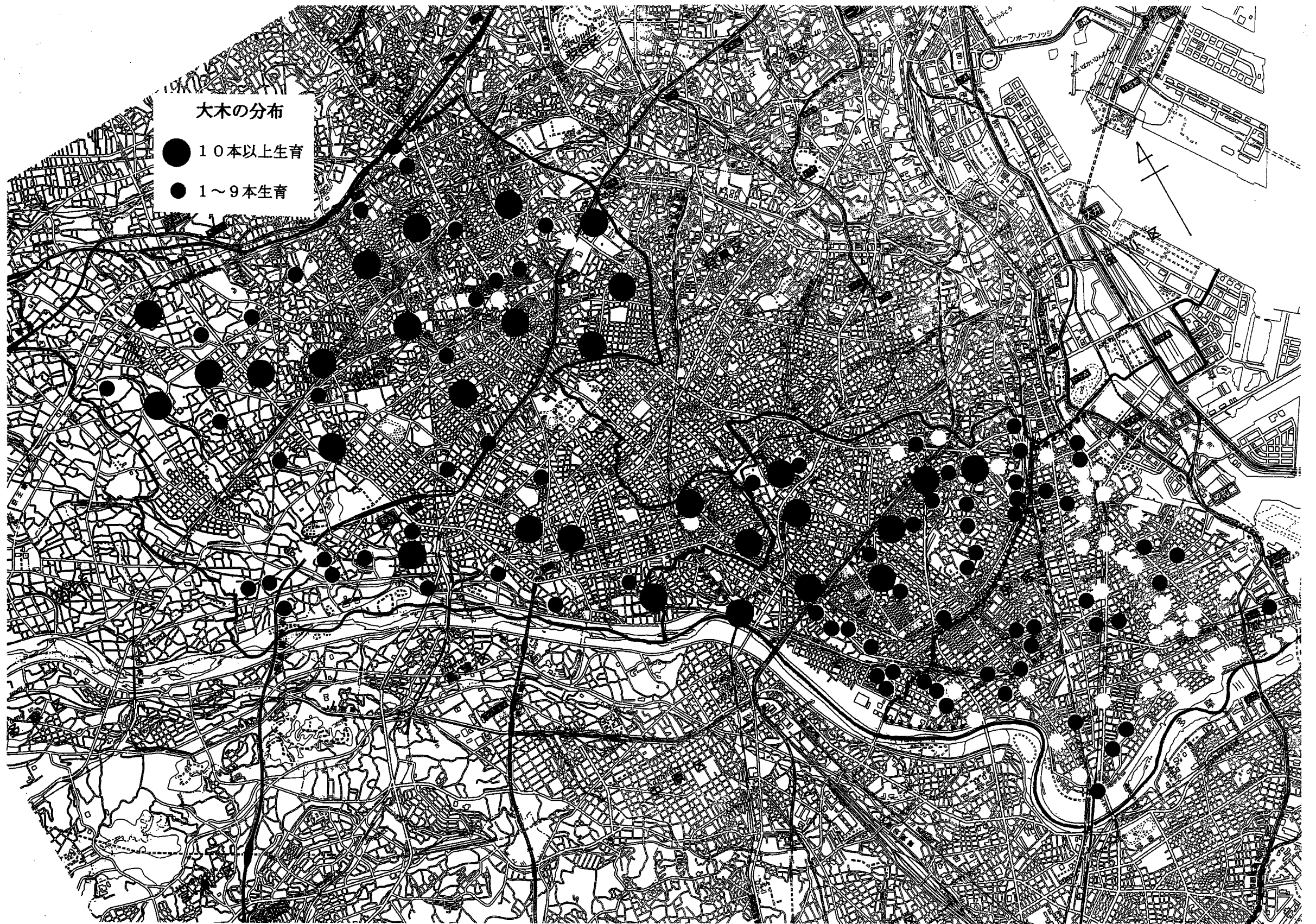


図12 世田谷区・大田区の大木の分布



時川崎の工業地帯ではコークスや石炭を燃料としていたので、汚染は相当なもので、雨風によって、六郷地区にやってきたという。

戦災によって大田区の半分以上の神社の境内の樹木は焼失した。残った樹木も昭和30年（1955）頃から40年代（1965）前半にかけて公害による打撃を受けて大木が枯死していった。そのころは境内に何を植えても根付かなかつたが、唯一成長の良かった樹種がイチョウである。色々なところから苗や成長した個体をゆずりうけて境内に植えたという。一時期イチョウが大変目立つ神社になってしまった。問題もあった、秋から冬にかけて葉を落としてしまうことである。落ち葉の処理も大変だし、明るくなりすぎる境内も神社にはふさわしくない。イチョウを伐採して他の樹種に変えていく作業を行った。イチョウは輪切りにして境内に放置しておく、根が出て活着し、芽も出て根付いてしまうほどの生命力の豊かな樹木である。

「スモッグ注意報」が出て、どんよりとした空が広がる東京、光化学スモッグによる児童生徒が倒れた時代、実は境内の樹木達はそれ以前から枯死化が進行していた。我々に警報を発しつつづけていたが、一部の人にしか伝わっていなかったことになる。と教えてくれた。

図の破線の右側地域にも現在大木の存在が見られる。24社でその内容を検討すると、66本の中で、イチョウが28本（42.4%）生育している。他で多いのは、スタジイ、タブノキ、ケヤキなどである。

### 3. 特徴種の境内における分布

境内に生育する樹木全125種について、種類別に現存数、出現頻度をまとめたものが表7である。最も高い頻度で見られるのがイチョウである。（91.3%—世田谷区出現頻度2位—87.3%、大田区出現頻度1位—93.6%）イチョウは日本には自生がないので、すべて植えられたものである。ケヤキも全域に広く見られ、特に世田谷区内では出現頻度1位（94.5%）で、境内だけではなく、屋敷林、公園、雑木林等に一般的に生育が見られる。サクラも多く植えられていることがわかる。スタジイは自然に生えたものと植えられたものが混在していると思われるが、その区別はなかなか難しい。大田区内で出現頻度3位—74.5%、現存数—447本、世田谷区内では出現頻度4位—67.3%、現存数—192本と、大田区内でかなり多くなっている。自然の生育分布に近い環境が大田区には多いことが考えられる。

さらに、クロマツ、クスノキ、サカキ、シラカシ、サワラ、ウメ、エノキ、ムクノキ、モチノキ、ヒノキ、カエデ、カヤ等、境内にあって、出現頻度の高い樹種、現存数の多い樹種、神木などとして特別に扱われている樹種の中から代表的な16種類を選び、神社の拝殿・本殿や参道・鳥居などを中心にどの位置に存在（自生、植栽は区別しない）するのかを調べて、それぞれの樹種が神社においてどのような役割を持っているのか理解しようと考えた。

まず図13のように境内を11区画に分けた。樹種ごとに、神社別にどの区画に生育しているかを集計した。境内において複数のポイントに生育する場合はすべてカウントした。全11区画を100%

表7 境内樹木の種類別出現頻度と現存数(143神社)

No.	種名	現存数	出現数	出現頻度(%)	No.	種名	現存数	出現数	出現頻度(%)
1	イチヨウ	762	136	91.3	64	ハナミズキ	6	5	3.4
2	ケヤキ	666	116	77.9	65	イイギリ	7	4	2.7
3	サクラ	619	110	73.8	66	エンジュ	5	4	2.7
4	スダジイ	639	107	71.8	67	カクレミノ	8	4	2.7
5	クロマツ	311	72	48.3	68	キョウチクトウ	9	4	2.7
6	エノキ	200	67	45.0	69	マユミ	5	4	2.7
7	クスノキ	267	67	45.0	70	イヌマキ	3	3	2.0
8	カエデ	110	62	41.6	71	ウバメガシ	8	3	2.0
9	モチノキ	178	60	40.3	72	クロガネモチ	8	3	2.0
10	シュロ	120	57	38.3	73	タラヨウ	4	3	2.0
11	カヤ	112	56	37.6	74	チャボヒバ	3	3	2.0
12	サカキ	206	55	36.9	75	トウカエデ	3	3	2.0
13	サワラ	251	55	36.9	76	トウヒ	3	3	2.0
14	シラカシ	223	55	36.9	77	ボブラ	4	3	2.0
15	ウメ	147	52	34.9	78	モミ	3	3	2.0
16	ムクノキ	125	51	34.2	79	ユズ	3	3	2.0
17	ヒノキ	268	48	32.2	80	イヌザクラ	2	2	1.3
18	マテバシイ	169	44	29.5	81	オニグルミ	2	2	1.3
19	ヒマラヤスギ	98	39	26.2	82	カツラ	9	2	1.3
20	トウネズミモチ	111	38	25.5	83	クヌギ	3	2	1.3
21	イヌツゲ	67	37	24.8	84	シャラノキ	2	2	1.3
22	モッコク	68	36	24.2	85	ニガキ	2	2	1.3
23	ヒサカキ	130	31	20.8	86	ニセアカシア	2	2	1.3
24	アオギリ	46	30	20.1	87	ヒイラギモクセイ	6	2	1.3
25	ツバキ	56	27	18.1	88	ヒメジャラ	2	2	1.3
26	アカマツ	34	25	16.8	89	ビワ	3	2	1.3
27	イヌシデ	89	25	16.8	90	ホウノキ	5	2	1.3
28	アカガシ	84	22	14.8	91	ヤブニッケイ	2	2	1.3
29	スギ	35	22	14.8	92	ヤマナシ	2	2	1.3
30	サンゴジュ	66	21	14.1	93	イスノキ	3	1	0.7
31	ラカンマキ	26	20	13.4	94	イチイ	1	1	0.7
32	キンモクセイ	37	19	12.8	95	イヌガヤ	1	1	0.7
33	ミズキ	32	18	12.1	96	ウラジロガシ	1	1	0.7
34	ヤマモモ	46	17	11.4	97	オオシマザクラ	1	1	0.7
35	タブノキ	36	16	10.7	98	オガタマノキ	1	1	0.7
36	シダレヤナギ	23	15	10.1	99	カシワ	1	1	0.7
37	メタセコイア	22	15	10.1	100	カリン	1	1	0.7
38	カキノキ	17	13	8.7	101	キャラボク	2	1	0.7
39	ヒイラギ	23	13	8.7	102	キリ	1	1	0.7
40	ゲッケイジュ	45	12	8.1	103	クワ	2	1	0.7
41	タイサンボク	16	12	8.1	104	コウゾ	1	1	0.7
42	サルスベリ	12	11	7.4	105	コウヤマキ	1	1	0.7
43	ヒバ	13	11	7.4	106	ゴヨウマツ	1	1	0.7
44	ミカン	12	11	7.4	107	サイカチ	1	1	0.7
45	コブシ	14	10	6.7	108	ザクロ	1	1	0.7
46	サザンカ	18	10	6.7	109	サンシュユ	1	1	0.7
47	アラカシ	35	9	6.0	110	シャクナゲ(西洋)	1	1	0.7
48	シロダモ	10	9	6.0	111	ツクバネガシ	1	1	0.7
49	スズカケノキ	20	9	6.0	112	トネリコ	3	1	0.7
50	フジ	12	9	6.0	113	トベラ	1	1	0.7
51	コナラ	16	8	5.4	114	ナギ	3	1	0.7
52	カイズカイブキ	38	7	4.7	115	ナンキンハゼ	1	1	0.7
53	カナメモチ	10	7	4.7	116	ニワウルシ	1	1	0.7
54	ネズミモチ	7	7	4.7	117	ニワトコ	1	1	0.7
55	アカシデ	14	6	4.0	118	ハクモクレン	1	1	0.7
56	エゴノキ	11	6	4.0	119	ハルニレ	1	1	0.7
57	ボダイジュ	14	6	4.0	120	ヒムロ	1	1	0.7
58	モクレン	10	6	4.0	121	ヒメリンゴ	1	1	0.7
59	ユズリハ	7	6	4.0	122	ムクロジ	1	1	0.7
60	アカメガシワ	6	5	3.4	123	モウソウチク	1	1	0.7
61	アキニレ	6	5	3.4	124	モモ	1	1	0.7
62	シダレザクラ	6	5	3.4	125	ヤマハンノキ	1	1	0.7
63	ソテツ	5	5	3.4		合計	7040		

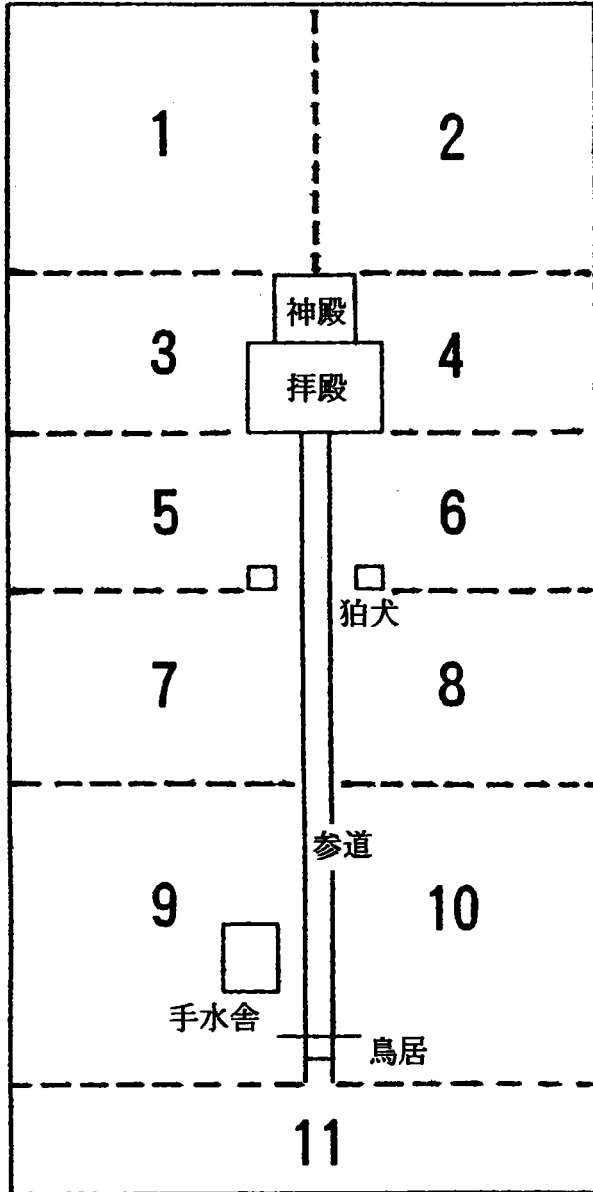


図13 境内区画図

として、区画ごとの配置ポイント総数から、区画ごと、種類別に％を計算した。その結果を示したのが表8である。

この表を基にして、区画ごとの（％）を円の大きさと表現したものが図14と15である。図中で黒く塗りつぶしてあるのは、11区画の中で（％）の多い順に第1位と第2位を示したものである。3個あるのは同じ（％）のものが存在したためである。

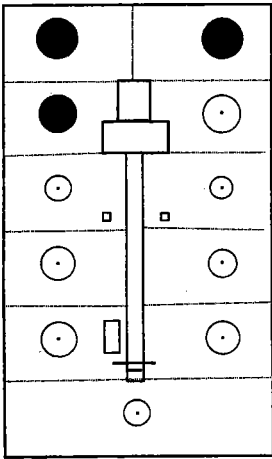
表8 境内における樹木の配置（樹種別）

(表内の数字は出現ポイント数を示す)

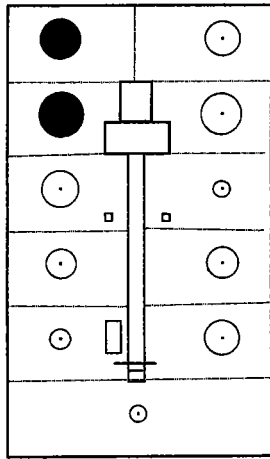
	位置	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	調査 ポイント数
1	イチョウ	31	32	34	45	26	21	42	45	30	35	49	390
2	ケヤキ	24	22	28	29	16	30	27	29	31	34	22	292
3	サクラ	23	14	11	22	17	18	24	28	36	39	27	259
4	スダジイ	31	25	28	27	17	15	28	32	18	23	9	253
5	クロマツ	11	8	17	9	16	11	21	17	19	24	10	163
6	クスノキ	9	10	16	16	12	10	12	14	12	20	3	134
7	サカキ	4	4	12	10	26	25	12	17	8	10	2	130
8	シラカシ	12	15	11	17	8	7	11	9	10	15	5	120
9	サワラ	10	13	23	11	6	5	10	8	10	10	7	113
10	ウメ	2	1	10	6	7	12	11	15	9	13	11	97
11	エノキ	15	11	14	9	7	6	7	4	14	8	2	97
12	ムクノキ	13	13	11	10	5	4	8	6	9	8	5	92
13	モチノキ	9	4	15	5	5	2	8	8	9	9	10	84
14	ヒノキ	12	8	14	11	10	2	6	7	3	8	2	83
15	カエデ	7	3	9	9	4	6	9	3	11	7	7	75
16	カヤ	5	3	6	7	5	5	9	8	5	4	8	65
		218	186	259	243	187	179	245	250	234	267	179	2447

(表内の数字は%を示す)

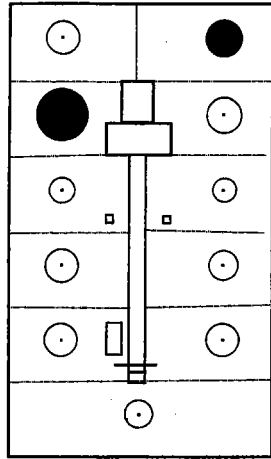
	位置	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	調査 ポイント数
1	イチョウ	7.9	8.2	8.7	11.5	6.7	5.4	10.8	11.5	7.7	9.0	12.6	390
2	ケヤキ	8.2	7.5	9.6	9.9	5.5	10.3	9.2	9.9	10.6	11.6	7.5	292
3	サクラ	8.9	5.4	4.2	8.5	6.6	6.9	9.3	10.8	13.9	15.1	10.4	259
4	スダジイ	12.3	9.9	11.1	10.7	6.7	5.9	11.1	12.6	7.1	9.1	3.6	253
5	クロマツ	6.7	4.9	10.4	5.5	9.8	6.7	12.9	10.4	11.7	14.7	6.1	163
6	クスノキ	6.7	7.5	11.9	11.9	9.0	7.5	9.0	10.4	9.0	14.9	2.2	134
7	サカキ	3.1	3.1	9.2	7.7	20.0	19.2	9.2	13.1	6.2	7.7	1.5	130
8	シラカシ	10	12.5	9.2	14.2	6.7	5.8	9.2	7.5	8.3	12.5	4.2	120
9	サワラ	8.8	11.5	20.4	9.7	5.3	4.4	8.8	7.1	8.8	8.8	6.2	113
10	ウメ	2.1	1.0	10.3	6.2	7.2	12.4	11.3	15.5	9.3	13.4	11.3	97
11	エノキ	15.5	11.3	14.4	9.3	7.2	6.2	7.2	4.1	14.4	8.2	2.1	97
12	ムクノキ	14.1	14.1	12.0	10.9	5.4	4.3	8.7	6.5	9.8	8.7	5.4	92
13	モチノキ	10.7	4.8	17.9	6.0	6.0	2.4	9.5	9.5	10.7	10.7	11.9	84
14	ヒノキ	14.5	9.6	16.9	13.3	12.0	2.4	7.2	8.4	3.6	9.6	2.4	83
15	カエデ	9.3	4.0	12.0	12.0	5.3	8.0	12.0	4.0	14.7	9.3	9.3	75
16	カヤ	7.7	4.6	9.2	10.8	7.7	7.7	13.8	12.3	7.7	6.1	12.3	65
	出現数	218	186	259	243	187	179	245	250	234	267	179	2447
	平均	9.2	7.5	11.7	9.9	7.9	7.2	10.0	9.6	9.6	10.6	6.8	



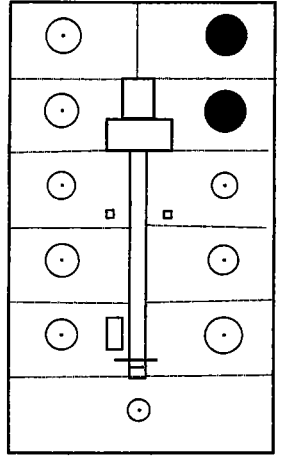
ムクノキ  
(落葉広葉樹-にれ科)



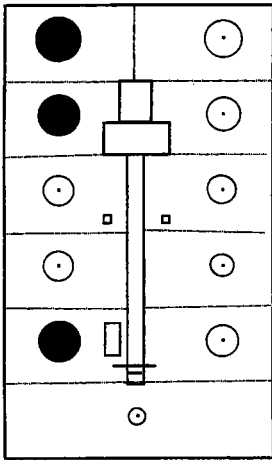
ヒノキ  
(常緑針葉樹-ひのき科)



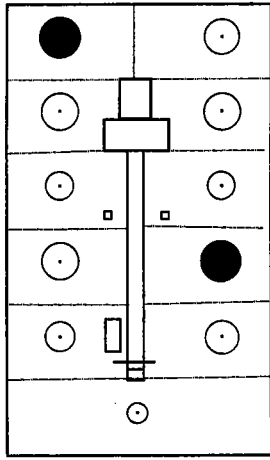
サワラ  
(常緑針葉樹-ひのき科)



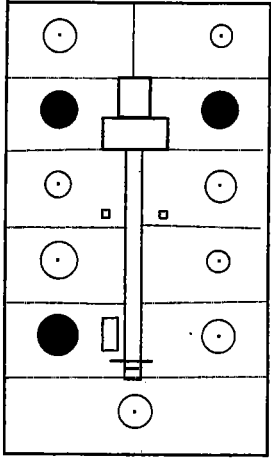
シラカシ  
(常緑広葉樹-ぶな科)



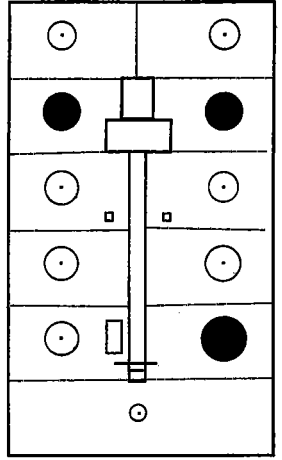
エノキ  
(落葉広葉樹-にれ科)



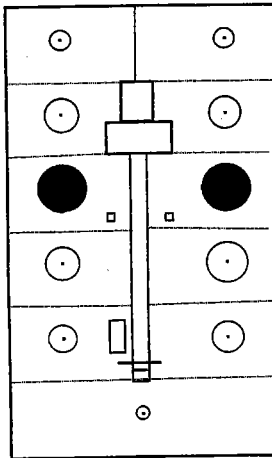
スダジイ  
(常緑広葉樹-ぶな科)



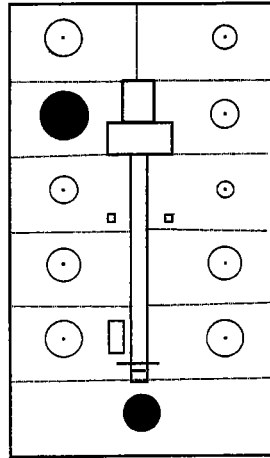
カエデ  
(落葉広葉樹-かえで科)



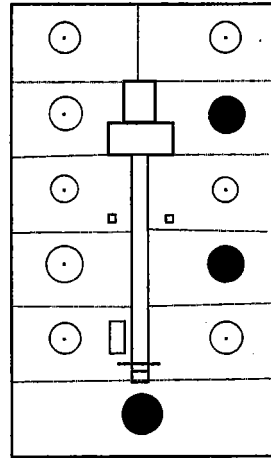
クスノキ  
(常緑広葉樹-くすのき科)



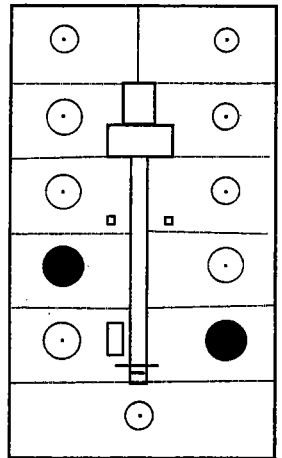
サカキ  
(常緑広葉樹-つばき科)



モチノキ  
(常緑広葉樹-もちのき科)



イチヨウ  
(落葉広葉樹-いちよう科)



クロマツ  
(常緑針葉樹-まつ科)



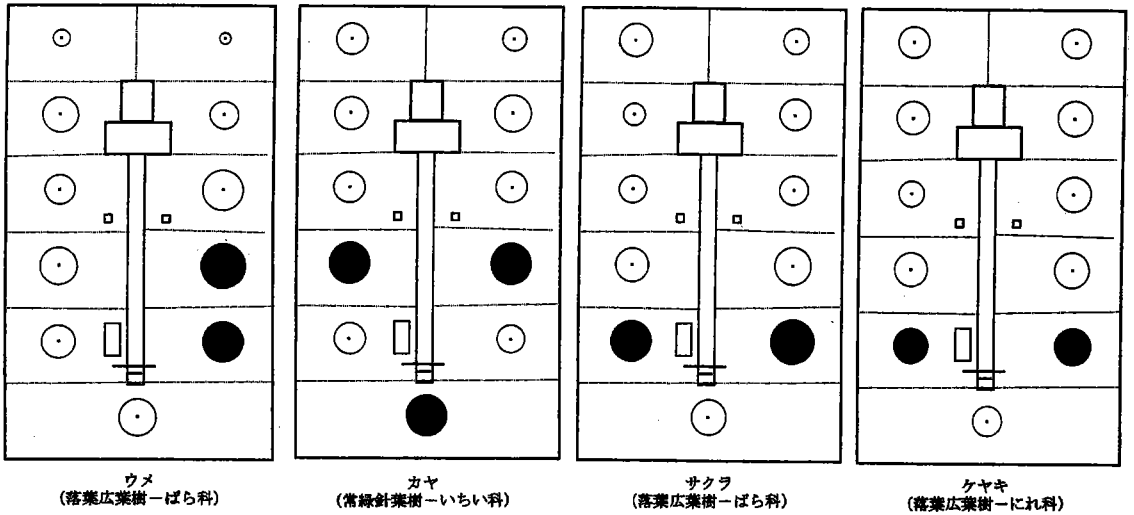


図15

この図からその樹種が多摩川下流域の神社の場合、境内のどの位置に主に植えられ、または自生により成長したものを保存しているかを一目で理解することができる。

拝殿・本殿などの建物を包み込むようにその後方に植えられているのがムクノキ、ヒノキ、サワラ、シラカシ、エノキ、スダジイの6種類である。エノキとムクノキを除けば、他は常緑樹である。中流域の境内とほとんど共通している。違いは下流域にはスギがほとんど見られないことである。常緑樹が多く、いずれも年間を通じて、建物を厳かな雰囲気を中心におくため、全体を暗くしておくことが目的ではなかろうか。

拝殿・本殿等の建物のすぐそばに配置されているのが、カエデ、クスノキなど、拝殿の前にあって狛犬との間に参道を挟んで対に植えられているのがサカキである。それぞれ20.0%、19.2%と他の場所に比べて非常に多い。サカキの定位置と考えられる。サカキは神木の代表的樹種で神社の各種行事などにも、その枝が使われることが普通である。ちなみに中流域ではそれぞれ20.4%、17.3%であった。

モチノキ、イチョウ、クロマツなどは拝殿の前から鳥居までの参道沿いに植えられている場合が多い。そして、ウメ、カヤ、サクラ、ケヤキなどは神社の境内の入り口周辺、鳥居の近くなどに多く植えられている場合が多い。サクラとケヤキは中流域と共通している。常緑樹のカヤが入り口周辺に多いが、調査ポイントが65個と最も少なかった。境内全域に分布しているようである。境内の入り口周辺は下流域ではサクラとケヤキが迎えてくれる。

#### 4. 主な神社の境内における樹木配置について

調査した149社の中から、広い境内に多数の樹木が生育し、豊かな鎮守の森をつくっている15社（世田谷区11社、大田区4社）を選び、【神社の由来】や【境内の樹木の特徴】をまとめた。より具体的に境内の様子を理解できるように、境内の建物と樹木の配置を示す図を作成した。ただし、樹木配置が中心なので、境内面積等は正確には描けていない。どんな種類が、どんな大きさ（DBH）で、境内のどの場所に生育しているかを表記した。

配置図内の記号と植物名に表記については図16のようにした。種類別にDBH（cm）の分布を作成し、表（種類組成とDBH分布）にまとめた。






















	無記名ーシラカシ		無記名ーヒノキ
	アカガシ		アカマツ
	アラカシ		クロマツ
	クスノキ		ヒマラヤスギ
	スタジイ		スギ
	タブノキ		狛犬
	ヒサカキ		灯籠
	マテバシイ		手水舎
	モチノキ		
	無記名ーケヤキ		
	イチョウ		
	サクラ		
	ムクノキ		

図16 境内の樹木配置図の記号と植物名の説明

(1) 六所神社（世-1）赤堤 2-25-2

【神社の由来】

天正12年（1584）12月、平貞盛の数世の孫が、府中の六所宮（現大国魂神社）を勧請、遷宮し赤堤総鎮守と定め、服部家の祈願所として奉斎する。昭和31年（1956）より、区の認可を得て、教化事業として、赤堤幼稚園を設立した。

【境内の樹木の特徴】

若い宮司さんに色々教えていただいた。境内は北沢川の左岸側の段丘崖斜面上に位置している。境内にはたくさんの樹木が生育している。先代の宮司さんが植えたり、大切に保護育成した結果であるという。アカマツやクロマツを含めて松類を御神木としている。特定の個体を決めてはいない。境内の北側の地名は「松原」、以前は特にアカマツやクロマツが多かったという。「赤堤」という地名は、ローム層が露出していて、赤い土手があったのでその名が付いたという。昔はスギが境内に沢山生育していた。現在は若いスギが数本あるのみで、大きくは成長しないという。どの樹木も自然の樹形で、枝が良く伸びていて、林内は暗くなっている。常緑の低木であるアオキ、ヒサカキ、ネズミモチ、シュロ、イヌツゲなどの実生が多く生育して、多層社会を形成している。ウラジロガシの高木が見られるのも特徴がある。全体に落ち着いた雰囲気を作り出している。（図17）

種名・DBH	10	20	30	40	50	60	計								
シラカシ	2	6	3	5	2	1	19	サクラ			2			1	3
サワラ	9	5	2				16	サルスベリ		1					1
モチノキ	10	1					11	エノキ	1	1					2
クスノキ	1	3	5	1			10	イチョウ				1	1		2
クロマツ	1	1		4	1	1	8	アカマツ					1	1	2
ケヤキ	1	1	3		2		7	ムクロジ	1						1
カエデ	3	3		1			7	トベラ	1						1
スダジイ			1		3	1	5	シロダモ	1						1
シュロ	3	2					5	キンモクセイ	1						1
サカキ	3	2					5	カヤ	1						1
イヌシデ	2	1		1			4	エゴノキ		1					1
ムクノキ			2		1		3	ウラジロガシ				1			1
ヒサカキ	3						3	ウメ		1					1
スギ	3						3	イヌツゲ	1						1
								アラカシ	1						1
								世-1	49	29	18	14	11	5	126



(2) 奥澤神社（世－6）奥沢5－22－1

【神社の由来】

室町期創建。奥沢城主大平出羽守の勧請と伝えられている。旧奥沢村の鎮守。

【境内の樹木の特徴】

境内の樹木について、宮司の長谷川康夫さんにいろいろ教えていただいた。大変樹木を大切に保護育成されている方である。御神木はと尋ねると、拝殿の左（西側）にあるイチョウの大木（DBH100cm、H20m）とのこと、樹齢は分からないがかなり古い。南側にさらにDBHの大きいイチョウがあるが、まだ200年は経っていないとのこと、御神木よりは若い。宮司さんのお話では、神木の樹肌はのっぺりして成長が止まっている。それに対して南側の個体は幹の樹肌の溝が深く、今なお成長中であるとのこと、いずれも境内の日当たりの良いところに位置しているが、御神木の方は成長していない。雌木であるため、負担が大きいためかと考えられるが、詳しいことは分からない。

境内には他の神社に比べてモチノキが多い。お聞きしたところ、そのほとんどは氏子の方の屋敷に植えられていたものが必要でなくなり、伐るのは可哀想だったので、境内に移植したものである。今から30～35年前の事である。

大正時代から昭和の初め頃にかけて、境内にはヒノキとサワラの若木が参道沿いを除いて境内全域に林立して、沢山あったらしい。記録（写真）が残されている。現在はサワラ4本、ヒノキ5本、いずれも若木が生育している。枯れたのか伐採されたのかは確認できなかった。

境内のあちこちで枯死した株が見られる。本殿左後方のアカガシ（切り株DBH65×85cm、H0.5m）は4、5年前に枯れた。本殿後方のスダジイ（アカガシと大きさほとんど同じ）もやはり4、5年前に枯れた。両方とも大気汚染が原因と考えられる。東側の道路沿いにモチノキが沢山ある。その剪定をしているとスで衣類が真っ黒になるほどだという。境内の樹木の剪定はできるだけ自分でやるとのこと、相当数あるモチノキも1本1本性質が違うので伐り方にも工夫が必要とのこと、大きな枝などを伐るときなど、一気にはできない。様子を見ながらやっている。あの木と言うより、あの子という気持ちで剪定しているという。境内も大変きれいにしていて、こんなに樹木を大切にしている宮司さんも珍しいのではないかと。10年前にモチノキのやや大きい個体が枯れたという。

参道西側にはスダジイの古木がある。境内で最も古い樹木であるとのこと。世田谷区の名木百選にもなっている。（DBH70～75cm、H6m）幹の内部が空洞になっているが、葉もたくさんついていて元気に見える。以前参道の反対側にスダジイが対になって生育していたが、40年前に枯れた。

境内の西側、社務所の裏側にクヌギの大木が2本残っている。以前はクヌギを中心にした雑木林になっていたと言う。父親からも境内の樹木に関して色々教えてもらっているとのこと。境





(3) 八幡神社 (世-9) 粕谷 1-23-18

【神社の由来】

創建年代は不詳。

【境内の樹木の特徴】

烏山川右岸側にあり、緩やかに東側に傾斜している。南側には隣接して蘆花恒春園がある。境内は東西に長くのびている。西側に位置する拝殿・本殿の両側には若いヒノキが植えられている。拝殿の前にケヤキ、サクラ、ヒノキ等の大木が並び、拝殿左手前に御神木のイチョウの大木がある。枝を広げ、立派である。境内の北東の角に「わかれの杉」の枯株が地上1m位残されている。DBH70cmであるから、生存時の姿が想像できる。枯死した時期は分からなかった。(図19)

種名・DBH	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100	110	計
ヒノキ	8		1		1							10
サクラ		2	5		1	1	1					10
マテバシイ	8											8
サンゴジュ	5											5
ウバメガシ	5											5
ヤマモモ	4											4
イチョウ		1	1	1							1	4
ケヤキ				1	3							4
イヌツゲ	1	2										3
イヌシデ				2								2
サカキ	2											2
モチノキ	1											1
ラカンマキ	1											1
アカマツ							1					1
コブシ	1											1
カエデ	1											1
ヒサカキ	1											1
メタセコイア		1										1
世-9	38	6	7	4	5	1	2				1	64

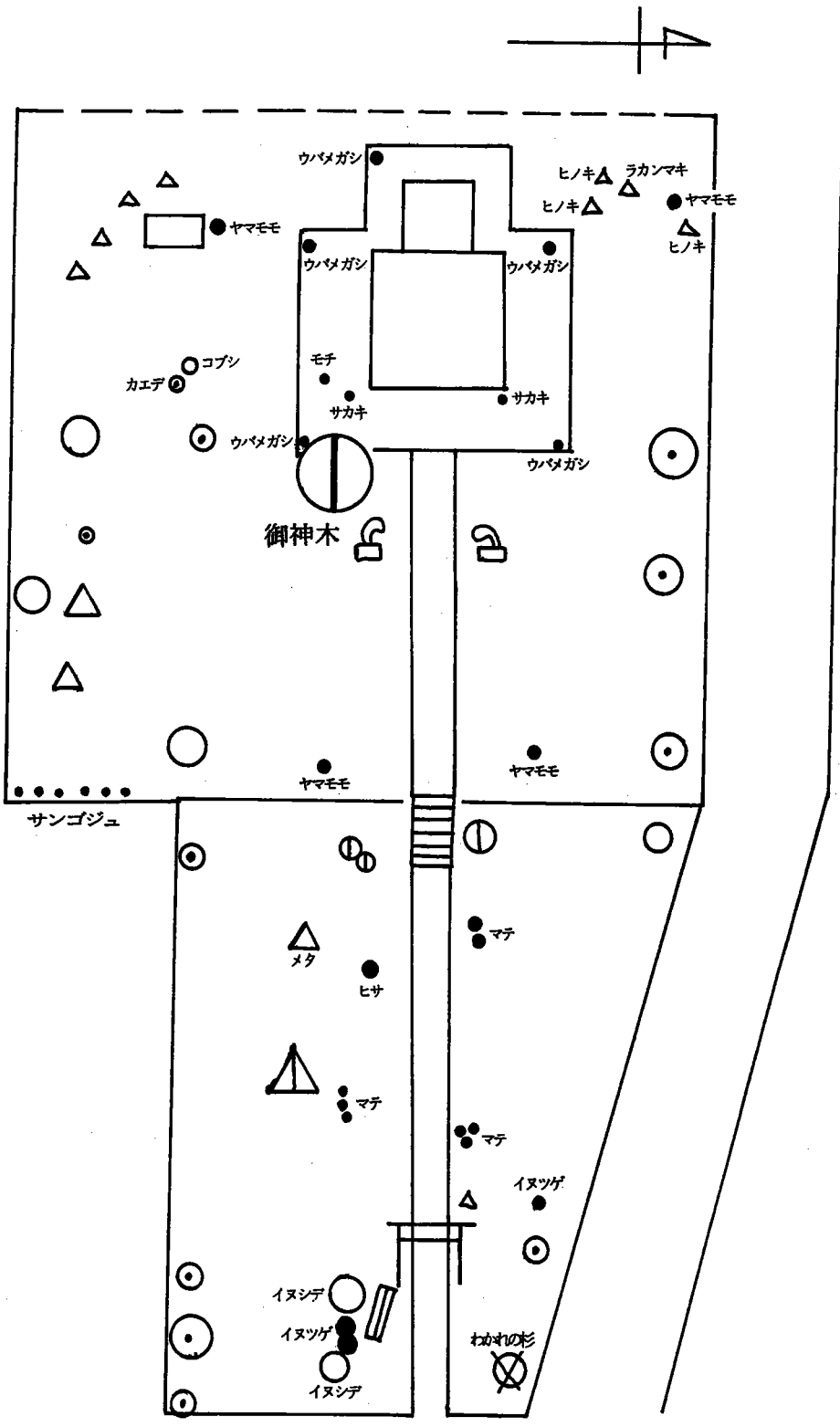


図19 八幡神社（世-9）の樹木配置図「種類組成とDBH分布」

(4) 宇山稲荷神社 (世-22) 桜丘 4-14-18

【神社の由来】

明治41年世田谷八幡宮に合祀。昭和22年(1947)に改めて設立。

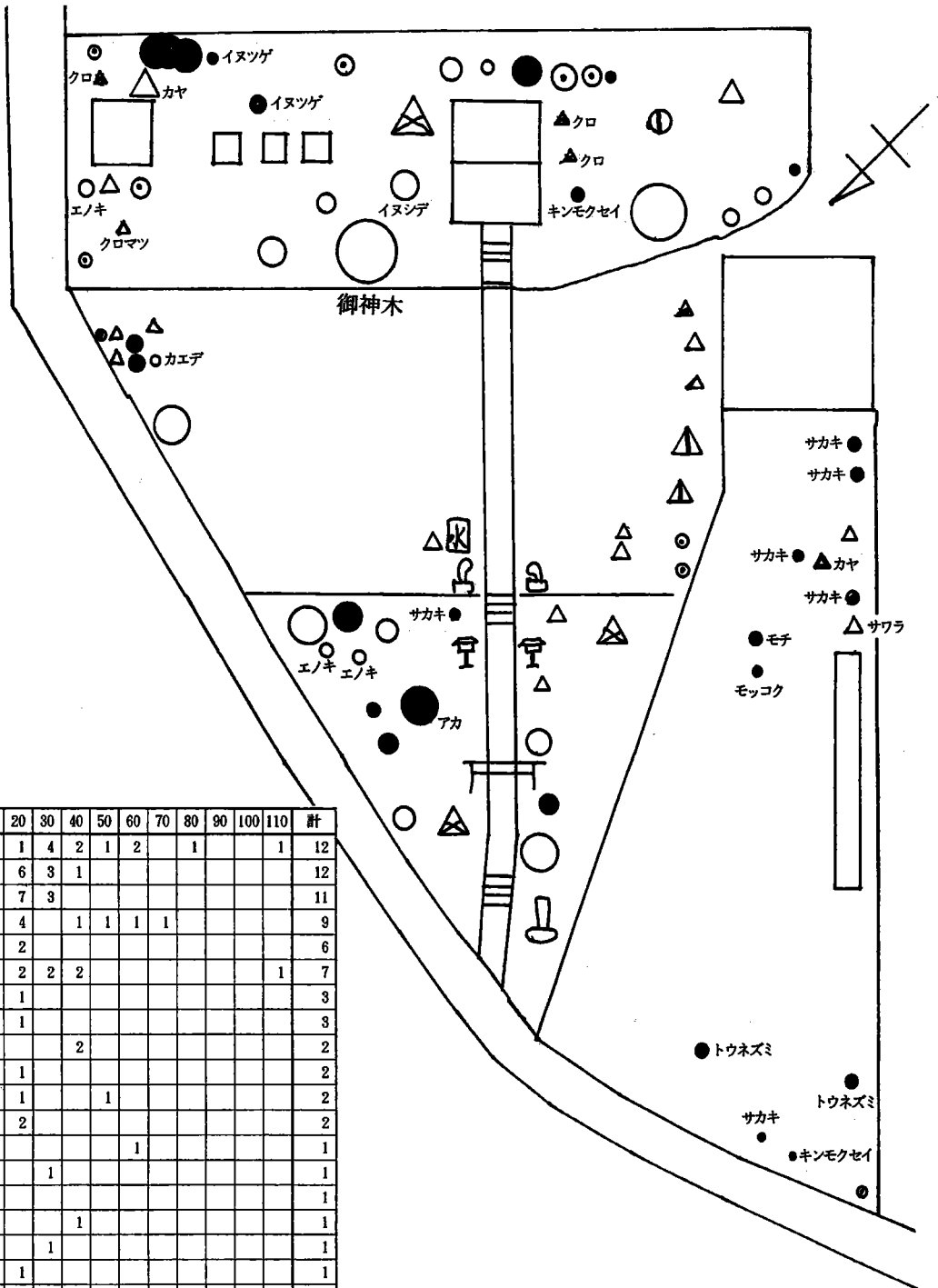
【境内の樹木の特徴】

西側にやや離れて丸子川が流れている。境内は西側に低くなった斜面上に位置している。周辺には屋敷林を持った農家も散在している。88才の近くに住むおじいさんに色々教えてもらった。氏子の長老格で、昔から神社に深くかかわってきたそうだ。昔の境内域はボヤ竹の茂る境内で、本殿前には13坪程度の広場があり、その周囲はササ類(アズマネザサ)が低木としてびっしりと生えていた。その中にクロマツ、シラカシ、アカマツ、アカガシ等が生えていた。

本殿は子供の遊び場所になっていた。ベイゴマ(内部が板の間だったので)等をして遊んだという。以前は西南方向に富士山を見ることもできた。その後、竹を伐り境内をきれいにした。クロマツ、アカマツ、ケヤキ、カシ類などは自然に生えてきたものが多かったと言う。現在境内に見られる若いクロマツは植えたものである。

以前の御神木はクロマツだった。拝殿の右手前、現在の社務所の前にあった。昭和15~16年(1940~41)頃に枯れたらしい。今から30年前に伐採した、現在の御神木のケヤキよりも大きかったが、枯株は残っていない。枝が折れてうろができて、そこにアオダイショウが巣を作り子育てをしていたという。その後御神木はケヤキになった。DBH105cm、H25mとなかなかの大木である。拝殿の左手前にある。昔天神様の祠が根元にあったと言うから、ひょっとしたら昔から御神木だった可能性もある。

境内の東の隅にDBH115cm、H22mに達するシラカシの大木があるが、地上1.5m付近から4本の幹に分かれている。その中の1本が枯れている。昔、根元に大六天社の祠があったというから、これも御神木といえる。しかし、境内の縁にあり、伐採される可能性もあると言う。境内の樹木達には色々な歴史が刻まれている。(図20)



種名・DBH	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100	110	計
ケヤキ		1	4	2	1	2		1			1	12
サクラ	2	6	3	1								12
ヒノキ	1	7	3									11
クロマツ	1	4		1	1	1	1					9
サカキ	4	2										6
シラカシ		2	2	2							1	7
エノキ	2	1										3
キンモクセイ	2	1										3
アカマツ				2								2
イヌツゲ	1	1										2
カヤ		1			1							2
トウネズミモチ		2										2
アカガシ						1						1
イチョウ				1								1
カエデ	1											1
イヌシデ					1							1
サワラ			1									1
シュロ		1										1
シロダモ	1											1
ヒバ	1											1
マユミ	1											1
モチノキ		1										1
モッコク	1											1
世-22	18	30	14	9	3	4	1	1			2	82

図20 宇山稲荷神社（世-22）の樹木配置図「種類組成とDBH分布」



(5) 北澤八幡神社（世-25）代沢3-25-3

【神社の由来】

文明年間（1469～87）世田谷城主（八代左兵衛頼康のころ）の勧請により創建。

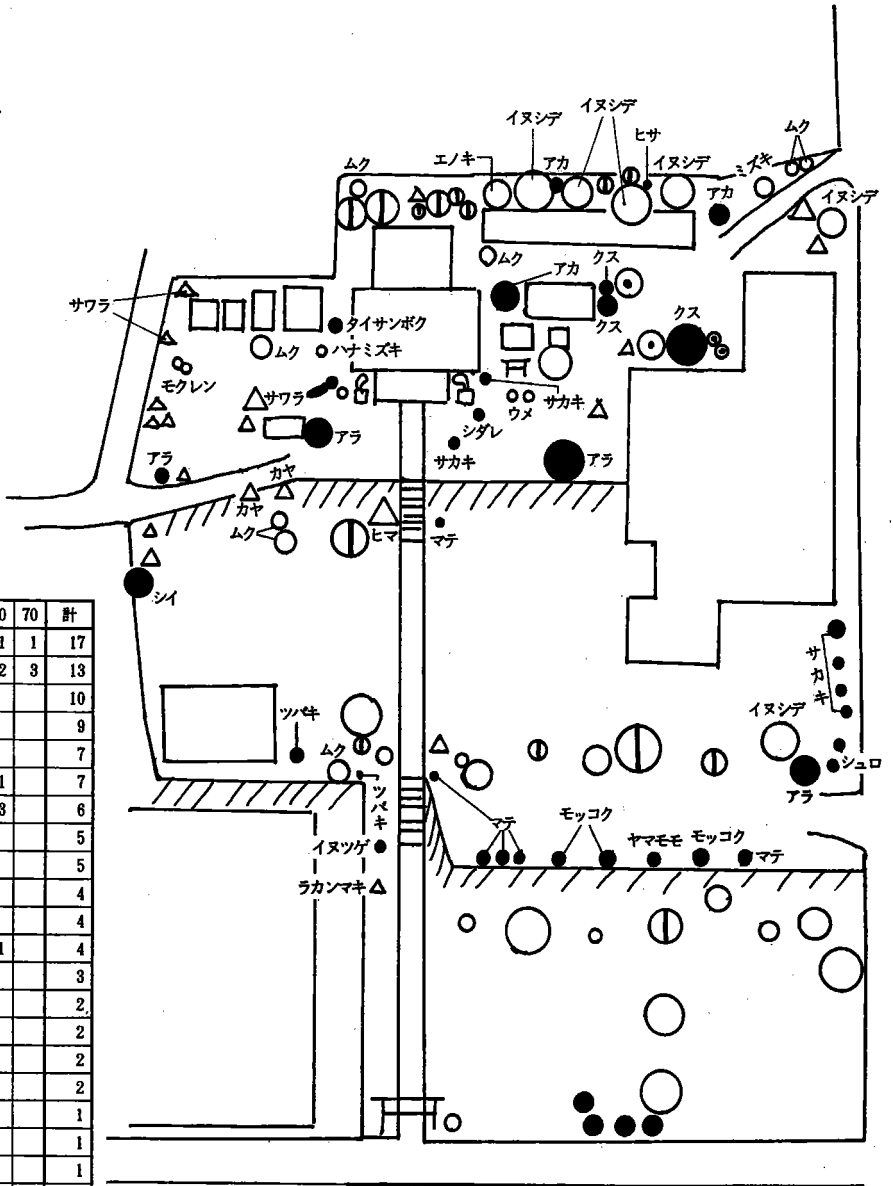
【境内の樹木の特徴】

南側に離れて北沢川（目黒川）が流れている。その左岸側の傾斜地に位置している。大きな境内を持つ（3346㎡）。斜面の最上部に拝殿・本殿がある。宮司さんにいろいろ教えていただいた。現在御神木としているものはないが、スギの大木が戦前までは御神木であった。昭和17～18年（1942～43）頃に枯れたと思われる。

戦前の境内の様子を描いた絵が残されている。昭和11年（1936）に描かれたものである。それを見せていただいた。拝殿から南に参道が延びて、拝殿の左手前に御神木のスギの大木が描かれ、さらに参道の両側に一対、スギの大木が描かれていて、当時境内にはスギが多く生育していたものと思われる。拝殿の右手前にはカエデが描かれている。現在は左手前にカエデが植えてある。かつての姿を再現したものか。と思う。

拝殿から南側に階段があり、それを降りると、左側にイチョウ（DBH60cm、H18m）がある。なかなか見事な樹勢を誇っている。宮司さんの考えではこのイチョウを将来は御神木としたいとのことであった。八幡神社であるため鎌倉の鶴岡八幡宮の大銀杏にあやかりたいとのことであった。ちょうど戦前までの御神木の杉のあった位置とほとんど同じ位置に生育しているのも理由の一つであるという。方位的には裏鬼門にもあたる。拝殿右手前にはアラカシの大木がある（DBH65cm、H15m）世田谷区の名木百選にもなっている。400～500年前に紀州から持ってきたと言われているが、そのまま現在に引き継がれているかは定かではないがこれほどの大木は珍しい。この神社はいまからおよそ500年前の文明年間（1469～87）世田谷北辺の守護神として当時の世田谷城主であった吉良家の勧請により創建された。そのためか、宮司さんは北澤八幡宮の位置が世田谷城の鬼門の位置にあると考えている。世田谷城は世田谷吉良氏8代二百数十年の館跡で、烏山用水、北沢用水に囲まれ、南、北、西方に土壕を巡らした平山城であった。1590年（天正18年）小田原北条氏滅亡の際廃城となった。城壁の一部は徳川氏の江戸城修築の際に石材として持ち去られたという。（図21）

4



種名・DBH	10	20	30	40	50	60	70	計
イチョウ	4	3	4	1	3	1	1	17
ケヤキ		2	2	2	2	2	3	13
ヒノキ	6	1	2	1				10
ムクノキ	1	4	3	1				9
サカキ	5	2						7
クスノキ	2	2		2		1		7
イヌシデ				1	2	3		6
サワラ	3		1	1				5
マテバシイ	5							5
シラカシ			4					4
モッコク	4							4
アラカシ	1			1	1	1		4
アカガシ		1	1	1				3
カヤ	2							2
シュロ	2							2
ウメ	2							2
モクレン	2							2
イヌツゲ	1							1
エノキ	1							1
カエデ	1							1
ヤマモモ	1							1
サクラ		1						1
ラカンマキ	1							1
不明	1							1
ヒサカキ	1							1
ミズキ			1					1
シダレザクラ	1							1
タイサンボク			1					1
ツバキ		1						1
ハナミズキ	1							1
スダジイ				1				1
ヒマラヤスギ				1				1
世-25	48	17	19	11	10	8	4	117

図21 北澤八幡神社 (世-25) の樹木配置図「種類組成とDBH分布」

(6) 玉川神社 (世-37) 等々力3-27-7

【神社の由来】

創立は不詳であるが、一説には文亀年中(1501~04)世田谷城主吉良頼康の勧請という。

【境内の樹木の特徴】

西側少し離れて、谷沢川(等々力溪谷)が流れている。境内は南北に長く、南側には目黒通りが走っている。北に向かって少し上がった地形になっている。境内は全域に樹木が多く、特にDBH50cm以上の大木も多い(34本で全体の32%になる)。本殿の周囲には特に多くスダジイ、サワラ、クロマツなどの常緑樹が林立し、建物を包み込んでいる。

宮司の高橋範秀さんにいろいろ教えていただいた。御神木は特に定めていないと言う。特色ある樹木として、スダジイがある。拝殿の左手前にある個体で、根茎が異常に露出している。その理由として考えられるのは、昭和15年に本殿が完成したが、その時参道などの敷石の工事を現在スダジイのある場所で作業していた。本殿完成後と同時にシイを植えた。おそらく根元に石の破片が多く残り、シイの根が中に入っていけないと思われる。御影石の破片が今でも多く残っているという。珍しい現象なのでカメラマンが来て写真を撮っていた。

同じようにクスノキも面白い。参道の両側に1対のクスの大木がある。西側の個体はDBH120cm、H20mで東側より古いという。以前根元を6尺位の高さに盛り土をして幹を埋めた。最近表面に根が出てきて勢いが良くなったという。生命力が強い木である。参道の反対側にある個体の幹の下部は土瓶状に膨らんでいる。根元にこぶがあり、それを包み込んで成長したためである。DBHを測ると200~250cmになっている。世田谷区の名木百選に選ばれている。

東側の社務所の前にケヤキの大木が2本ある。(DBH85cm、H25m、DBH115cm、H28m)枝の一部が枯れたり、風が吹いたりした時など、枝が落ちて社務所の屋根が数カ所壊されたことがある。それでも大事な樹で、ゆくゆくは市内でも有数のケヤキの大木になっていこうと期待しているとのことであった。

始めて見る光景があったので尋ねてみた。狛犬のそばにエノキの枝が斜めに置かれていた。その目的はお札を下げるために置いたのだという。そうしないと、境内のあちこちの低木の枝に下げられてしまい、枝が折れたり樹木が痛めつけられてしまうと言う。境内の境にあったエノキの枝が外側に張りだしていたのでそれを伐り、利用したものだという。エノキでなくともいいのだが、樹木を大切に作る心が工夫を生んでいる。

境内には以前スギが数本あったが、昭和40年代(1965)に枯れたらしい。セミやカブトムシも見られ、庭にある池にはイトトンボやシオカラトンボがやってくる。自然豊かな境内になっている。これだけの樹木が生育していると秋の落葉期には大変苦労するという。1日にゴミとして出せる量はわずかで、大部分は本殿の裏の林内に置くことになる。結果として腐葉土になるが、大量であるのでその処理に困っているという。腐葉土が厚くなりすぎれば樹木の生育にも影響があ

ると思われる。

本殿の周囲にヒサカキの実生がたくさん生育している。自然に出てきたもので他にも実生が多い。できるだけそのままにしているとのこと。右手に掃除だこができています。落葉期には1日3時間位境内と道路の落ち葉の掃除をするためである。あまり見たことがない。時々手伝ってくれる人もいますが大変なのでなかなか長続きしない。

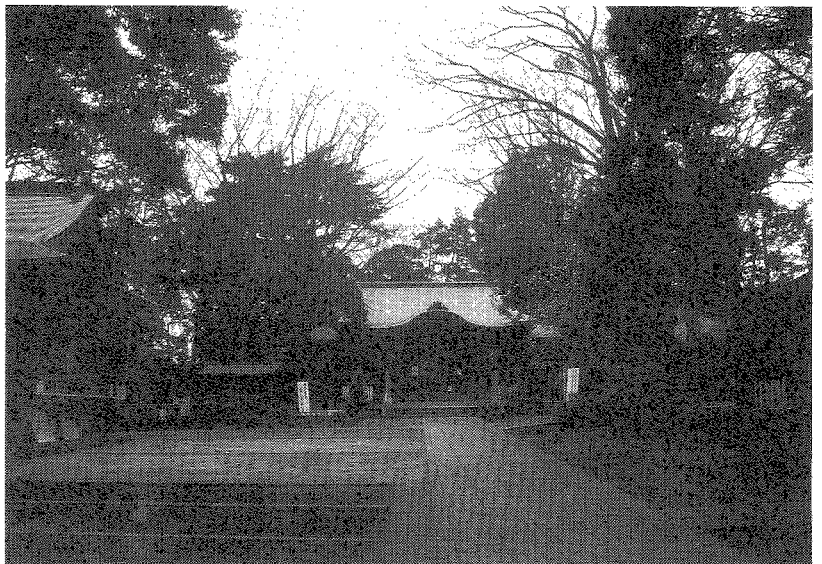
寺院の場合、お墓の近くに大木を生育させるわけにはいかない。根茎によって、墓が動いたり破損したりするからである。したがって今後都市部において、広い樹林・樹木を残すことができるのは公園と神社の境内だけであると考えている。その割には行政の対応は冷たいものがある。今後の大きな課題である。(図22)



写真⑰

玉川神社(世-37)の  
スダジイの根茎

撮影日 00. 3. 21



写真⑱

玉川神社(世-37)の  
境内

撮影日 00. 3. 21

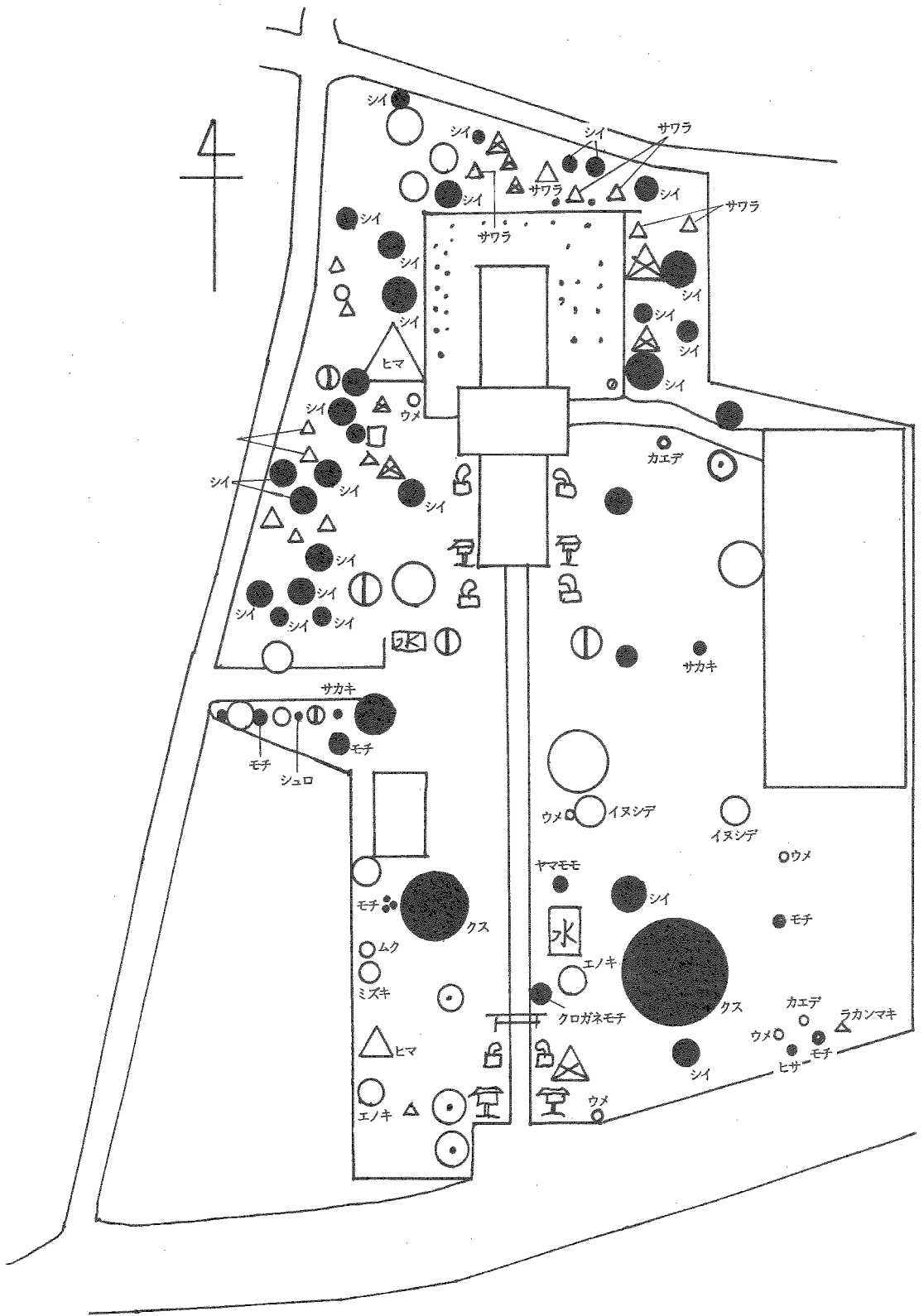


図22 玉川神社 (世-37) の樹木配置図「種類組成とDBH分布」



種名・DBH	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100	110	120	230	計
スダジイ		2	6	7	6	3								24
ケヤキ			1		5	1	1	1			1			10
クロマツ			3	2	1		2							8
サワラ		2	5	1										8
シラカシ	1		2	2	1		1							7
モチノキ	3	4												7
イチョウ			1	2	2									5
ウメ	5													5
サクラ				1	1	2								4
ヒノキ	1	2	1											4
カエデ	1	2												3
イヌシデ					2									2
エノキ				1	1									2
カヤ		1	1											2
クスノキ												1	1	2
サカキ	2													2
ヒサカキ	2													2
ヒマラヤスギ					1					1				2
クロガネモチ			1											1
シュロ	1													1
ミズキ			1											1
ムクノキ		1												1
ヤマモモ		1												1
ラカンマキ	1													1
世-37	1	15	22	16	20	6	4	1		1	1	1	1	105

(7) 東玉川神社（世-42）東玉川1-32-9

【神社の由来】

寛永年間（1624～44）の創立。

【境内の樹木の特徴】

東側を少し離れて呑川が流れている。境内地は周囲から一段と盛り上がった場所にある。特に本殿の裏側は急に下がっている。拝殿や本殿を建築する際に頂部をけずり平らにして建てたという。宮司の関根光男さんには大変親切に神社の事について教えていただいた。

社殿は昭和14年に渋谷の地より移築したもので、約400年前の建物である。拝殿・本殿の周囲はクロマツ、サカキ、クスノキ、ヒノキなどの常緑樹で包まれている。以前は本殿左後方にクスノキの大木があったが、隣接した堀が壊れそうになり、倒れる危険性があったので伐採したとのこと。2本伐採した。したがって、左裏側は常緑樹が欠けている。

御神木についてはまだ決めていないそうで、本殿右側のクロマツが最も古いので、将来は御神木とする可能性がある。（図23）

種名・DBH	10	20	30	40	50	60	70	80	計
サカキ	15	6							21
サクラ			5	3	2	3		1	14
クロマツ	1	3	4		1	3	1		13
イチョウ		1	3	3	1	2			10
ヒノキ		6	1	1					8
ウメ	3	2							5
モチノキ	3	1							4
サワラ	2	2							4
キンモクセイ	3								3
サンゴジュ	2	1							3
スタジイ			2			1			3
ヒサカキ	2								2
ミカン	2								2
アカガシ		1							1
イヌツゲ	1								1
カエデ	1								1
クスノキ								1	1
ケヤキ					1				1
ラカンマキ	1								1
世-42	36	23	15	7	5	9	1	2	98

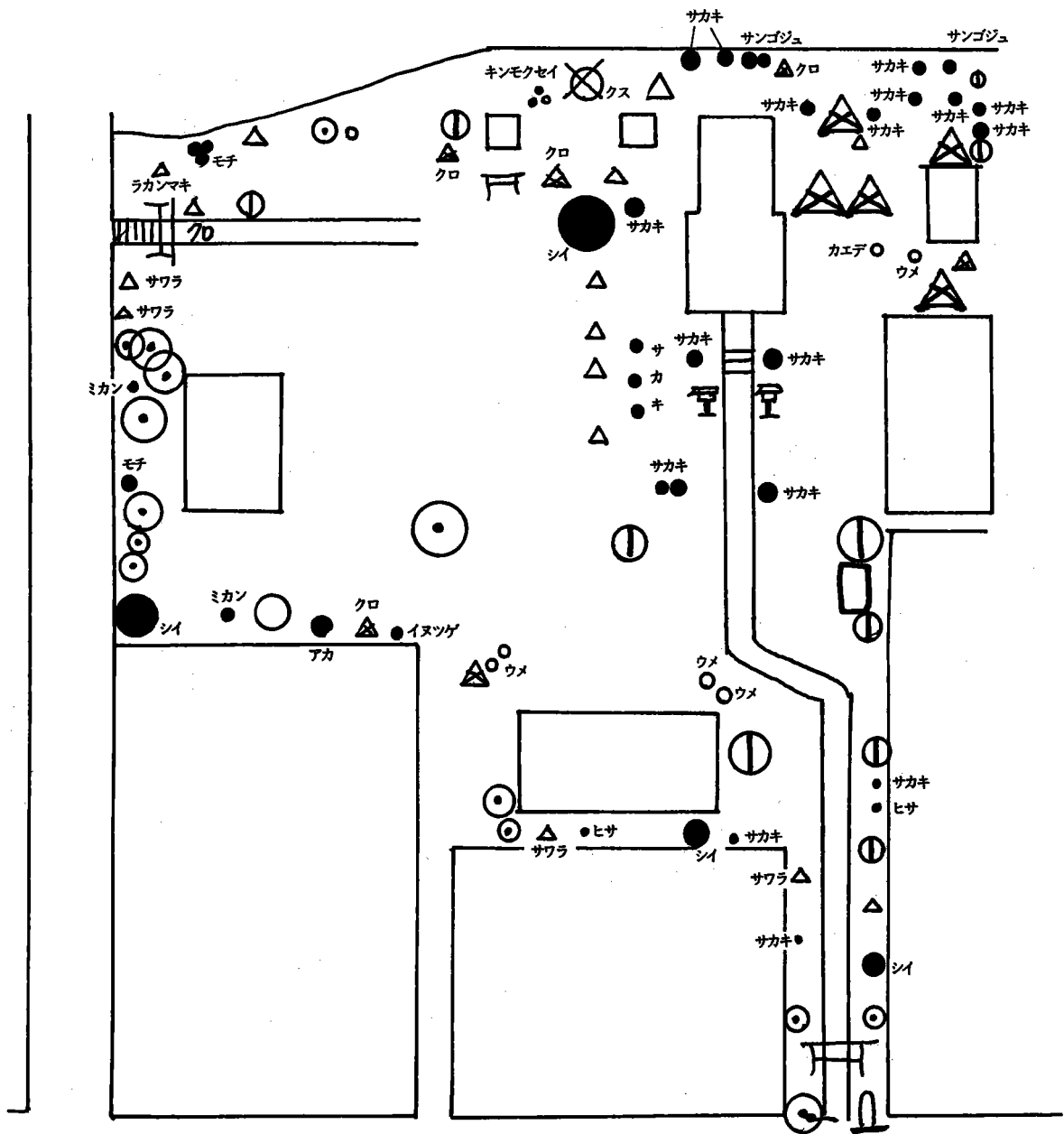
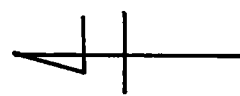


図23 東玉川神社 (世-42) の樹木配置図「種類組成とDBH分布」

(8) 神明神社 (世-44) 船橋 4-40-17

【神社の由来】

創建は不詳。

【境内の樹木の特徴】

環八通りが100m位離れて境内の西側を走っているとは思えないほど静かである。武蔵野の神社の境内に見られる典型的な樹木の配置がある。東向きの拝殿・本殿の裏側にはDBH25~35cmの若いヒノキが多数見られ、建物を包んでいる。拝殿の前にはサカキ、そしてタチバナが1対参道をはさんで配置され、拝殿の右側に接して、「火防せの木」といわれるイチョウの大木が置かれている。さらに参道の両側には江戸時代からあるとされる、クロマツの大木が8本見事な配列を見せている。鳥居の前にはサクラやケヤキが配置され、明るく参詣に訪れる人を迎えてくれる。(図24)

種名・DBH	10	20	30	40	50	60	70	計
ヒノキ		12	13	1				26
ヒサカキ	11							11
クロマツ		1	2		1	2	3	9
ケヤキ		1		2	1	2		6
ウメ	4		1					5
シラカシ	5							5
ゲッケイジュ	5							5
エノキ	1			2				3
サクラ		1			1		1	3
シュロ	3							3
タチバナ	3							3
コブシ	1	1						2
イチョウ							1	1
キンモクセイ	1							1
サカキ	1							1
サザンカ	1							1
スタジイ						1		1
ツバキ	1							1
メタセコイア	1							1
ムクノキ				1				1
オニグルミ		1						1
スギ	1							1
世-44	39	17	16	6	3	5	5	91

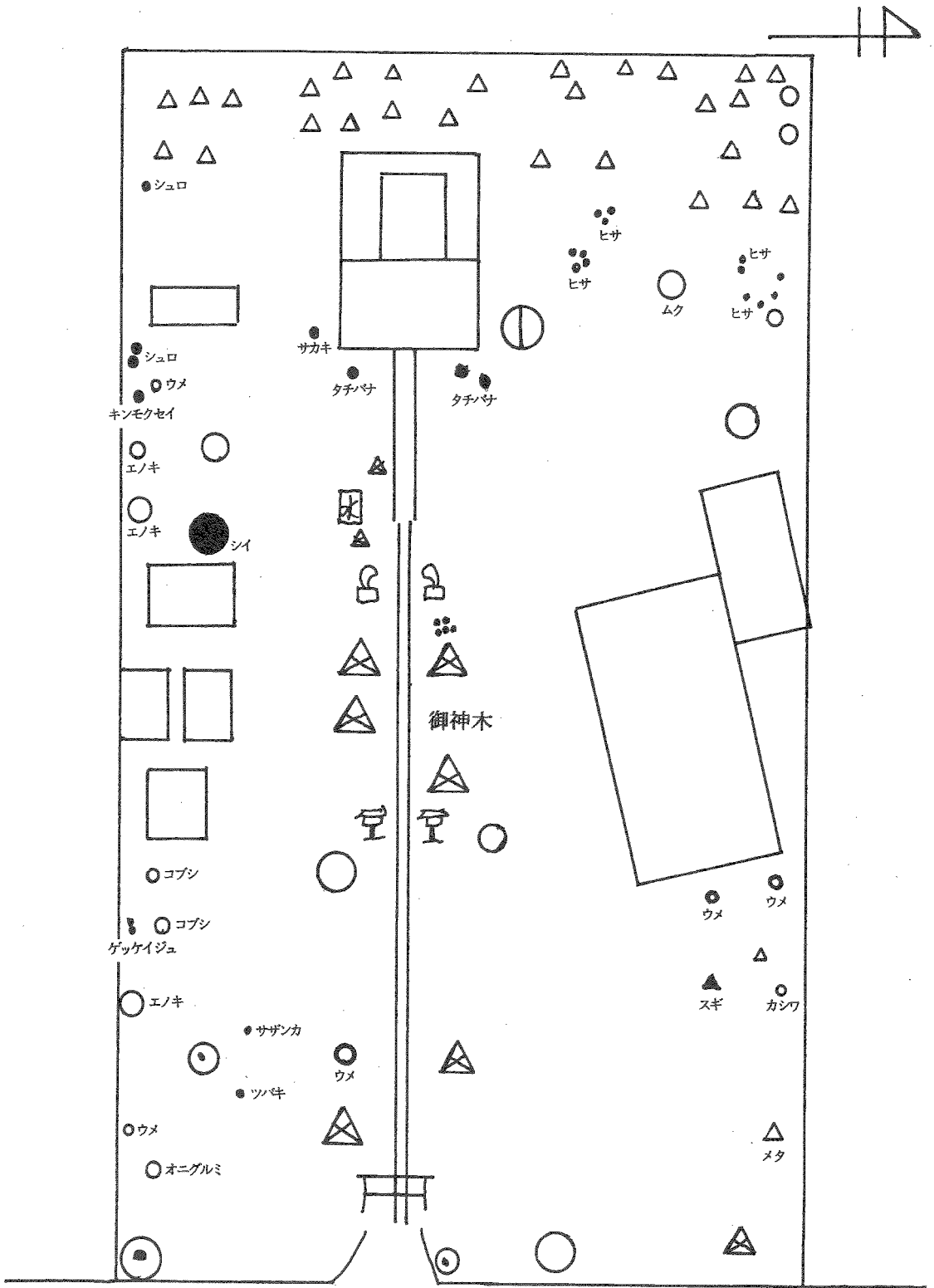


図24 神明神社（世-44）の樹木配置図「種類組成とDBH分布」

(9) 世田谷八幡宮（世-51）宮坂1-23-20

【神社の由来】

寛治5年（1091）、源義家後三年の役の帰途、この地（宮の坂）に露營し、豊前の宇佐八幡を勧請して、士卒に相撲を取らせたことから始まったとされている。

【境内の樹木の特徴】

世田谷線宮坂駅前から鬱蒼とした大きな緑の塊が広がっている。八幡宮の森である。境内の南にやや離れて烏川が西から東へ流れている。緩やかな斜面上に位置している。DBH10cm以上の樹木が24種類、152本生育し、今回調査した143社の中では4番目に現存数が多い。DBH50cm以上の大木も15種類、42本（全体の28%）もある。特にケヤキ、クスノキ、サクラ、サワラ、アラカシ、シラカシ等が境内全域に分布している。拜殿・本殿の周囲にはクスノキ、ケヤキ、サワラ等が包み込み、参道を挟んでクロマツの大木が2本対に植えられ、鳥居周辺にはシダレザクラ、ケヤキの落葉広葉樹が明るい雰囲気をつくっている。アラカシ、シラカシ、ツクバネガシ、アカガシ、ムクノキ、ミズキ等の自然生のもと考えられる樹種が多いのも特徴的である。（図25）



写真⑱ 世田谷八幡宮（世-51）の境内

撮影日 00. 9. 24



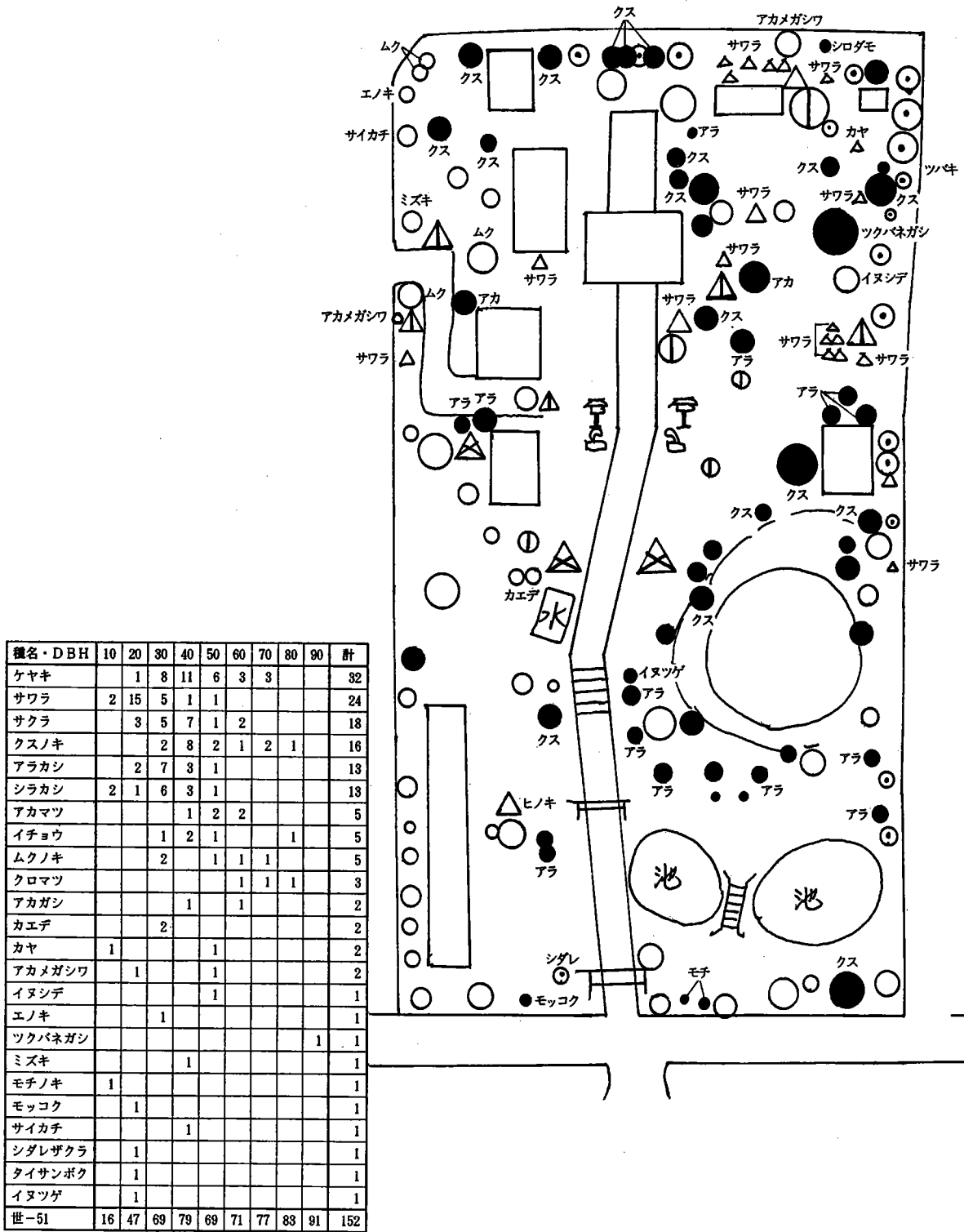


図25 世田谷八幡宮（世-51）の樹木配置図「種類組成とDBH分布」

(10) 用賀神社 (世-52) 用賀 2-14-3

【神社の由来】

創建年代は不詳。しかし、明治41年(1908)8月、合祀した村社宇佐神社は天正年間(1573~91)宇佐八幡宮より勧請奉祀したと伝えている。

【境内の樹木の特徴】

南側に少し離れて谷沢川が流れている。そこから緩やかな斜面を登ると境内に達する。神社関係者に話をうかがったところ、宮司さんが北西角にあるケヤキの大木を御神木にしようと決めたいらしい。境内では最大の大きさを持っている。お話では拝殿・本殿の裏側にスダジイが林をつくっているが、自然のものであるとのことだったが植えた可能性もある。その中で建物の近くにクロマツ、マテバシイ、サクラ、ケヤキ、サワラなどが植えられている。境内の南西部側にあるクロマツ、サワラ、クス、ケヤキなどが強剪定されている。(図26)

種名・DBH	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100	110	計
ケヤキ	3	4		1							1	9
スダジイ		1	1	4	2	1						9
クロマツ	1	4	2	1								8
サワラ	3	3	1									7
イヌシデ				3	1	1						5
エノキ	4	1										5
ウメ	3											3
サクラ			2	1								3
アカマツ				2								2
カエデ	1	1										2
ヒノキ		1		1								2
アオギリ		1										1
イチョウ			1									1
カヤ			1									1
クスノキ					1							1
シロダモ			1									1
サカキ	1											1
シラカシ		1										1
ヒマラヤスギ							1					1
ムクノキ					1							1
マテバシイ			1									1
世-52	16	17	10	13	5	2	1				1	65

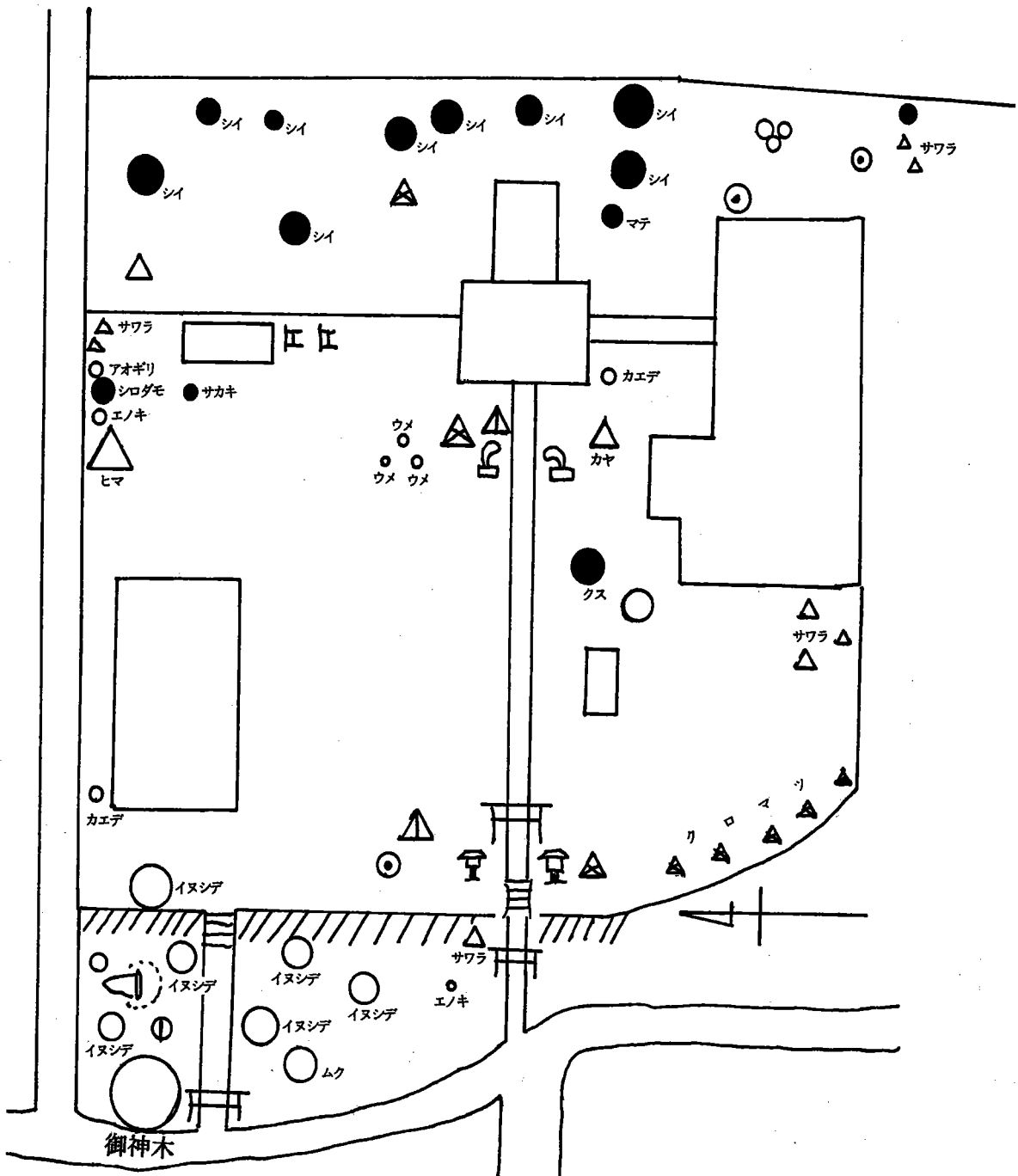


図26 用賀神社 (世-52) の樹木配置図「種類組成とDBH分布」

(1) 駒繫神社（世-56）下馬4-27-26

【神社の由来】

平安時代後期の創建と伝えられる。

【境内の樹木の特徴】

東向きの手殿・本殿が周囲から一段と高まった部分に建てられている。西側～北側～東側にかけて割合急な斜面になっている。斜面の下部を目黒側の支流の蛇崩川西から東へ流れている。斜面上にはスダジイ、ムクノキ、ミズキ、エノキ、アカガシなどの自然生のもと思われる樹種が生育している。低木も見られる。その中にイチョウ、マテバシイ、サクラ等が混じって植えられている。全体に密生した森林を形成している。

境内の南側はやや平坦になっていてケヤキ、イチョウの大木が配置されている。その中に世田谷区の名木百選になっているモッコクの大木が3本あるのは珍しい。戦災にはあわなかったのでこれらの大木が残されたと宮司さんが教えてくれた。（図27）

種名・DBH	10	20	30	40	50	60	70	80	90	計
ケヤキ		2	2	2	2	1		2	2	13
スダジイ	1	3	7	1		1				13
イチョウ	2	3	1	2		2			1	11
イヌシデ		1	1	1	3					6
サクラ	1	1	2		2					6
ムクノキ	1		1		3					5
モッコク		1		3	1					5
シラカシ		2	1	1						4
マテバシイ	3	1								4
イイギリ	2		1	1						4
エノキ			2	1						3
クスノキ					1	1		1		3
ミズキ			2	1						3
アカガシ	1		1							2
ヤマモモ		2								2
アカシデ									1	1
イヌツゲ	1									1
クロマツ				1						1
コブシ		1								1
サカキ	1									1
シュロ	1									1
モチノキ	1									1
ミカン		1								1
世-56	15	18	21	14	12	5		3	4	(92)

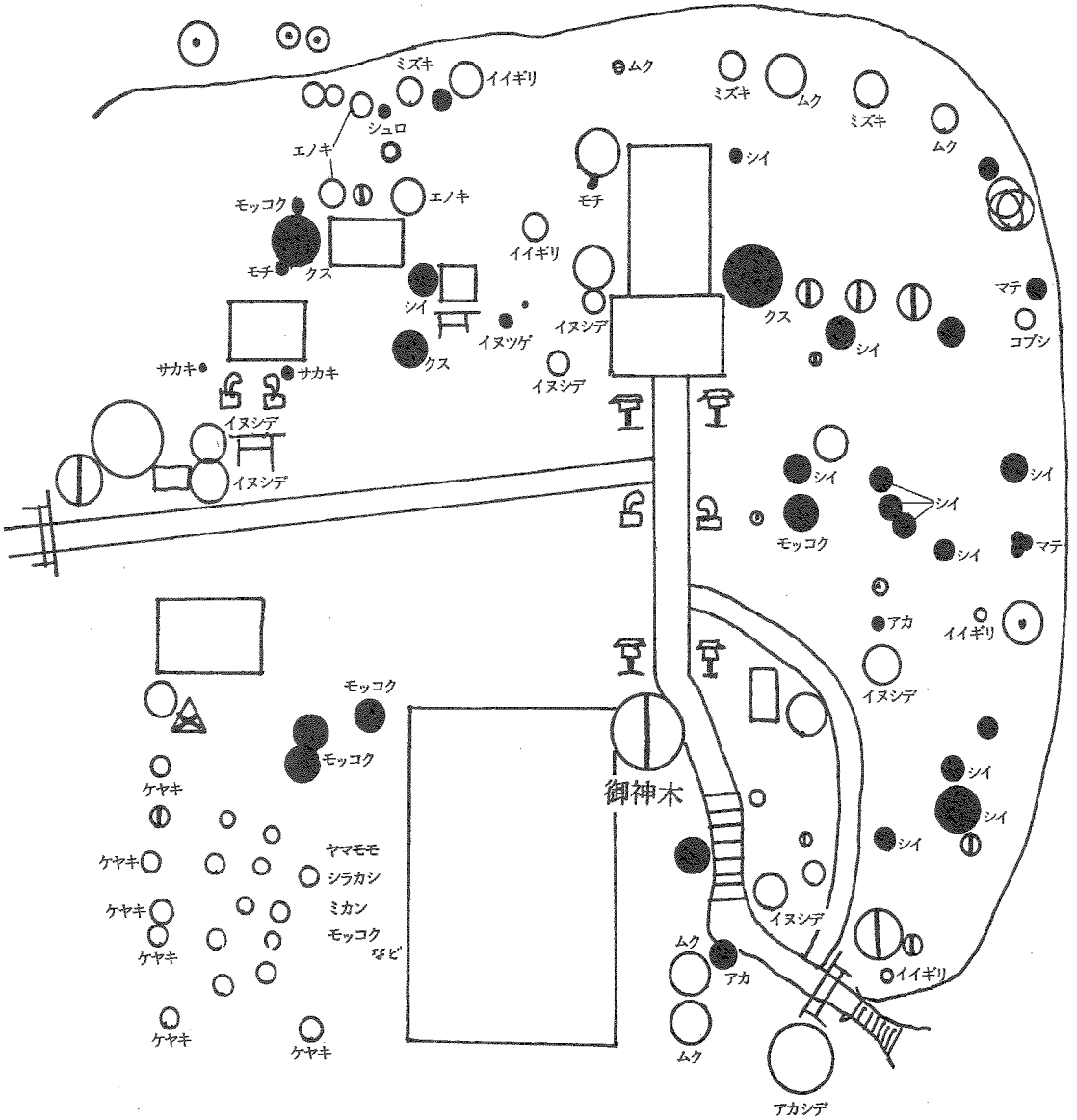


図27 駒繫神社 (世-56) の樹木配置図「種類組成とDBH分布」

(12) 浅間神社 (大-44) 田園調布1-55-12

【神社の由来】

鎌倉時代の文治年間(1185~90)の創建と伝えられる。

【境内の樹木の特徴】

台地の南端部に位置し、付近には亀甲山古墳、多摩川台公園がある。すぐ西側を多摩川が流れている。境内には25種類、162本の樹木が生育し、今回調査した143社の中で最も現存数が多かった。アカガシ(42本)、クスノキ(26)、サクラ(13)、ムクノキ(12)、マテバシイ(10)等が特に多かった。

アカガシは拝殿・本殿の両側にまとまった林分をつくり、さらに多摩川低地から階段を上ってくる斜面上に大きな林分をつくっている。林内にはヤブツバキ、ムクノキ、コナラ、エノキ、スダジイ、モチノキなどが混じり、豊かな照葉樹林を形成している。拝殿の前の参道沿いにはクスノキやイチョウ、サクラ類が植えられている。平坦にした部分には木を植え、境内の周辺の斜面上には自然の樹木を配置し、全体に見事な鎮守の森をつくっている。(図28)



写真⑳ 浅間神社 (大-44) の境内

撮影日 00. 4. 4



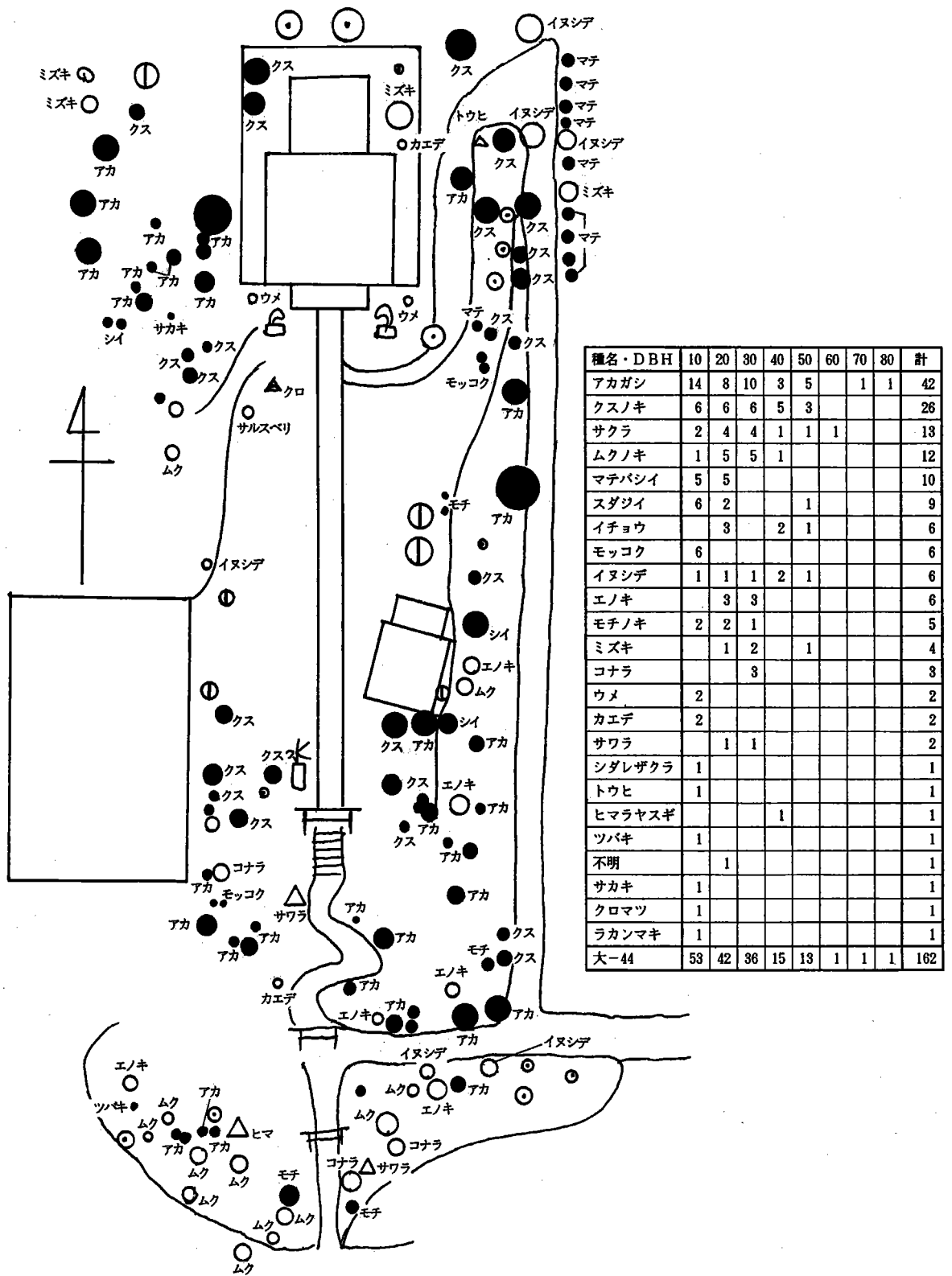


図28 浅間神社(大-44)の樹木配置図「種類組成とDBH分布」

(13) 雪ヶ谷八幡神社 (大-46) 田園調布東雪谷 2-25-1

【神社の由来】

永祿年間 (1558~70) の創建と伝えられる。昭和20年 5月戦災にて社殿焼失。

【境内の樹木の特徴】

東急池上線の石川台駅のすぐ南東側にあり、南西~南にかけて呑川が流れている。境内は斜面上に位置している。6612㎡の境内の中に27種類、135本の樹木が生育している。スダジイ (25本)、イチョウ (19)、サクラ (19)、クスノキ (13)、ケヤキ (8)、マテバシイ (8) 等が目立つ。スダジイは拝殿・本殿の周囲や参道の右側に列をなして生育が見られる。自然生のものが多いと考えられる。境内の南側地域はイチョウやサクラ、ケヤキなどの落葉樹が多く配置されている。建物部分は常緑樹で大きく包み込んで厳かな雰囲気を保っている。クスノキは建物の近くに多く配置されている。参道の入り口付近に注連縄が張られたケヤキの大木がある。DBH90cm, H18mで大きく枝を広げている。(図29)

種名・DBH	10	20	30	40	50	60	70	80	90	計
スダジイ	6	5	7	4	2		1			25
サクラ	5	2	6	4		1			1	19
イチョウ		1	7	4	5					17
クスノキ		3	5	5						13
ケヤキ	1		1	1	4				4	11
マテバシイ			8							8
エノキ	1	1	3	1	1					7
カエデ	3	1								4
モチノキ	4									4
ツバキ	1	2								3
サカキ	3									3
イヌツゲ	1	1								2
キンモクセイ	2									2
モッコク	1	1								2
かや	2									2
クロマツ		1			1					2
アオギリ		2								2
ユズリハ		1								1
シダレザクラ	1									1
ミズキ				1						1
ムクノキ			1							1
スギ		1								1
シラカシ	1									1
不明		1								1
シュロ		1								1
トウカエデ			1							1
大-46	42	44	69	60	63	61	71	80	95	135

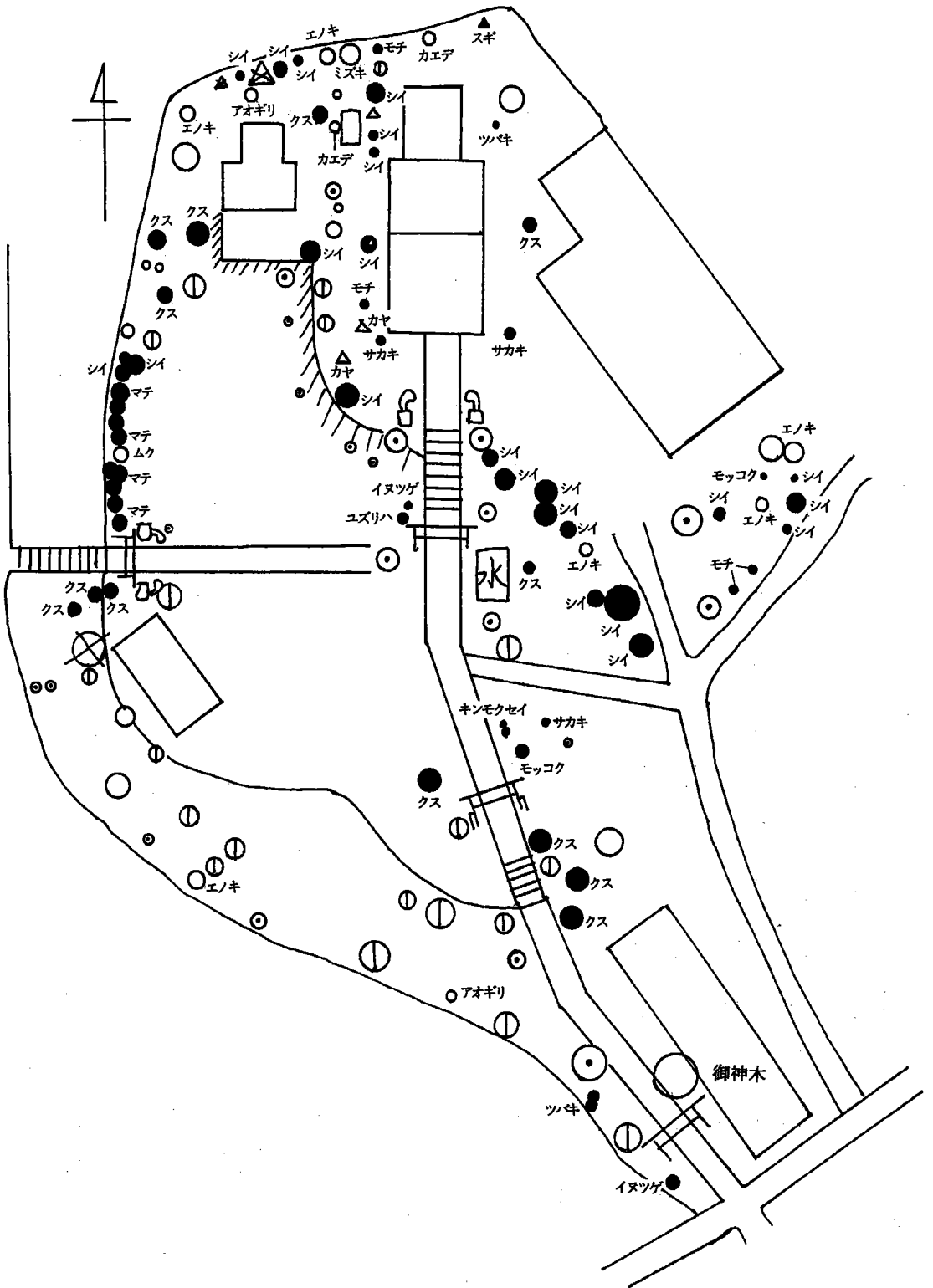


図29 雪ヶ谷八幡神社 (大-46) の樹木配置図「種類組成とDBH分布」



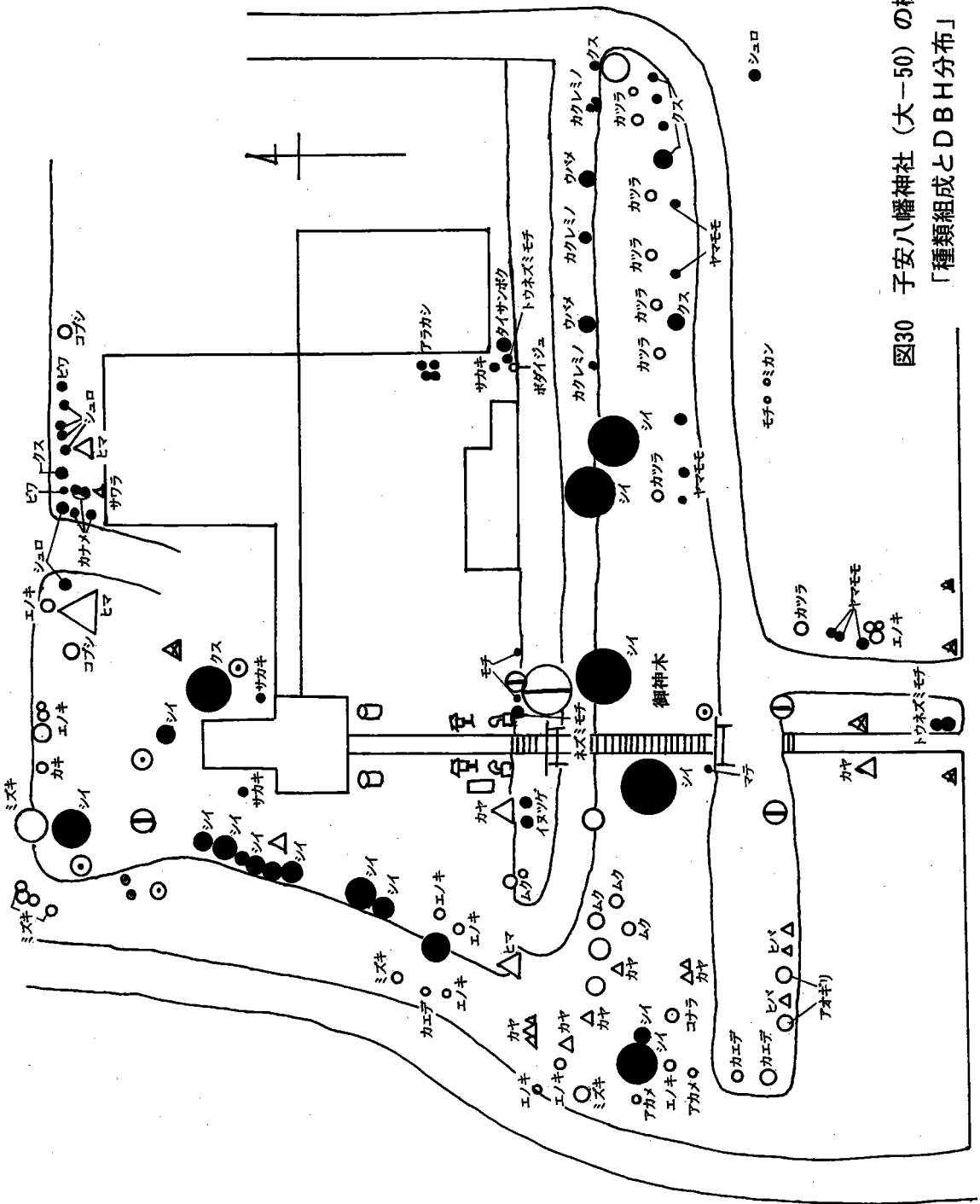


図30 子安八幡神社 (大-50) の樹木配置図  
「種類組成とDBH分布」

(15) 六所神社 (大-102) 下丸子4-16-5

【神社の由来】

文暦元年(1234)に荏原左衛門義宗が多摩川の下流に六柱の神を祀ったのが当社の始まりであると伝えられている。

【境内の樹木の特徴】

東急目蒲線の下丸子駅を降り、南側に進むとすぐ左側に天祖神社がある。平坦地に位置する境内にはイチョウの大木が2本ある。DBH115cm、H28m、DBH55cm、H13mに達する。さらに南側に行くと諏訪神社があり、ここにもイチョウの大木がある。DBH90cm、H20mで、他にはサクラとアオギリが生育するのみ、さらに南へ行くと空き地があって、そこにもイチョウのDBH110cm、H10m(途中で切断されている)に達する大木が金網に囲まれて残されている。そして六所神社である。この辺一帯はイチョウの大木の多く残る地帯となっている。六所神社の境内には以前、大木が5本あったが、現在は3本が残っている。特に参道を挟んで拝殿前にあるイチョウの雌木は樹形も見事である。もう1本も雌木である。拝殿・本殿の右(北)側にはエノキの大木があり、幹にヤドリギが沢山ついているのは珍しい。本殿の後方にはスタジイ左側にはケヤキの大木が配置され、建物の周囲に樹木が多く落ち着いた雰囲気をつくっている。低木はほとんどなく、境内はきれいに保たれている。ただ、参道の右側にあるメタセコイア、アオギリ、スズカケノキは毎年剪定をするそうで、明るくなっていた。(図31)

種名・DBH	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100	計
スタジイ		2		3		1					6
メタセコイア		3	2	1							6
アオギリ	4	1									5
ケヤキ			1	1				1			3
イチョウ							1		1	1	3
ムクノキ				1		1					2
スズカケノキ			2								2
サクラ			1		1						2
カリン	1										1
モッコク		1									1
ウメ	1										1
モチノキ		1									1
エノキ					1						1
シュロ	1										1
カキノキ		1									1
大-102	7	9	6	6	2	2	1	1	1	1	36

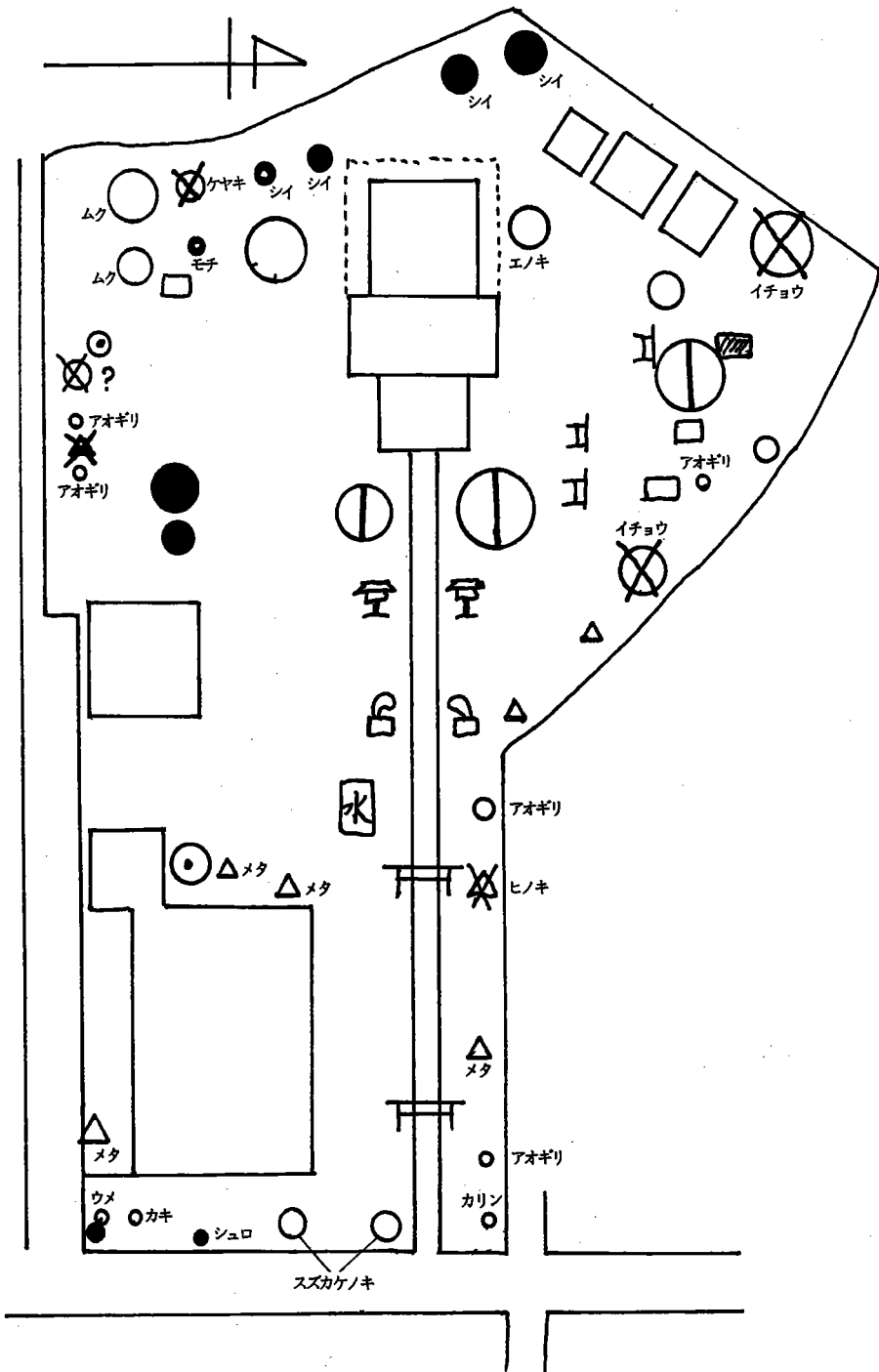


図31 六所神社 (大-102) の樹木配置図「種類組成とDBH分布」



## V ま と め

1. 多摩川下流域の世田谷区と大田区に位置する神社149社を対象として、境内の樹木に関する調査を行った。
2. 神社の位置している地形を見ると、武蔵野台地や沖積低地の平坦地に88社（59.1%）、目黒川・呑川・丸子川・野川・多摩川などの河川の段丘崖の斜面上に位置しているのが57社（38.3%）、段丘崖上の平坦地に4社（2.7%）であった。
3. 拝殿・本殿などの境内の建物の向きは南向きが40.3%と最も多く、北向きや西向きが少なかった。
4. 境内に生育しているDBH（胸高直径）10cm以上の樹木は149社全体で、125種類であった。生活型で分類すると、落葉広葉樹59種（47.2%）、常緑広葉樹45種（36.0%）、常緑針葉樹20種（16.0%）、落葉針葉樹1種（0.8%）であった。平均すると神社1社あたり14.2種類が生育している。多摩川中流域の調査ではそれぞれの割合が70種（50.7%）－44種（31.9%）－22種（15.9%）－2種（1.4%）－13.8種類とよく似た傾向を示している。
5. 境内にある特別な樹木として、御神木がある。今回の調査ではイチョウ、スダジイ、ケヤキ、クロマツ、ムクノキ、カヤ、クスノキ、サワラ、スギ、タブノキ、ハウノキの計11種類が確認された。中流域の調査では14種類が確認されて、アラカシ、シラカシ、クスノキ、ウバメガシ、オガタマノキ、ツガ、ウメ以外は共通していた。下流域だけで確認されたのはムクノキ、ハウノキ、サワラの3種類であった。
6. DBH50cm以上の大木に注目して分布を調べた。世田谷区内では94%の境内に大木が存在し、大田区には38%の境内に生育が見られた。戦災・大気汚染等の影響が大田区域で見られた。
7. 境内にあって、出現頻度の高い樹種、現存数の多い樹種、御神木などの中から16種類を選び、境内のどの位置に存在するかを検討した。拝殿・本殿などの建物を包み込むように配置されているのが、ムクノキ、エノキ、ヒノキ、サワラ、シラカシ、スダジイの6種で、ほとんどが常緑樹で年間を通じて、建物を暗く包み、厳かな雰囲気を作り出している。神殿の近くに配置されているのがサカキである。

拝殿の前から鳥居までの参道沿いにあるのがモチノキ、イチョウ、クロマツ等である。境内への入り口である鳥居の近くに配置されているのがサクラ、ケヤキ、などの落葉樹で明るい雰囲気をつくっている。中流域との共通性が高い。
8. 下流域の神社の境内にある樹木はそのほとんどが植えられ、大事に育てられて、今日の姿がある。今回は境内の一部にスダジイ林、アカガシ林、ムクノキやエノキの林等の自然的要素の多く残る境内も見られた。
9. 戦災・大気汚染等の影響により下流部、特に大田区内で影響が見られた。世田谷区域では中流域と似た傾向が見られた。

10. 周辺環境の悪化により、長い歴史をもつ巨木・大木たちの枯死化が目立っている。さらに、神社に対する人々の思いも大きく変化しつつあり、さまざまな問題があるが、神社関係者の鎮守の森を守ろう、残していこうという気持ちには強いものがある。今後もさらに調査を進めて境内の樹木の姿を明らかにしていきたいと考えている。

## 謝 辞

本研究にあたり、とうきゅう環境浄化財団からは多大な援助をいただきました。心からお礼申し上げます。現地調査、データ整理などで次の方々には大変お世話になりました。深く感謝いたします。

青砥慧子、菊地真幸

さらに、各神社関係者の方々には、神社への立ち入りと樹木調査を許していただき、境内の樹木や神社の歴史、その他について貴重な情報を教えていただきました。

深く感謝の意を表します。

## 参考文献

1	貝塚爽平	1971年	東京の自然史	紀伊國屋書店
2	大田区教育委員会	1971年	大田区の神社	
3	東京都神社庁	1986年	東京都神社名鑑（上巻）	
4	東京都神社庁	1986年	東京都神社名鑑（下巻）	
5	世田谷区教育委員会	1987年	世田谷区神社台帳	
6	大森昌衛	1989年	東京の自然をたずねて	築地書館
7	竹内秀雄	1992年	世田谷区史跡散歩	学生社
8	府中市教育委員会	1993年	大國魂神社社叢の研究	
9	大濱徹也・吉原健一郎	1993年	江戸東京年表	小学館
10	岡田米夫	1995年	日本史小百科	神社
11	東京都歴史教育研究会	1995年	東京都の歴史散歩 上	山川出版社
12	東京都歴史教育研究会	1995年	東京都の歴史散歩 中	山川出版社
13	大田区教育委員会	1997年	大田の史跡めぐり	
14	竹内誠他	1997年	東京都の歴史	山川出版社
15	新倉善之	1998年	大田区史跡散歩	学生社
16	秋山好則	1998年	多摩川中流域における神社の境内の樹木の研究	とうきゅう環境浄化財団
17	市古夏生・鈴木健一編	1998年	斉藤幸雄・幸孝・幸成「江戸名所図会」	筑摩書房
18	東京市町村自治調査会	2000年	多摩鎮守の森をたずねて	
19	鈴木理生	2000年	東京の地理がわかる事典	日本実業出版
20	正井泰夫	2000年	この1冊で東京の地理が分かる	三笠書

# 資 料

- 資料1 世田谷区神社一覧表 ..... 82・83
- 資料2 大田区神社一覧表 ..... 84~87
- 資料3 御神木を境内に持つ神社の樹木配置図 ..... 88~111
- 資料4 東京の西多摩・北多摩・23区内の  
境内における大木の分布 ..... 112~144

## 資料 1

## 世田谷区神社一覽表

No.	神社名	所在地	調査日	本殿の向き	地 形	御神木	境内地(㎡)	種類数	現存数	神社名鑑	名鑑No.	備考(大木)
世-1	六所神社	赤堤 2-25-2	99.11.14	南	段丘崖斜面	マツ類	4009	30	126	329	26	
世-2	氷川神社	宇奈根 2-13-19	00.1.10	東	平坦地	イチヨウ	660	10	38	331	30	
世-3	大六天神社	大蔵 6-13-6	00.1.10	南西	段丘崖上平坦地			12	28	未記載		
世-4	氷川神社	大蔵 6-6-7	00.1.10	南	段丘崖上平坦地		3960	24	84	331	29	ケヤキ
世-5	八幡神社	岡本 2-21-2	00.1.8	南	段丘崖斜面	ケヤキ	1683	8		333	34	
世-6	奥沢神社	奥沢 5-22-1	00.3.19	南	平坦地	イチヨウ	2376	28	112	321	16	
世-7	豊川稲荷	奥沢 5-3-13	00.3.19	東	平坦地			4	4	未記載		
世-8	宇佐神社	尾山台 2-11-3	00.2.12	南	段丘崖斜面		8580	19		338	41	イチヨウ
世-9	八幡神社	粕谷 1-23-18	99.8.9	東	段丘崖斜面	イチヨウ	908	18	64	341	47	
世-10	天神社	鎌田 4-11-19	00.1.10	東	平坦地		396	10	17	335	36	
世-11	駒留八幡神社	上馬 5-35-3	00.1.3	南	段丘崖斜面		3300	23	73	323	19	ケヤキ
世-12	神明神社	上祖師谷 4-19-24	99.8.9	東	段丘崖斜面		1056	24	155	341	46	トネリコ
世-13	稲荷神社	上野毛 3-22-2	00.2.12	南	段丘崖斜面		792	16		319	13	アカガシ
世-14	諏訪神社	喜多見 3-20-12	00.1.10	東	平坦地			10	24	未記載		
世-15	須賀神社	喜多見 4-3-23	00.1.10	南東	平坦地	ムクノキ	218	4	8	333	33	ケヤキ
世-16	氷川神社	喜多見 4-26-1	96.12.15	東	平坦地		11550	21		330	28	スタジイ
世-17	成田稲荷	喜多見 7 丁目	未調査							未記載		
世-18	三峯神社	站 4-8-4	00.3.6	南	平坦地		1122	21	32	335	37	
世-19	六所神社	給田 1-3-7	99.8.9	北	段丘崖斜面		1379	21	94	342	49	
世-20	天祖神社	経堂 4-33-2	00.3.5	東	段丘崖斜面	クロマツ	2752	26	107	338	42	
世-21	稲荷神社	桜丘 2-29-3	00.3.5	南	平坦地			20	51	未記載		ケヤキ・イチヨウ
世-22	宇山稲荷神社	桜丘 4-14-18	00.12.10	西	段丘崖斜面	ケヤキ	2471	23	84	314	7	シラカシ
世-23	弁財天	桜上水 1 丁目	未調査							未記載		
世-24	勝利八幡神社	桜上水 3-21-6	99.12.22	南	平坦地		1650	21	58	323	25	イチヨウ
世-25	北沢八幡神社	代沢 3-25-3	99.12.28	南	段丘崖斜面		3346	32	117	321	17	昔スギ
世-26	代田八幡神社	代田 3-57-1	00.9.24	南西	段丘崖上平坦地	イチヨウ	221	20	77	344	51	ケヤキ
世-27	新田稲荷神社	新町 2-17-1	00.1.3	東	平坦地	サワラ	1508	21	39	313	3	
世-28	稲荷神社	瀬田 4-32-19	00.1.8	南	平坦地			15	36	未記載		ケヤキ
世-29	瀬田玉川神社	瀬田 4-11-31	00.1.8	東	段丘崖斜面		5610	26	71	317	11	

世-30	天祖神社	世田谷1-23-15	99.7.27	南	段丘崖斜面		1834	20	55	314	5	ケヤキ	
世-31	神明社	祖師谷5-1-7	99.8.9	南	平坦地	ケヤキ	1848	23	84	332	31		
世-32	額塚山大神	太子堂3丁目	未調査							未記載			
世-33	八幡神社	太子堂5-23-4	99.12.28	南	段丘崖斜面	クロマツ	3960	19	131	339	43	クスノキ	
世-34	諏訪神社	玉川3-26-5	00.2.12	南	平坦地		726	8	32	334	35		
世-35	稲荷神社	千歳台5-17-23	99.8.9	東	平坦地	イチヨウ	1320	19	66	332	32	ケヤキ	
世-36	弦巻神社	弦巻3-18-22	00.1.3	東	段丘崖斜面		1986	17	56	312	2	ケヤキ	
世-37	玉川神社	等々力3-27-7	00.3.21	南	段丘崖斜面		6600	24	105	316	10	ケヤキ・クスノキ	
世-38	天祖神社	中町3-18-1	00.3.21	南	平坦地		3300	23	74	319	14	アカガシ	
世-39	六所神社	野毛2-14-2	00.2.12	南東	段丘崖斜面		2970	17	77	337	40		
世-40	八幡社	八幡山1-12-2	99.12.22	南西	平坦地	カヤ	680	13	37	342	48		
世-41	羽根木神社	羽根木2-17-5	99.11.14	南東	平坦地	(スギ)	821	16	34	314	6		
世-42	東玉川神社	東玉川1-32-9	00.4.2	西	段丘崖斜面		2145	20	98	320	15	クスノキ	
世-43	深沢神社	深沢5-11-1	00.3.21	南東	段丘崖斜面		2640	26	63	336	39		
世-44	神明神社	船橋4-40-17	99.12.22	東	平坦地	クロマツ	847	22	91	340	44		
世-45	稲荷神社	大原2-29-21	99.11.14	東	平坦地	ホウノキ	1864	13	53	343	50	スダジイ	
世-46	菅原神社	松原3-20-16	99.11.14	東	平坦地		1762	16	51	315	9	イチヨウ	
世-47	稲荷神社	松原6-9-17	00.9.24	東	段丘崖斜面		990	9	30	315	8	イチヨウ	
世-48	稲荷神社	三宿1-14-24	2001.1.3	東	平坦地			12	59	未記載		クスノキ	
世-49	三宿神社	三宿2-27-6	99.12.28	南	段丘崖斜面	イチヨウ	1600	20	59	326	22	ケヤキ	
世-50	烏山神社	南島山2-21-1	99.11.27	西	平坦地		2386	22	98	340	45	クロマツ	
世-51	世田谷八幡宮	宮坂1-23-20	00.9.24	南	段丘崖斜面		13134	24	152	312	1	ツクバネガシ	
世-52	用賀神社	用賀2-14-3	00.1.8	西	段丘崖斜面	ケヤキ	2640	21	65	318	12		
世-53	福寿稲荷社	若林2-18-1	99.12.28	南	段丘崖斜面		1229.9	8	25	324	20		
世-54	北野神社 天満宮	若林3-34	00.1.3	西	段丘崖斜面		363	6	16	325	21		
世-55	松陰神社	若林4-35-1	99.7.27	南	平坦地		15000	18	93	322	18	クスノキ	
世-56	駒繫神社	下馬4-27-26	00.8.24	東	段丘崖斜面	イチヨウ	4950	23	100	327	24	ケヤキ	
世-57	稲荷神社	野沢2-2-13	2001.2.18	東	段丘崖斜面	イチヨウ	1155	19	61	326	23	クスノキ	
世-58	池尻稲荷神社	池尻2-34-15	2001.2.18	東	段丘崖上平坦地	クスノキ	2000	14	36	336	38	ケヤキ	
							140297.7	999	3400				DBH80cm以上
							49社	55社	51社				
							平均	18.2	66.7				

## 資料 2

## 大田区神社一覽表

No.	神社名	所在地	調査日	本殿の向き	地 形	御神木	境内地(㎡)	種類数	現存数	神社名鑑	名鑑No.	備 考 (大木)
大-1	大森神社	大森北6-32-12	98. 8. 29	東	平坦地		1046.1	7	11	260	19	
大-2	八幡神社	大森中3-3-8	98.11. 29	東	平坦地		2402.4	9	53	261	20	
大-3	三輪神社	大森中3-14-15	98.11. 29	東	平坦地		990.0	4	15	264-2	24	
大-4	三輪厳島神社	大森東4-35-3	98.11. 29	東	平坦地		1376.1	7	21	264-1	23	
大-5	三輪神社	大森西5-18-5	00. 8. 10	北	平坦地		1438.8	2	8	262	21	
大-6	稲荷神社	大森南3-27-8	98.11. 29	東	平坦地		1471.8	9	29	263	22	
大-7	玉森稲荷神社	大森東1-1-11	00. 8. 10	南	平坦地		495.0	3	9	265	25	
大-8	稲荷神社	大森東1-6	未調査							未記載		
大-9	貴船神社	大森東3-9-19	98.11. 29	南	平坦地		2599.1	18	63	267-2	28	
大-10	貴船神社	大森西5-27-7	98.11. 29	東	平坦地		877.8	6	21	269	30	
大-11	諏訪神社	大森西2-23-6	98. 8. 29	東	平坦地		1518.0	9	17	268	29	
大-12	金山神社	大森西2-23	未調査							未記載		
大-13	浅間神社	大森西2-2-7	98. 8. 29	北	平坦地		2957.5	11	31	266	26	
大-14	磐井神社	大森北2-20-8	98. 8. 29	東	平坦地	イチヨウ	4066.1	8	32	270	31	
大-15	鷲神社	大森北1-15-12	00. 8. 10	南西	平坦地		661.2	4	7	271-1	32	
大-16	根岸神社	大森北4-24-3	00. 8. 10	南東	平坦地		562.0	4	11	271-2	33	
大-17	稲荷神社	大森北3-18-17	00. 8. 10	南	平坦地		304.1	4	9	272-1	34	タブノキ
大-18	稲荷神社	大森北6-9-5	00. 8. 10	西	平坦地		241.3	2	4	272-2	35	
大-19	稲荷神社	大森北6-15-3	98. 8. 29	東	平坦地		241.3	17	34	272-3	36	
大-20	八幡神社	南馬込5-2-11	98. 9. 12	東	段丘崖斜面		1877.7	12	39	274	38	アカガシ
大-21	神明社	南馬込1-40-11	98. 9. 12	南東	段丘崖斜面		796.7	5	9	275-2	40	
大-22	湯殿神社	南馬込5-18-7	98. 9. 12	南	段丘崖斜面	イチヨウ	958.7	14	43	277-2	45	アカガシ・スタジイ
大-23	稲荷神社	南馬込4-9-15	未調査							277-1	44	
大-24	熊野神社	南馬込4-13-24	98.10. 30	南東	段丘崖斜面		542.2	12	22	276-2	42	
大-25	北野神社	南馬込2-26-14	98. 9. 12	北	段丘崖斜面		2667.8	14	40	276-1	41	クロマツ
大-26	天祖神社	北馬込2-28-13	98. 9. 12	南東	段丘崖斜面	スタジイ	760.3	11	14	278-1	46	



大-27	諏訪神社	東馬込 1-43-9	98.9.12	南	段丘崖斜面	247.9	2	3	278-2	47	昔シイ
大-28	稲荷神社	中馬込 3-14	未調査						未記載		
大-29	稲荷神社	西馬込 2-18-6	2001.1.3	南東	段丘崖斜面	990.8	13		279-1	48	
大-30	稲荷神社	西馬込 1-11-4	未調査						未記載		
大-31	浅間神社	中馬込 1-1-21	98.9.12	西	段丘崖斜面	651.5	4	9	267-1	27	
大-32	春日神社	中央 1-14-1	98.8.29	西	平坦地	2003.0	16	50	250-2	4	
大-33	天祖神社	山王 2-8-1	98.8.29	南東	段丘崖斜面	1573.0	23	69	252-1	6	
大-34	日枝神社	山王 1-6-2	00.8.10	東	段丘崖斜面	1226.0	14	31	251-1	5	
大-35	稲荷神社	山王 1-27-17	未調査						252-2	7	
大-36	稲荷神社	山王 3-10-9	未調査						253-2	9	
大-37	根ヶ原神社	山王 3-15-23	00.8.10	南東	平坦地	376.0	6	23	253-1	8	ケヤキ
大-38	太田神社	中央 6-3-24	98.10.30	南東	段丘崖斜面	1880.0	22	77	254-1	10	
大-39	塚方神社	池上 1-15-2	98.10.30	南東	段丘崖斜面	1418.0	16	61	254-2	11	クスノキ
大-40	稲荷神社	池上 1-34-12	未調査						255-1	12	
大-41	熊野神社	山王 3-43-11	00.8.10	南	段丘崖斜面	2595.0	17	67	249-1	1	ケヤキ
大-42	成高神社	山王 4-23-5	98.8.29	西	段丘崖斜面	1669.0	21	46	249-2	2	
大-43	稲荷神社	中央 5-4-2	98.10.30	南	段丘崖斜面	1653.0	8	48	250-1	3	スダジイ
大-44	浅間神社	田園調布 1-55-12	00.4.4	南	段丘崖斜面	4958.0	25	162	302-1	90	アカガシ
大-45	八幡神社	田園調布 5-30-16	00.4.4	南西	段丘崖斜面	1395.1	25	78	303-1	92	クロマツ
大-46	八幡神社	東雪谷 2-25-1	00.4.2	南	段丘崖斜面	6612.0	27	13	301	89	
大-47	八幡神社	久が原 1-7-9	00.4.6	東	平坦地	958.7	8	24	302-2	91	
大-48	石川神社	石川町 1-19	00.4.2	南	段丘崖斜面	304.1	6	16	303-2	93	ケヤキ
大-49	八幡神社	南千束 2-23-10	00.4.2	南	段丘崖斜面	2083.0	26	95	300	88	ケヤキ
大-50	八幡神社	仲池上 1-14-22	00.4.6	南	段丘崖斜面	5672.7	37	160	273	37	
大-51	御嶽神社	北嶺町 37-20	99.2.7	南	段丘崖斜面	3435.3	22	86	304-2	95	
大-52	白山神社	東嶺町 31-17	99.2.7	西	段丘崖斜面	1970.0	12	27	305	96	
大-53	天祖神社	西嶺町 4-1	99.2.7	東	段丘崖斜面	593.2	7	16	306-2	98	カヤ
大-54	稲荷神社	西嶺町 18-3	99.2.7	西	段丘崖斜面	544.5	7	15	306-1	97	ケヤキ

No.	神社名	所在地	調査日	本殿の向き	地 形	御神木	境内地(㎡)	種類数	現存数	神社名鑑	名鑑No.	備考(大木)
大-55	八幡神社	南久が原 2-24-1	99. 2. 7	西	段丘崖斜面		1297.0	12	37	304-1	94	ムクノキ
大-56	八幡神社	久が原 2-18-4	00. 4. 6	東	段丘崖斜面	スタジイ	1441.3	19	38	257	15	
大-57	八幡神社	久が原 4-2-7	00. 4. 6	南東	段丘崖斜面		2641.3	16	67	256	14	
大-58	徳持神社	池上 3-38-17	98.10.30	南	平坦地		3041.3	20	73	255-2	13	
大-59	羽田神社	本羽田 3-9-12	98.11.15	東	平坦地		3305.8	18	45	294	75	
大-60	羽田神社別宮	本羽田 1-29-5	98.11.15	東	平坦地			8	16	未記載		
大-61	天祖神社	本羽田 3-12-12	98.11.15	東	平坦地		694.0	11	24	295-3	78	
大-62	稻荷神社	本羽田 1-7-14	98.11.15	南	平坦地		204.4	3	15	295-2	77	
大-63	稻荷神社	本羽田 1-12-9	98.11.15	東	平坦地		915.0	10	26	295-1	76	
大-64	水神社	羽田 6-13-8	98.11.15	南	平坦地		132.2	10	21	297-1	81	
大-65	稻荷神社	羽田 6-20-10	98.11.15	南	平坦地		208.3	6	13	296-1	79	
大-66	稻荷神社	羽田 5-27-8	未調査				396.7			296-2	80	
大-67	穴守稻荷神社	羽田 5-2-7	98.11.15	南	平坦地		6600.0	24	70	293-2	74	
大-68	天祖神社	萩中 1-5-18	98.11.15	南	平坦地		3008.2	14	80	297-2	82	
大-69	天祖神社	西糺谷 4-7-18	98.11.29	南	平坦地		924.1	10	26	298-1	83	
大-70	天祖神社	西糺谷 4-9-17	98.11.29	南	平坦地		1322.3	9	21	298-2	84	
大-71	天祖神社	西糺谷 3-19-18	98.11.29	南	平坦地		1418.0	14	38	299-2	87	
大-72	稻荷神社	西糺谷 3-29-1	98.11.29	南	平坦地			6	11	未記載		
大-73	天祖神社	西糺谷 1-25-3	98.11.29	東	平坦地		249.7	3	8	299-1	86	
大-74	天祖神社	西糺谷 2-20-22	98.11.29	西	平坦地		339.1	7	15	298-3	85	
大-75	村守稻荷神社	東糺谷 4-3-6	98.11.29	南西	平坦地			20	43	未記載		
大-76	八幡神社	北糺谷 1-22-10	98.11.29	南	平坦地		3305.8	16	48	280-2	51	イチヨウ
大-77	六郷神社	東六郷 3-10-18	98.12.12	南	平坦地		13200.0	25	10	287-1	60	昔スギ
大-78	八雲神社	南六郷 1-27-13	未調査							287-2	61	
大-79	八幡神社	南六郷 3-3-6	00.12.24	東	平坦地		572.0	12	19	288-2	63	
大-80	御嶽神社	南六郷 2-16-16	未調査							288-1	62	
大-81	北野神社	仲六郷 4-29-8	98.12.12	南東	平坦地		1296.0	11	81	289-2	65	






















大-82	熊野神社	仲六郷 2-44-7	98.12.12	南東	平坦地		479.0	4	12	289-1	64
大-83	高畑神社	西六郷 4-8-8	98.12.12	南	平坦地		1203.0	14	34	290-2	68
大-84	諏訪神社	西六郷 2-35-9	98.12.12	南	平坦地		255.0	4	11	290-1	67
大-85	白山神社	西六郷 2-23-14	98.12.12	南	平坦地		1225.0	9	16	289-2	66
大-86	稗田神社	蒲田 3-2-10	00.12.24	南東	平坦地		3552.0	11	71	282	53
大-87	八幡神社	蒲田 4-18-18	00.12.24	南	平坦地		3167.0	23	81	281	52
大-88	北野神社	南蒲田 1-6-5	00.12.24	東	段丘崖斜面		1522.0	13	48	284-2	56
大-89	椿神社	蒲田 2-20-11	00.12.24	南	平坦地		66.0	3	6	285-1	57
大-90	御園神社	西蒲田 7-40-8	98.9.6	南	平坦地		1698.0	12	39	284-1	55
大-91	女塚神社	西蒲田 6-22-1	98.9.6	東	平坦地		1013.0	13	40	283	54
大-92	熊野神社	西蒲田 6-13-13	98.9.6	南	平坦地		1610.0	13	28	291-1	69
大-93	道塚神社	新蒲田 3-4-10	98.9.6	東	平坦地		1296.0	5		292-2	72
大-94	八幡神社	東矢口 3-28-7	98.9.6	南	平坦地	スタジイ	757.0	10	28	291-2	70
大-95	安方神社	多摩川 1-5-11	98.9.6	南	平坦地		2112.0	12	34	292-1	71
大-96	諏訪神社	多摩川 2-10-2	98.9.6	南	平坦地	スタジイ	1156.3	10	36	258	16
大-97	新田神社	矢口 1-21-23	00.1.22	東	平坦地	ケヤキ	3451.0	18	134	285-2	58
大-98	氷川神社	矢口 1-27-7	00.1.22	東	平坦地		1619.0	12	45	286	59
大-99	十奇神社	矢口 2-17-28	00.1.22	西	平坦地		627.5	6	13	259-2	18
大-100	今泉神社	矢口 2-2-21	00.1.22	南	平坦地		798.0	6	15	293-1	73
大-101	東八幡神社	矢口 3-17-3	00.1.22	南	平坦地		1615.5	13	30	259-1	17
大-102	六所神社	下丸子 4-16-5	2001.1.3	東	平坦地		1808.3	15	36	275-1	39
大-103	天祖神社	下丸子 3-10-8	99.2.7	南	平坦地		836.4	7	10	279-2	49
大-104	諏訪神社	下丸子 4-14-5	2001.1.3	東	平坦地		370.3	3	5	280-1	50
大-105	晴南神社	南馬込 3-5-15	未調査							未記載	
大-106	洗足弁財天	南千束 2-13	00.4.2	東	島(洗足池)			19	50	未記載	
							154411.4	1115	3507		D B H80cm以上
							90社	94社	92社		
							平均	1715.7	11.9	38.1	

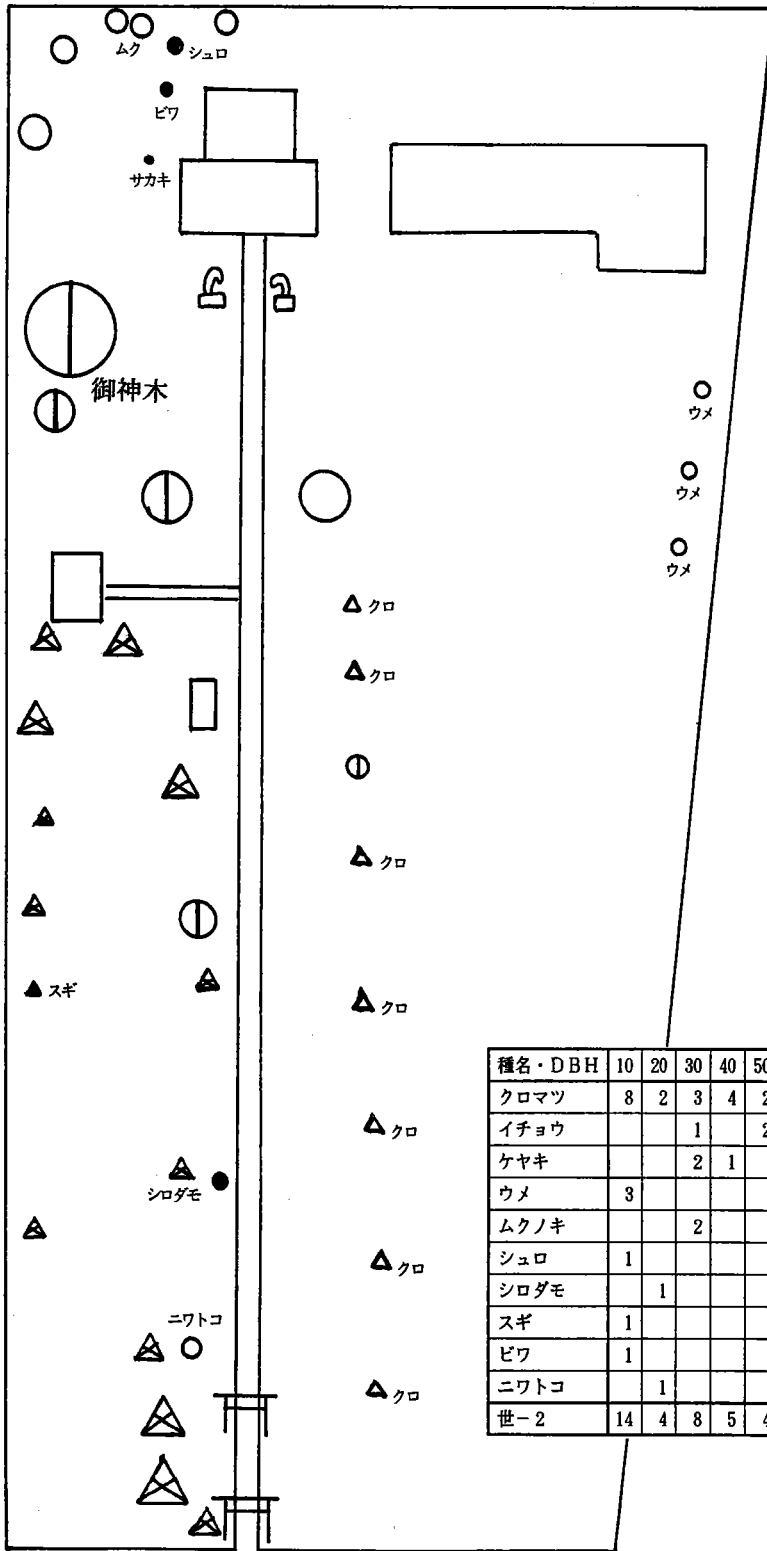
# 資料 3

## 御神木を境内に持つ神社の樹木配置図

図No.	No.	神社名	所在地	御神木
1	世-2	氷川神社	宇奈根 2-13-19	イチョウ
2	世-15	須賀神社	喜多見 4-3-23	ムクノキ
3	世-20	天祖神社	経堂 4-33-2	クロマツ
4	世-26	代田八幡神社	代田 3-57-1	イチョウ
5	世-27	新田稲荷神社	新町 2-17-1	サワラ
6	世-35	稲荷神社	千歳台 5-17-23	イチョウ
7	世-41	羽根木神社	羽根木 2-17-5	スギ
8	世-45	稲荷神社	大原 2-29-21	ハウノキ
9	世-57	稲荷神社	野沢 2-2-13	イチョウ
10	世-58	池尻稲荷神社	池尻 2-34-15	クスノキ
11	大-14	磐井神社	大森北 2-20-8	イチョウ
12	大-22	湯殿神社	南馬込 5-18-7	イチョウ
13	大-26	天祖神社	北馬込 2-28-13	スダジイ
14	大-33	天祖神社	山王 2-8-1	スダジイ
15	大-34	日枝神社	山王 1-6-2	スダジイ
16	大-47	八幡神社	久が原 1-7-9	ムクノキ
17	大-51	御嶽神社	北嶺町 37-20	クロマツ
18	大-52	白山神社	東嶺町 31-17	タブノキ
19	大-56	八幡神社	久が原 2-18-4	スダジイ
20	大-58	徳持神社	池上 3-38-17	クスノキ
21	大-94	八幡神社	東矢口 3-28-7	スダジイ
22	大-96	諏訪神社	多摩川 2-10-2	スダジイ
23	大-97	新田神社	矢口 1-21-23	ケヤキ

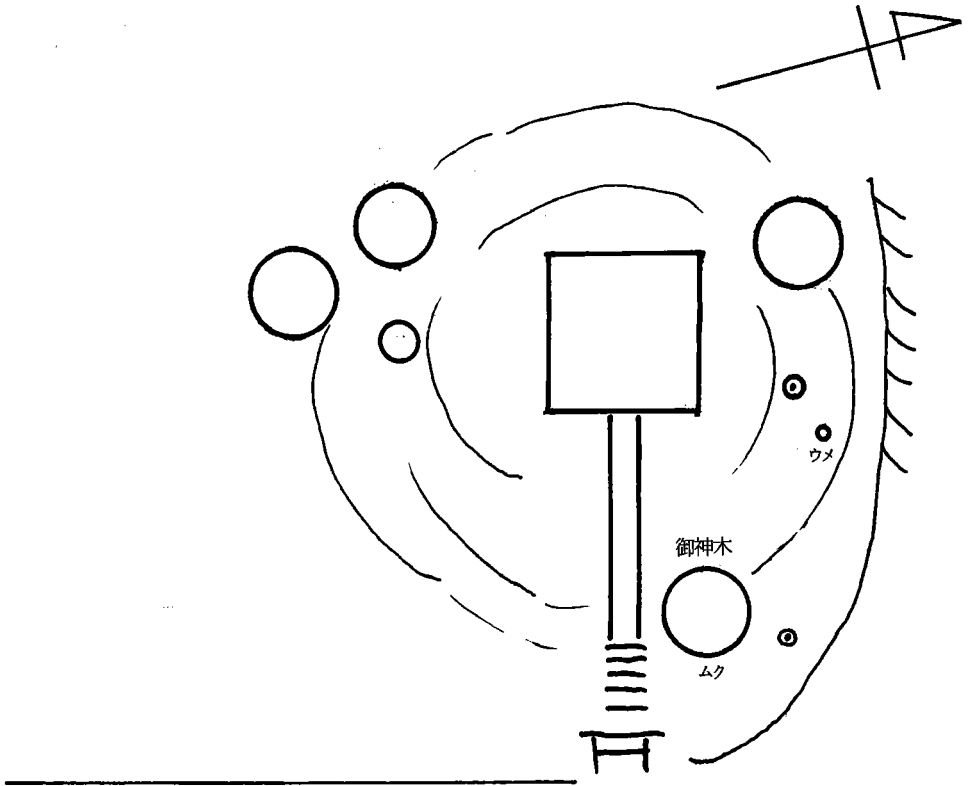
境内の樹木配置図の記号と植物名の説明

-  無記名-シラカン
-  アカ アカガシ
-  アラ アラカン
-  クス クスノキ
-  シイ スダジイ
-  タブ タブノキ
-  ヒサ ヒサカキ
-  マテ マテバシイ
-  モチ モチノキ
-  無記名-ケヤキ
-  イチョウ
-  サクラ
-  ムク ムクノキ
-  無記名-ヒノキ
-  アカマツ
-  クロマツ
-  ヒマ ヒマラヤスギ
-  スギ
-  狛犬
-  灯籠
-  手水舎



種名・DBH	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100	110	120	130	計
クロマツ	8	2	3	4	2									19
イチョウ			1	2			1						1	5
ケヤキ			2	1			1							4
ウメ	3													3
ムクノキ			2											2
シュロ	1													1
シロダモ		1												1
スギ	1													1
ビワ	1													1
ニワトコ		1												1
世-2	14	4	8	5	4		2						1	38

図1 氷川神社 (世-2)



種名・DBH	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100	110	計
ケヤキ					1					1	2	4
サクラ	1	1										2
ムクノキ											1	1
ウメ	1											1
世-15	2	1			1					1	3	8

図2 須賀神社 (世-15)

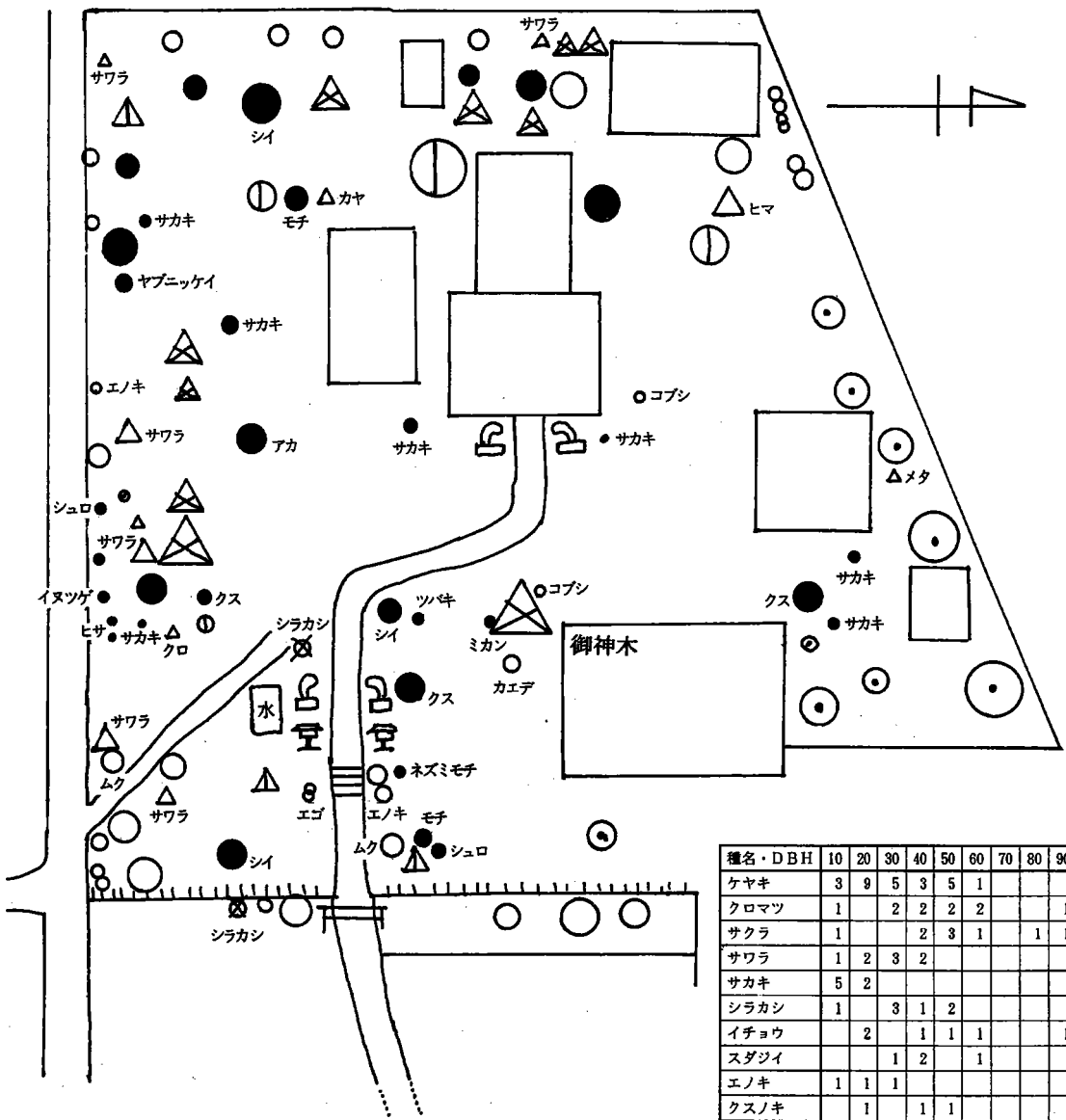


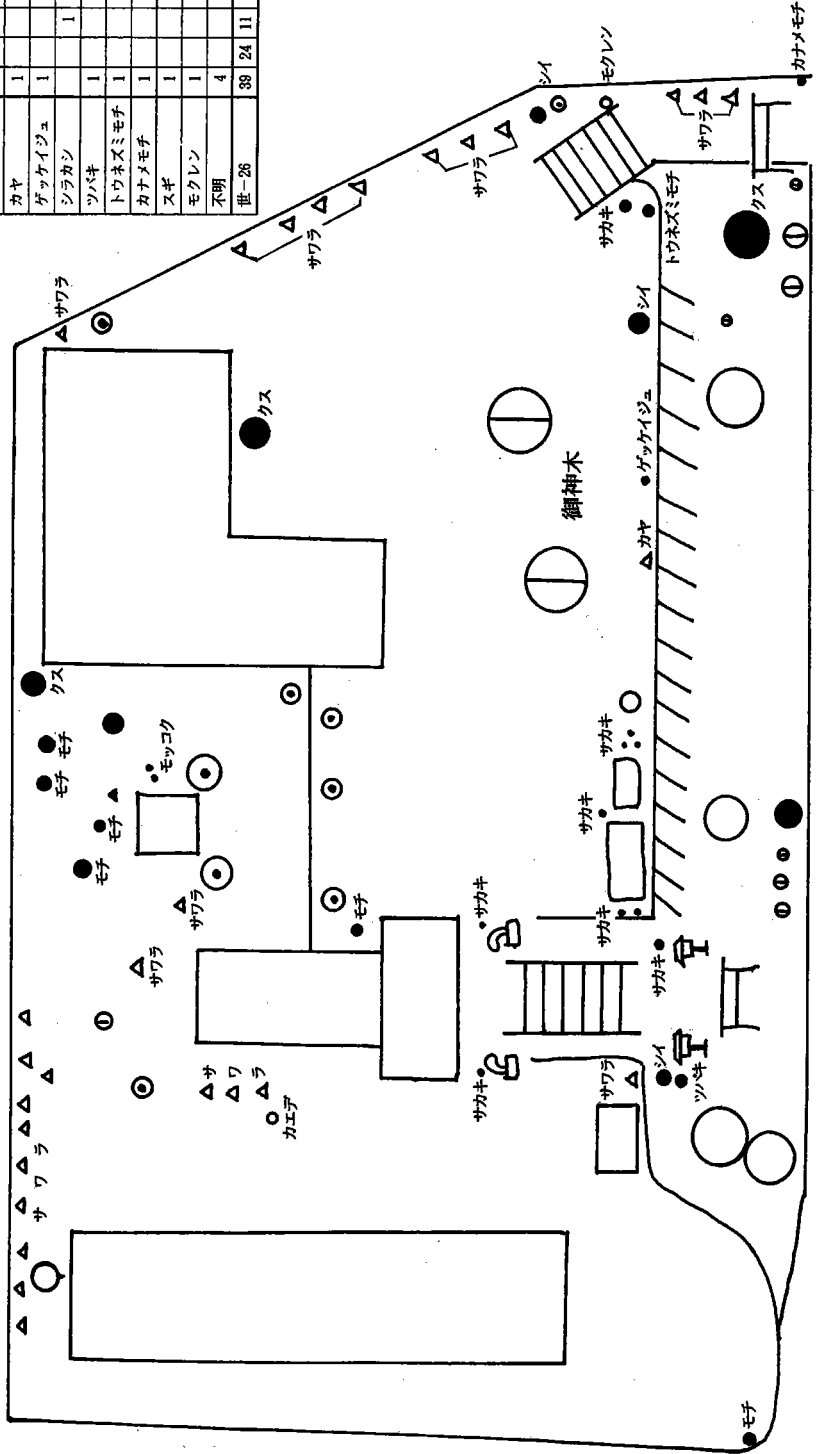
図3 天祖神社 (世-20)

種名・DBH	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100	計
ケヤキ	3	9	5	3	5	1					26
クロマツ	1	2	2	2	2	2			1	1	11
サクラ	1		2	3	1			1	1		9
サワラ	1	2	3	2							8
サカキ	5	2									7
シラカシ	1		3	1	2						7
イチョウ		2		1	1	1			1		6
スダジイ			1	2		1					4
エノキ	1	1	1								3
クスノキ		1		1	1						3
アカマツ				1	1						2
エゴノキ	2										2
コブシ	2										2
シュロ	1	1									2
ヒサカキ	2										2
ムクノキ			2								2
モチノキ		1	1								2
アカガシ					1						1
カエデ		1									1
カヤ		1									1
ツバキ	1										1
ネズミモチ	1										1
ヒマラヤスギ				1							1
ミカン	1										1
メタセコイア	1										1
ヤブニッケイ		1									1
世-20	24	22	18	16	16	6		1	3	1	107



図4 代田八幡神社 (世-26)

種名・DBH	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100	計
サワラ	14	14									28
イチヨウ	3	3	2						1	1	10
サクラ		1	6	2							9
ケヤキ		1		1					1	1	6
モチノキ	5	1									6
クスノキ		1	2	1							4
サカキ	3										3
スダシイ		3									3
モッコク		2									2
カエデ		1									1
カヤ		1									1
ゲッケイジュ		1									1
シラカシ			1								1
ツバキ		1									1
トウネズミモチ		1									1
カナメモチ		1									1
スギ		1									1
モクレン		1									1
不明		4									4
世-26	38	24	11	2	2	1	1	1	3	1	84



種名・DBH	10	20	30	40	50	60	70	80	計
スダジイ			3	1	2				6
イチョウ					1	1	1	1	4
ケヤキ			2	1					3
ヒノキ			3						3
クロマツ	2				1				3
カエデ	1	1							2
ウメ	2								2
サカキ	2								2
マチバシイ	1	1							2
ムクノキ			1		1				2
アカマツ			1						1
エノキ				1					1
トウカエデ			1						1
クスノキ		1							1
モミ	1								1
コブシ	1								1
サワラ						1			1
イヌザクラ				1					1
タラヨウ	1								1
ヒマラヤスギ			1						1
モチノキ	1								1
世-27	12	2	13	4	5	2	1	1	40

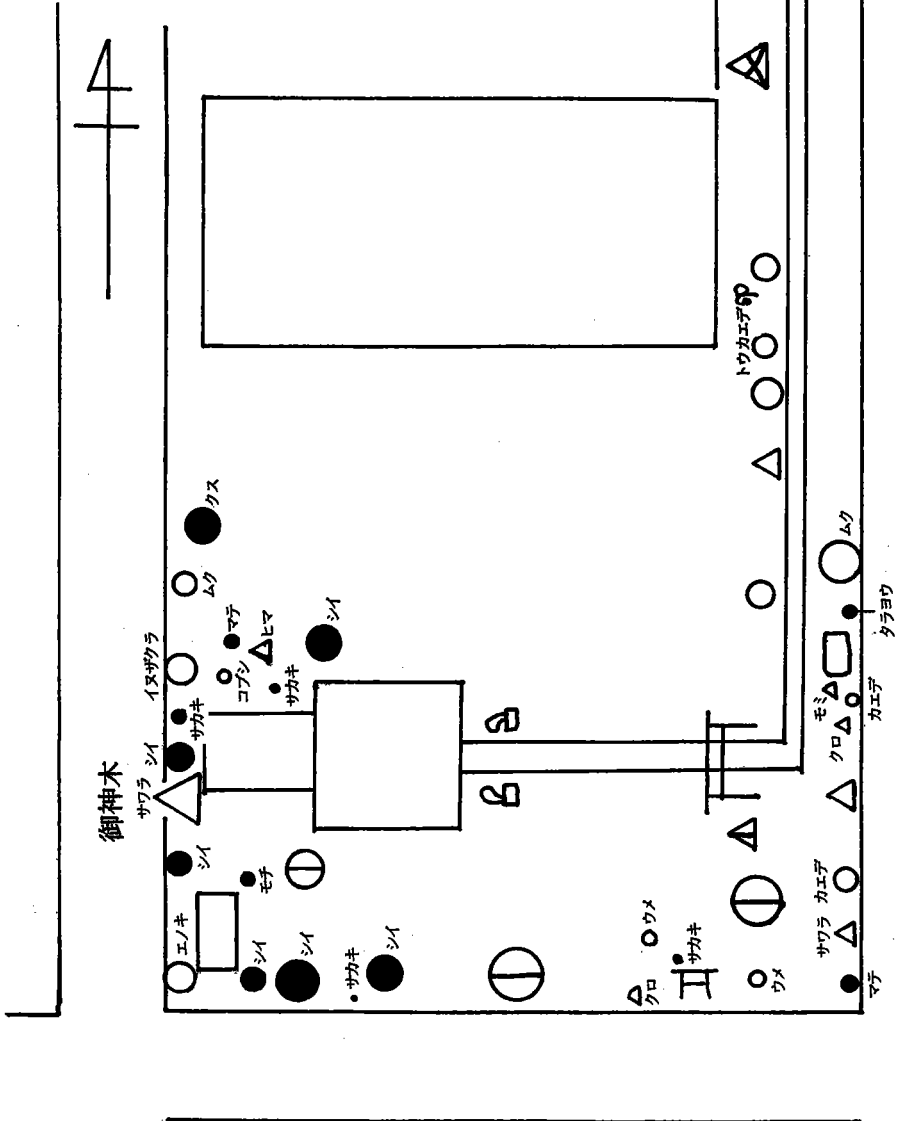
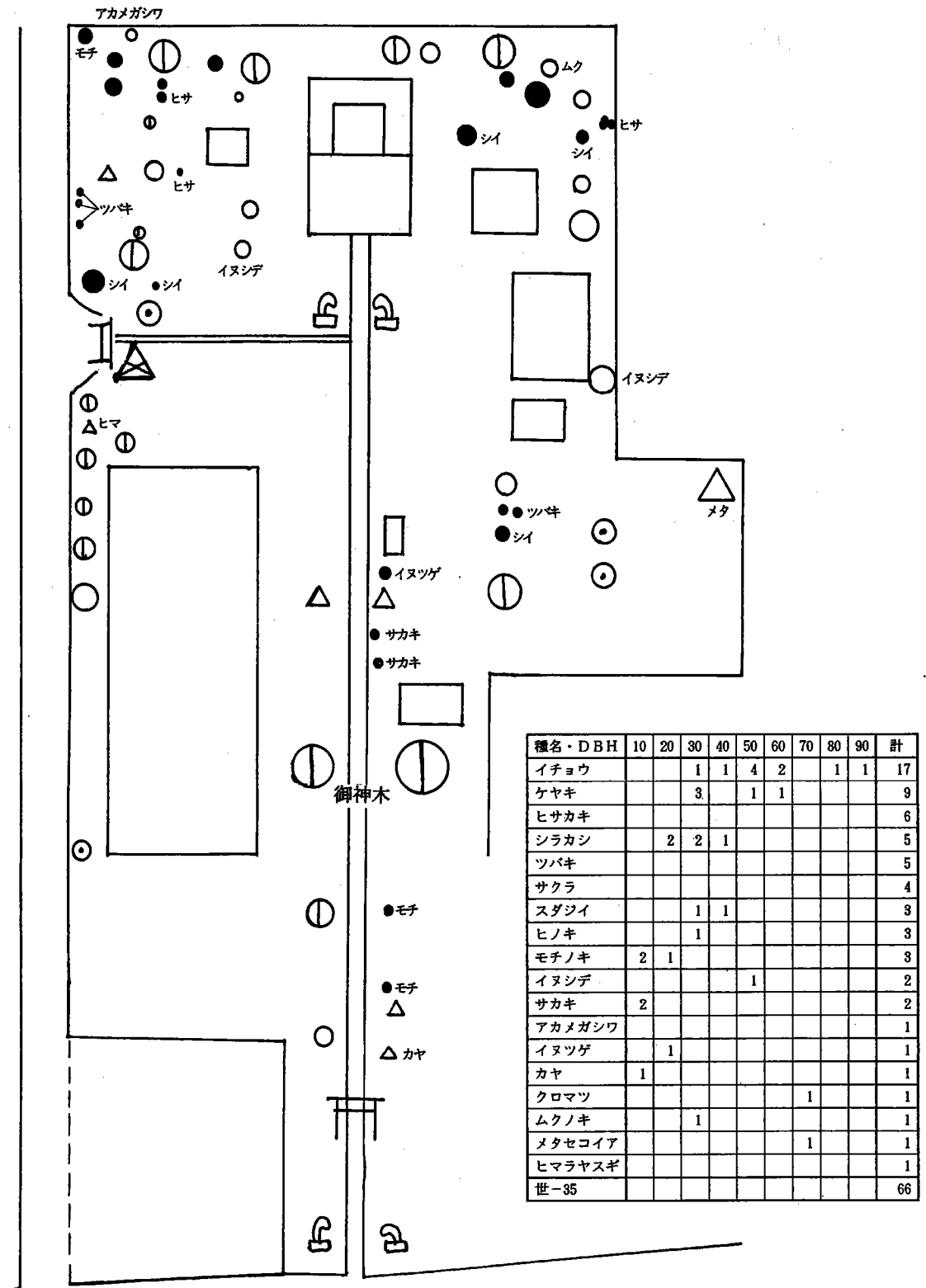
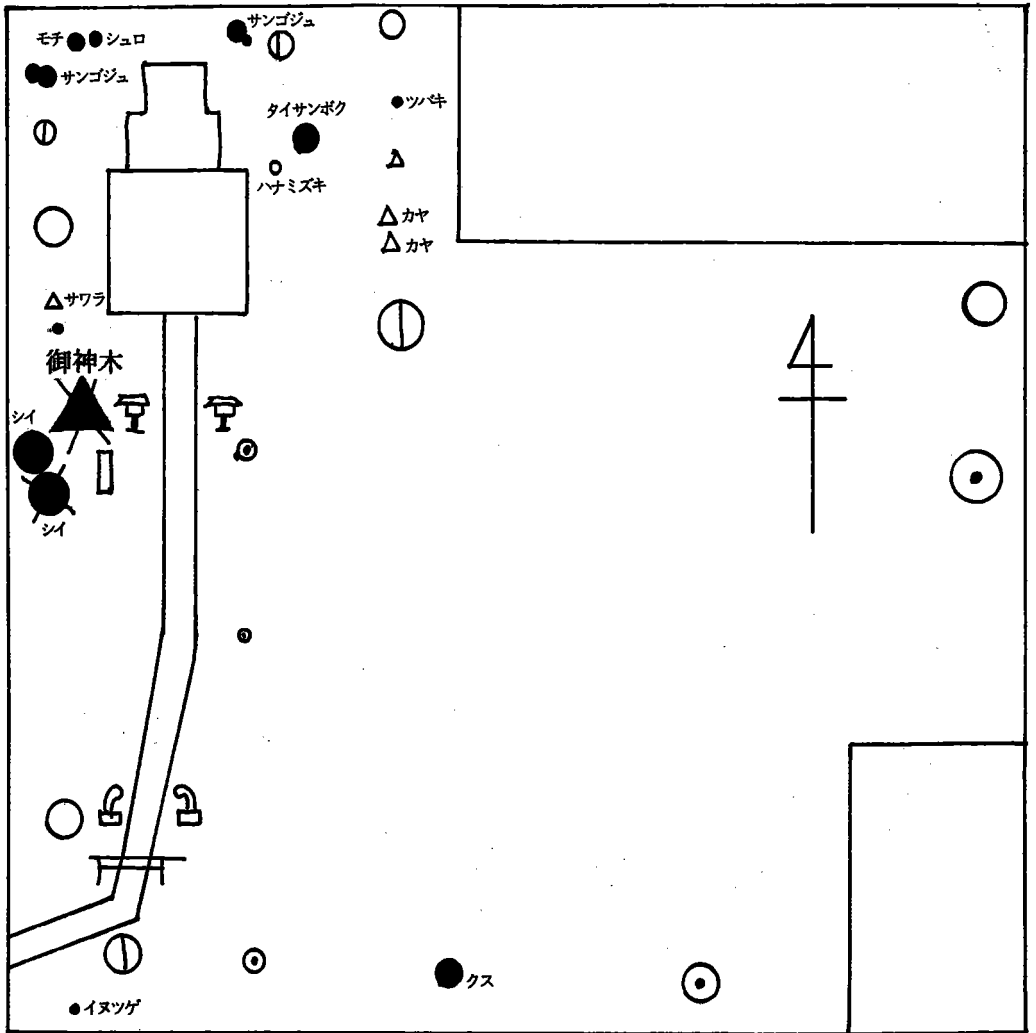


図5 新田稲荷神社 (世-27)



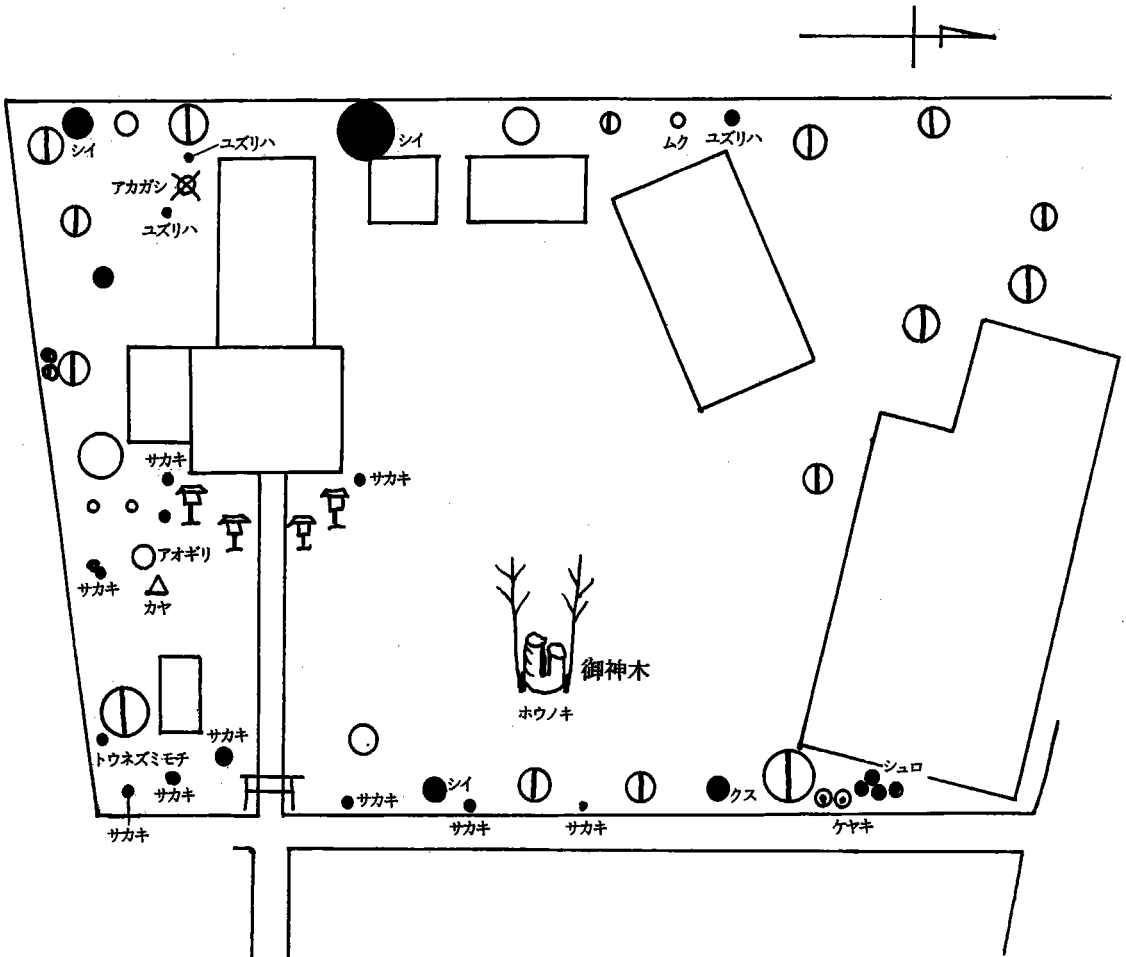
種名・DBH	10	20	30	40	50	60	70	80	90	計
イチョウ			1	1	4	2		1	1	17
ケヤキ			3		1	1				9
ヒサカキ										6
シラカシ		2	2	1						5
ツバキ										5
サクラ										4
スダジイ			1	1						3
ヒノキ			1							3
モチノキ	2	1								3
イヌシデ					1					2
サカキ	2									2
アカメガシワ										1
イヌツゲ		1								1
カヤ	1									1
クロマツ							1			1
ムクノキ			1							1
メタセコイア							1			1
ヒマラヤスギ										1
世-35										66

図6 稲荷神社 (世-35)



種名・DBH	10	20	30	40	50	60	70	計
サクラ	1	1	1		1		1	5
イチョウ		1	1		1	1		4
ケヤキ			1		3			4
サンゴジュ	1	3						4
カヤ		2						2
ヒノキ		1						1
スダジイ					1			1
イヌツゲ	1							1
クスノキ			1					1
モチノキ	1							1
サワラ	1							1
シュロ	1							1
ハナミズキ	1							1
ツバキ	1							1
シラカシ	1							1
タイサンボク			1					1
世-41	9	8	5		6	1	1	30

図7 羽根木神社 (世-41)

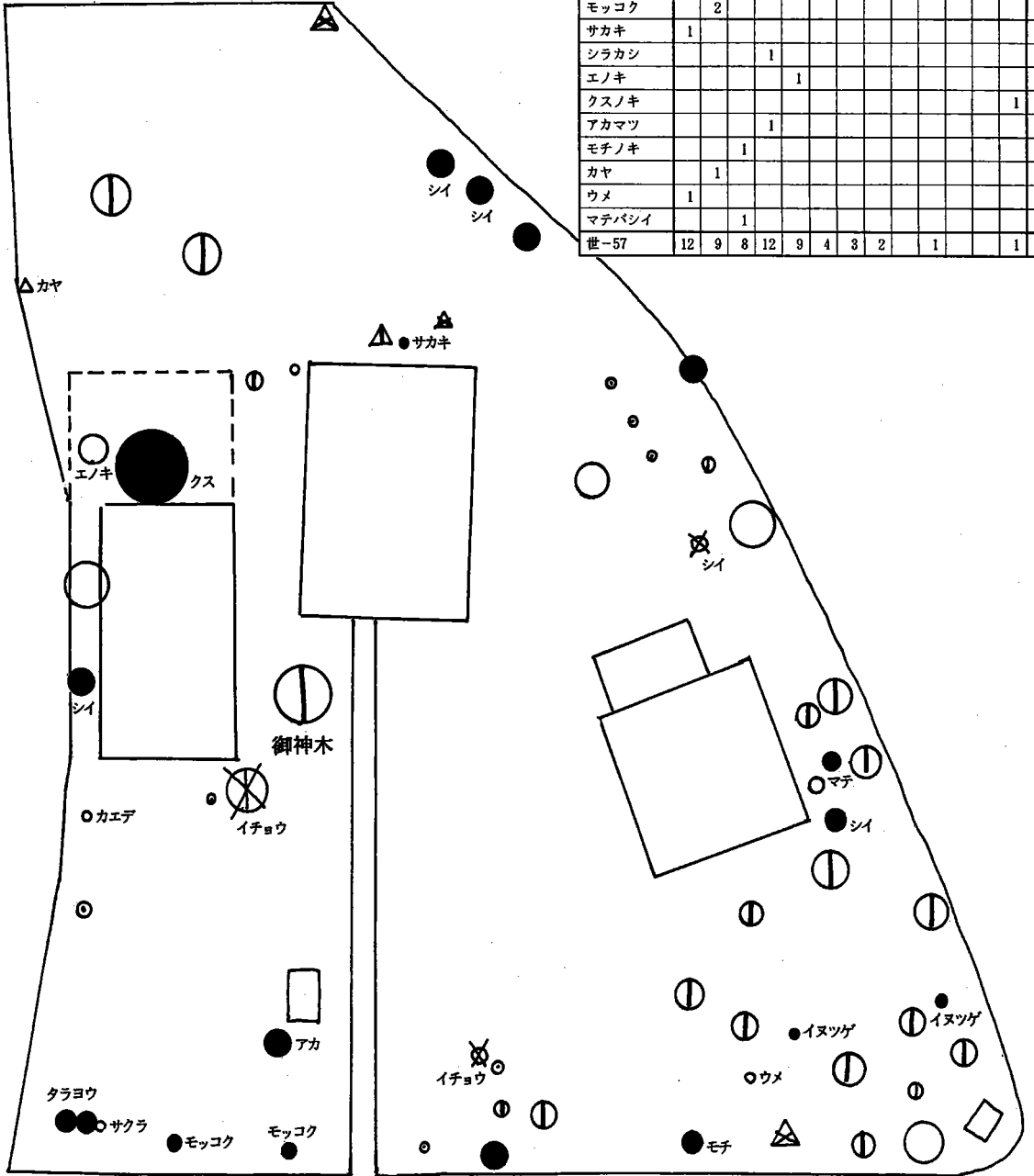


種名・DBH	10	20	30	40	50	60	70	80	90	計
イチョウ			1	4	7	1	1	1		15
サカキ	9	1								10
ケヤキ	1	2	1	1	1		1			7
シュロ		4								4
ユズリハ	2	1								3
スタジイ				1					1	2
アオギリ			1							1
カヤ			1							1
クスノキ			1							1
サクラ		1								1
ホウノキ								1		1
トウネズミモチ	1									1
ムクノキ		1								1
世-45	13	10	5	6	8	1	2	2	1	48

図8 稲荷神社 (世-45)

図9 稲荷神社 (世-57)

種名・DBH	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100	110	120	130	計
イチョウ	1	2	2	8	2	3	2			1				21
サクラ	6	2												8
ケヤキ		1				1	1	2						5
スダジイ			1	1	3									5
クロマツ			1	1	1									3
アカガシ					2									2
イヌツゲ	1	1												2
タラヨウ			2											2
カエデ	2													2
モッコク		2												2
サカキ	1													1
シラカン				1										1
エノキ					1									1
クスノキ													1	1
アカマツ				1										1
モチノキ			1											1
カヤ		1												1
ウメ	1													1
マテバシイ			1											1
世-57	12	9	8	12	9	4	3	2		1			1	61



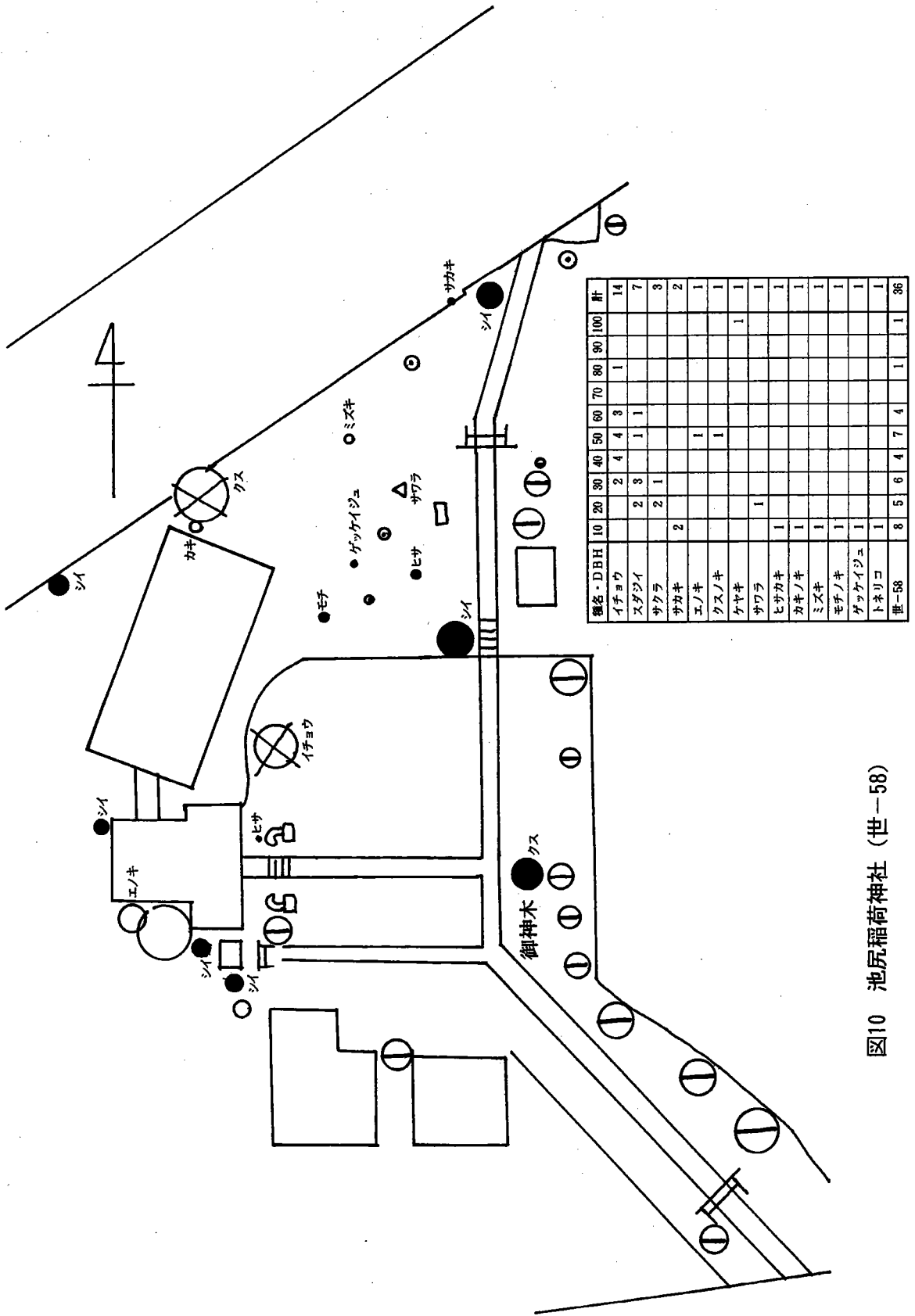
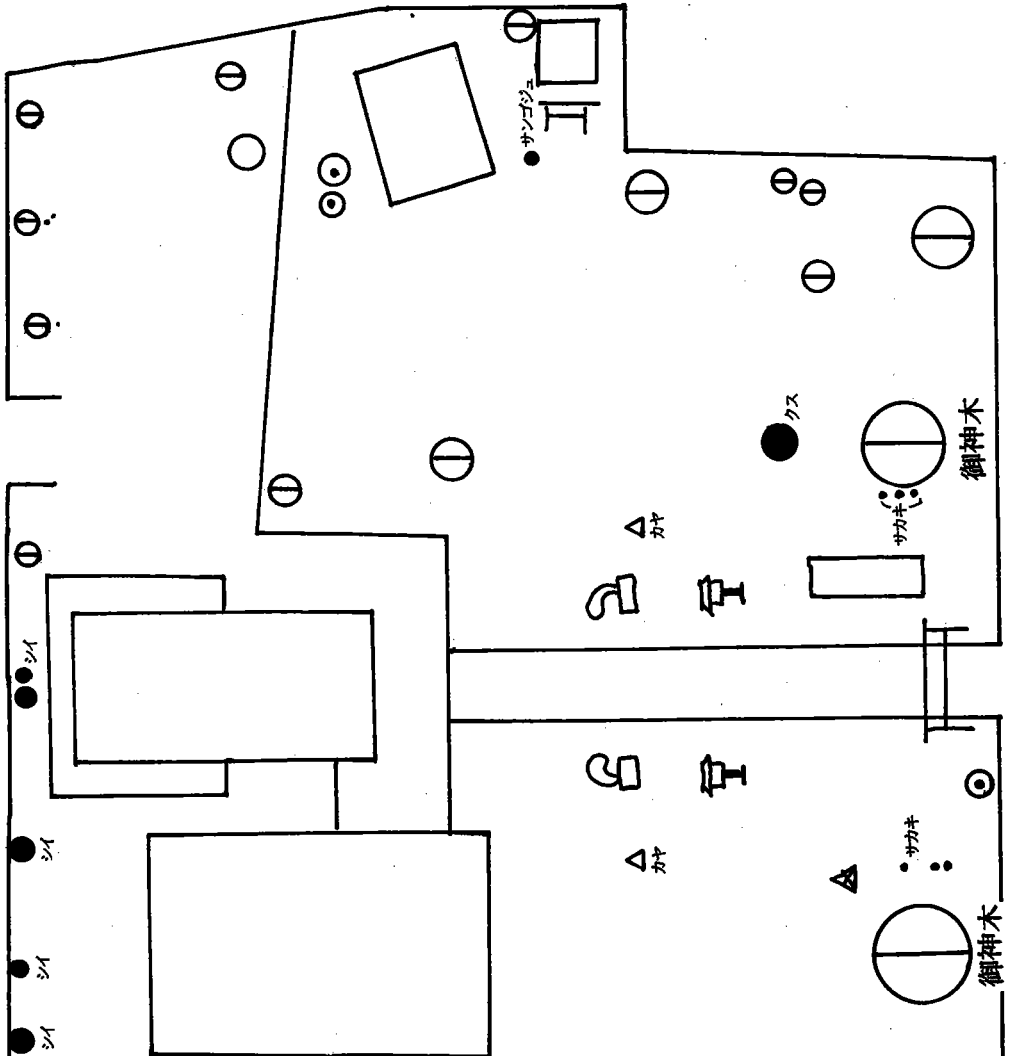


図10 池尻稲荷神社 (世-58)



種名・DBH	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100	110	120	130	計
イチヨウ			7	3	3			1			1		1	16
スダジイ	1	2	4											7
ケヤキ				1										1
カヤ		2												2
サンゴジュ	1													1
クスノキ				1										1
クロマツ			1											1
サクラ		1	1	1										3
大-14	2	5	13	6	3			1			1		1	32

図11 磐井神社 (大-14)



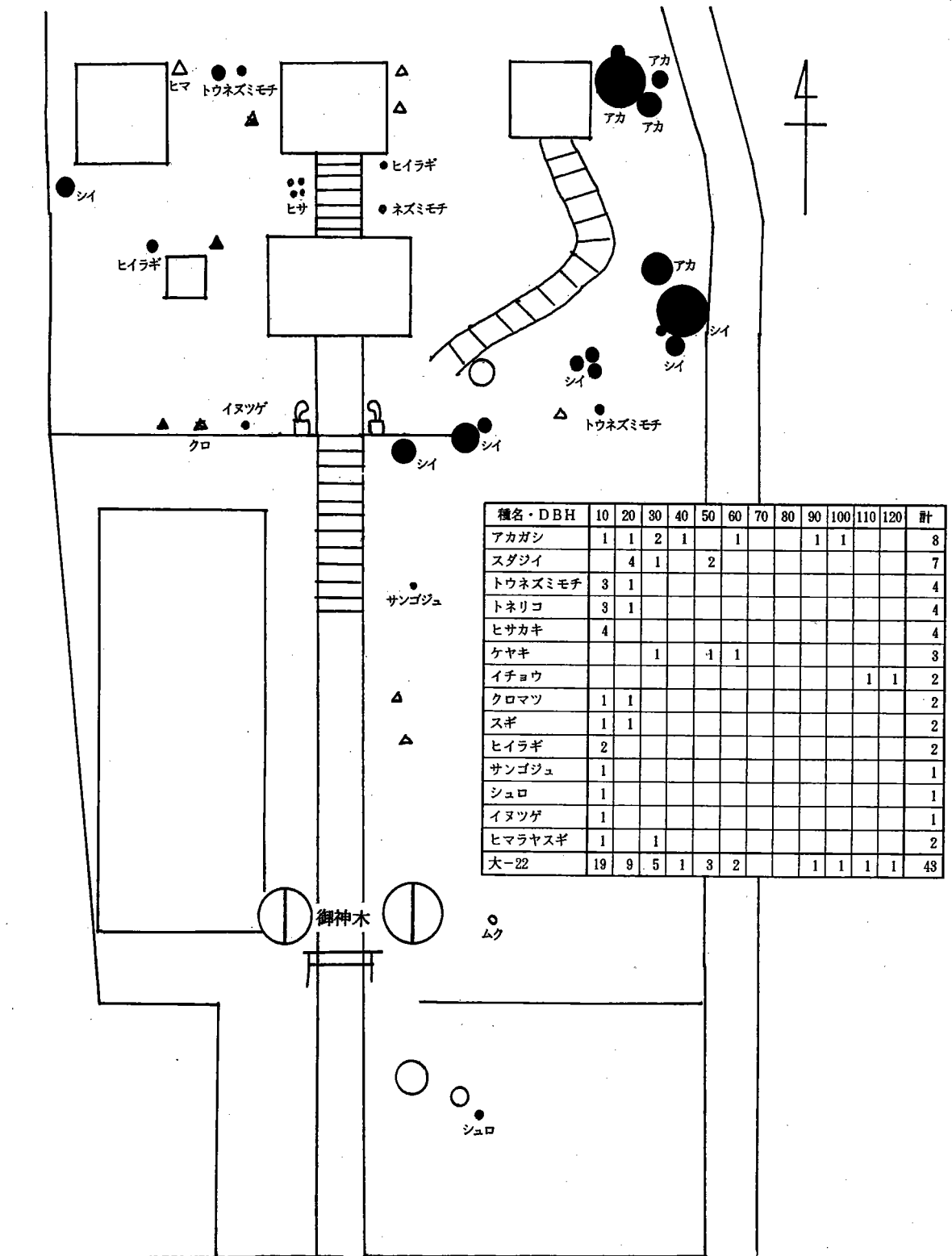
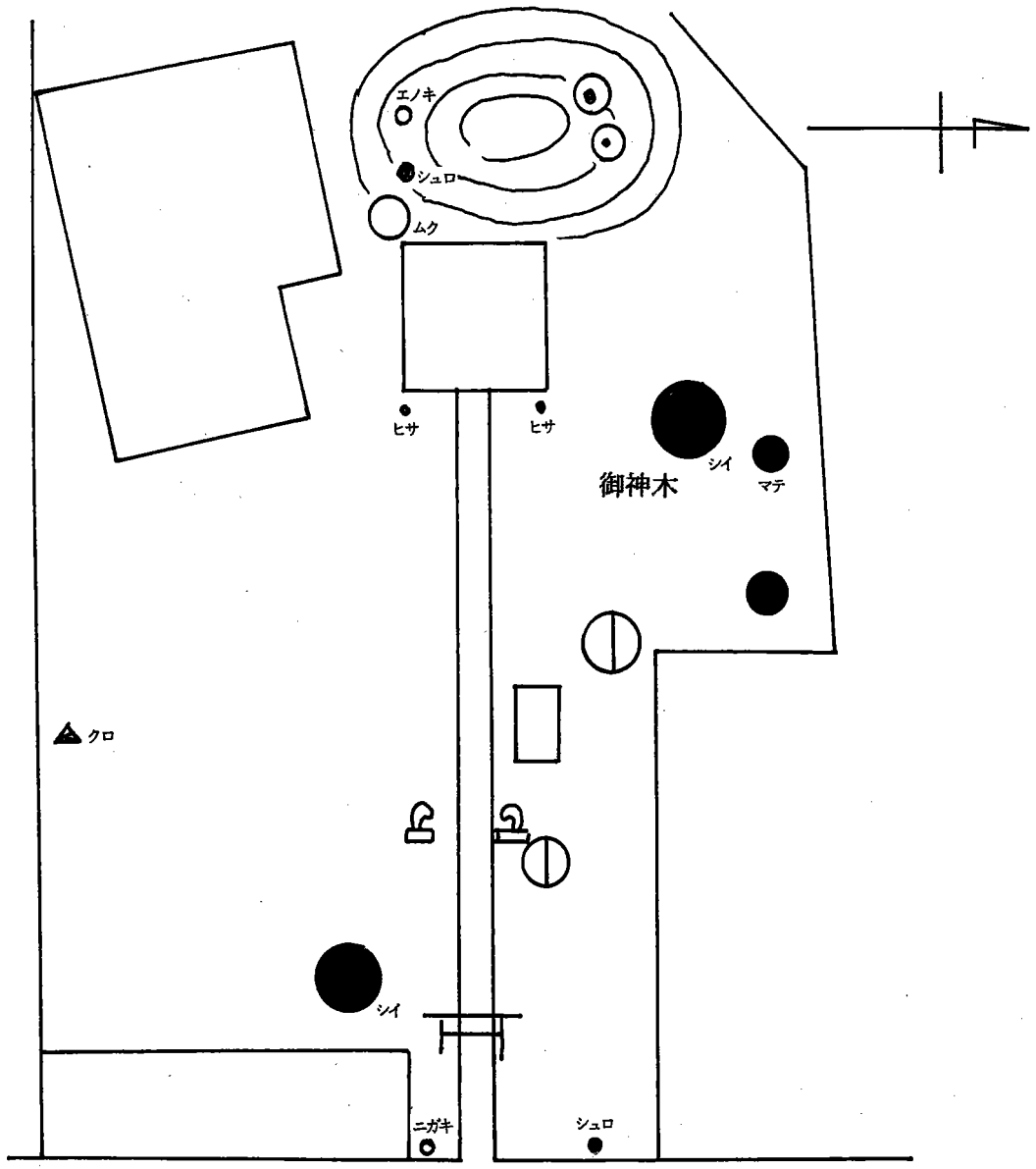


図12 湯殿神社 (大-22)



種名・DBH	10	20	30	40	50	60	70	80	90	計
イチョウ						1		1		2
スダジイ									2	2
サクラ				1	1					2
シュロ	2									2
ムクノキ					1					1
シラカシ					1					1
ニガキ	1									1
クロマツ	1									1
エノキ	1									1
マテバシイ				1						1
大-26	5			2	3	1		1	2	14

図13 天祖神社 (大-26)

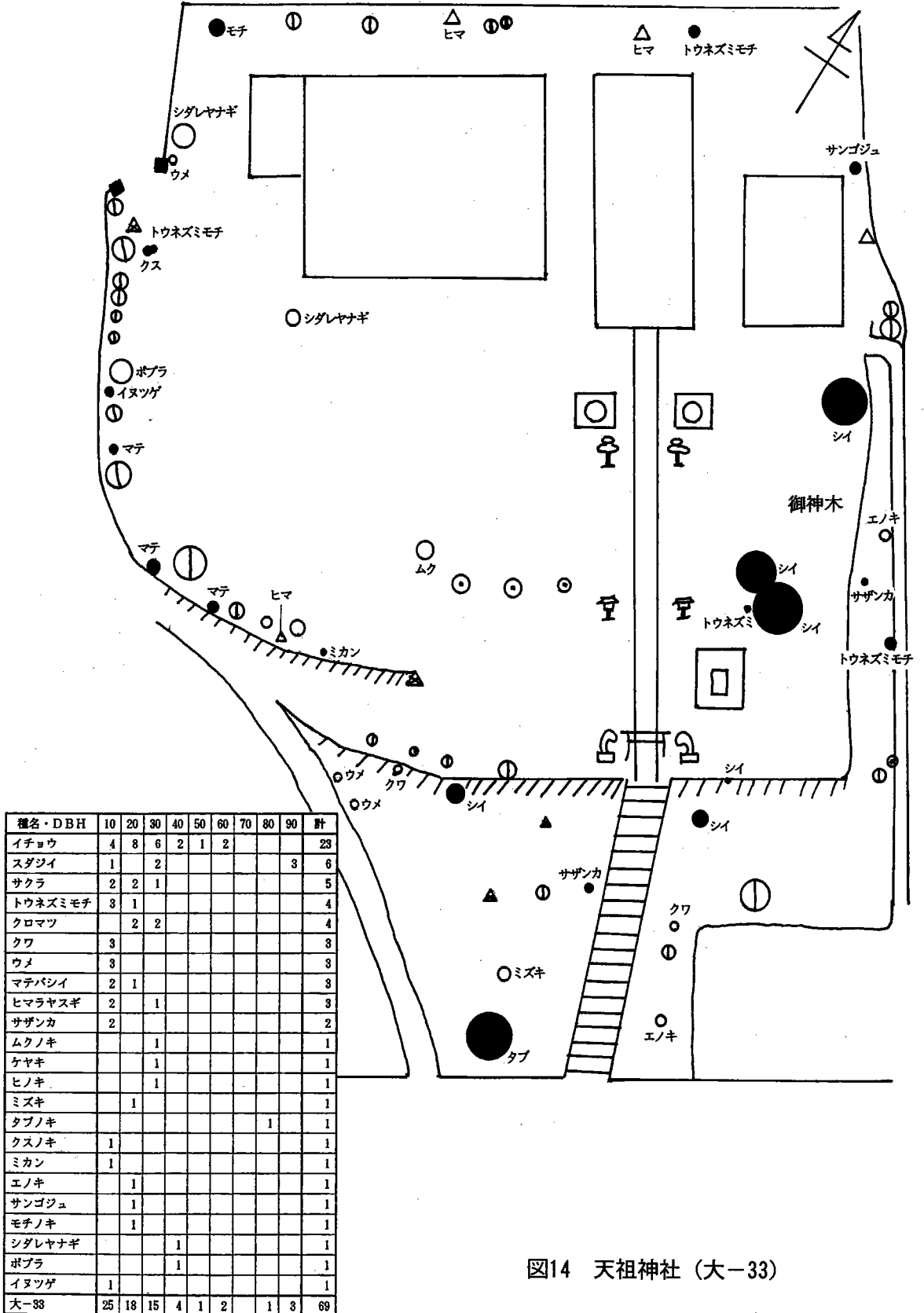
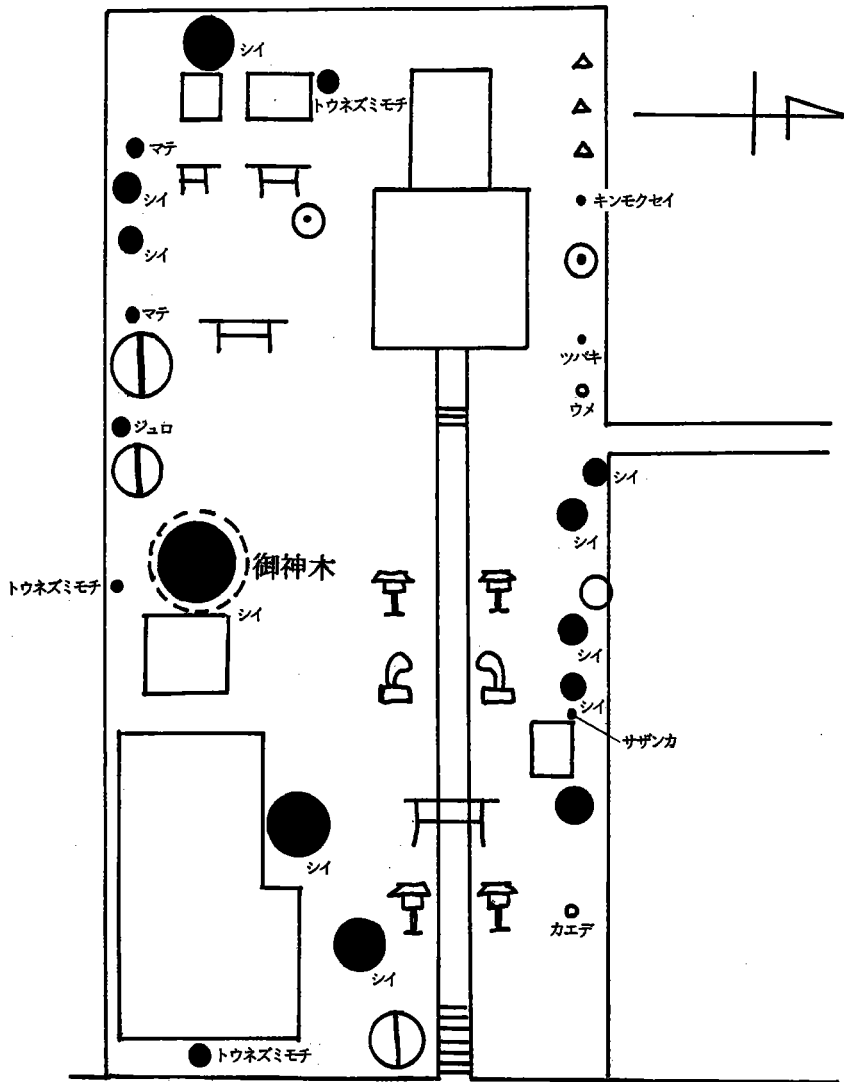
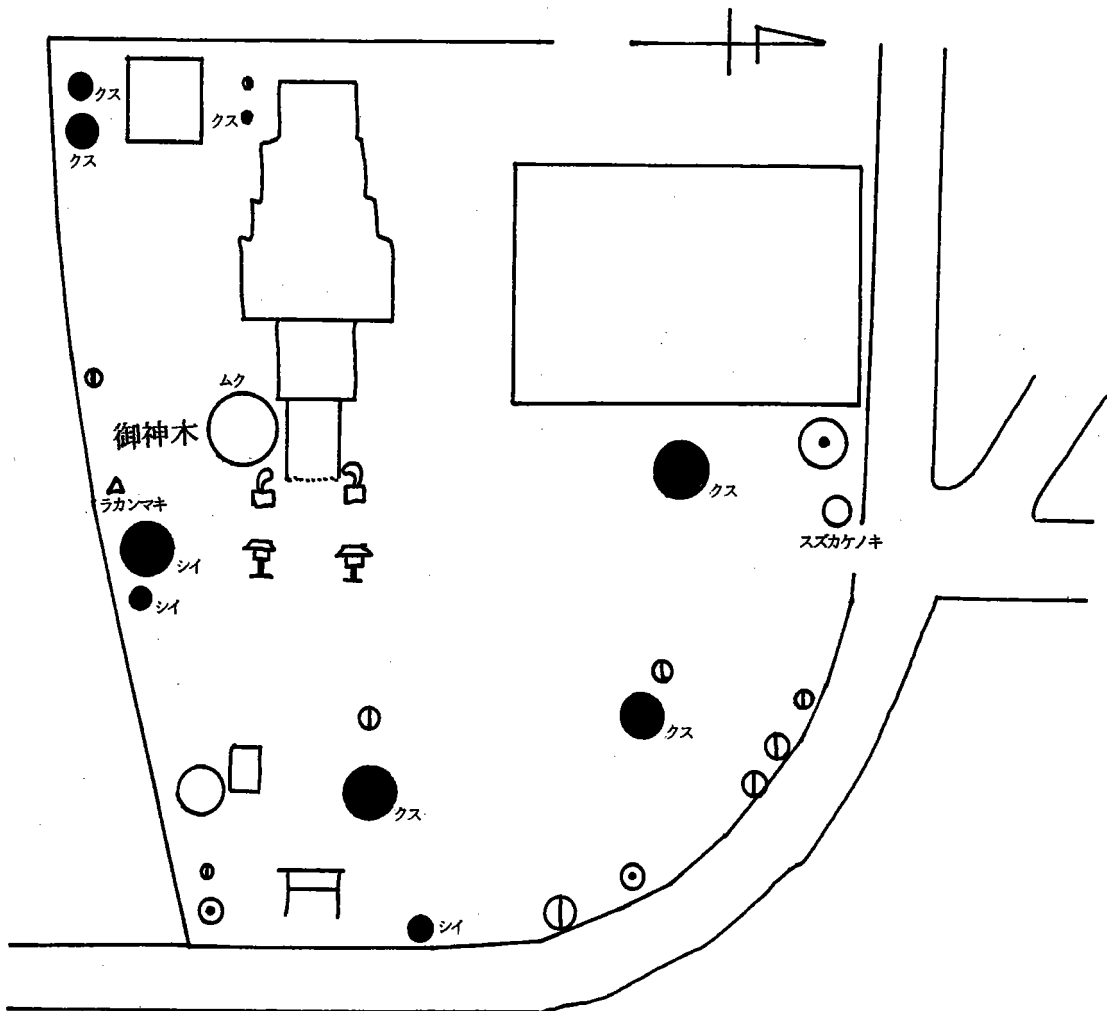


図14 天祖神社 (大-33)



種名・DBH	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100	計
スダジイ		1	5			2		1		1	10
トウネズミモチ	1	2									3
イチョウ						1	1	1			3
ヒノキ	3										3
マテバシイ	1	1									2
サクラ				2							2
ケヤキ				1							1
シュロ	1										1
カエデ	1										1
シラカシ				1							1
サザンカ	1										1
ウメ	1										1
ツバキ	1										1
キンモクセイ	1										1
大-34	11	4	5	4		3	1	2		1	31

図15 日枝神社 (大-34)



種名・DBH	10	20	30	40	50	60	70	80	90	計
イチョウ	2	3	1	1						7
クスノキ	1		1	1	1	1	1			6
サクラ			2	1			1			4
スタジイ			1	1			1			3
ケヤキ							1			1
スズカケノキ				1						1
ムクノキ									1	1
ラカンマキ	1									1
大-47	4	6	5	2	1	4	1		1	24

図16 八幡神社 (大-47)

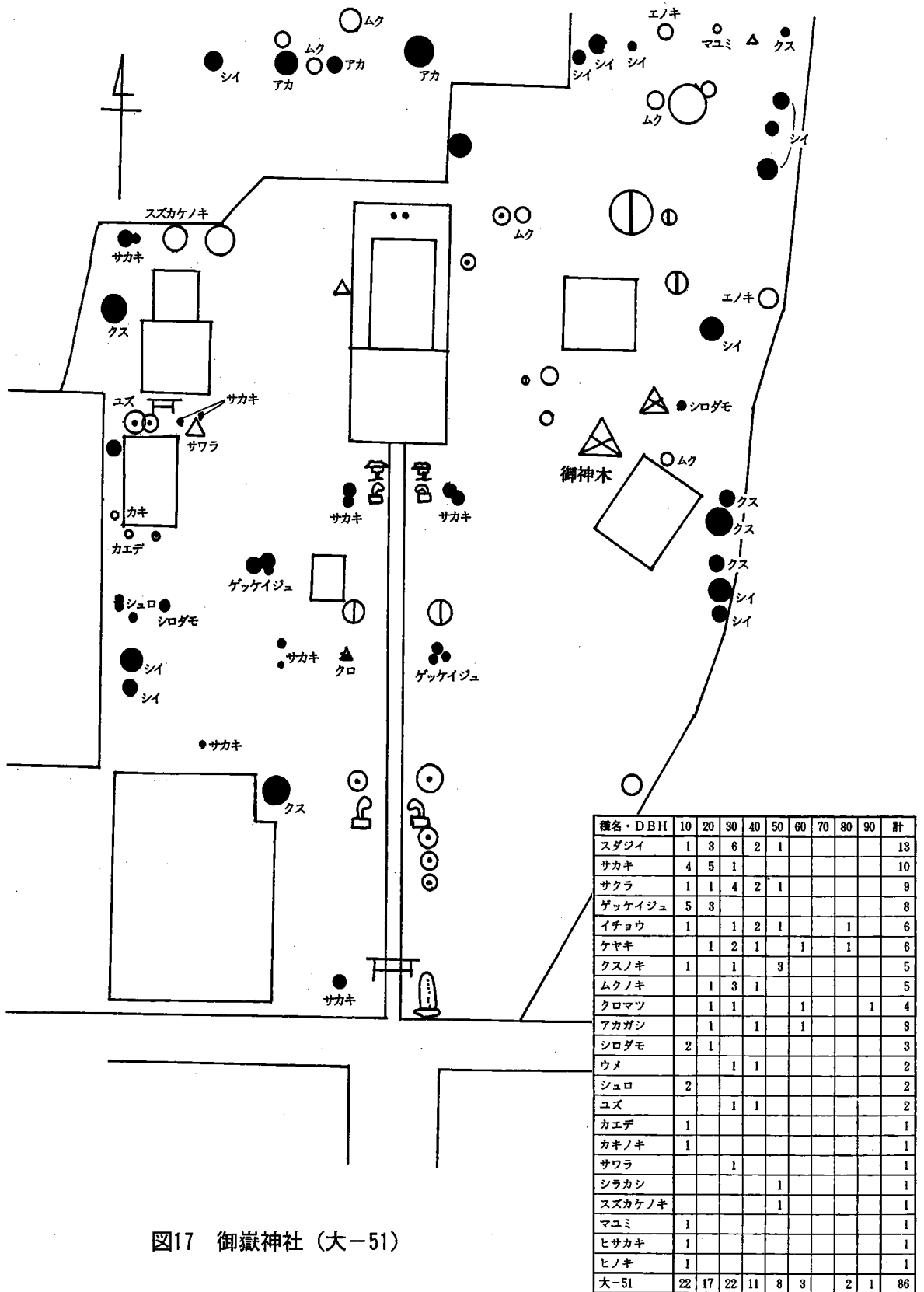
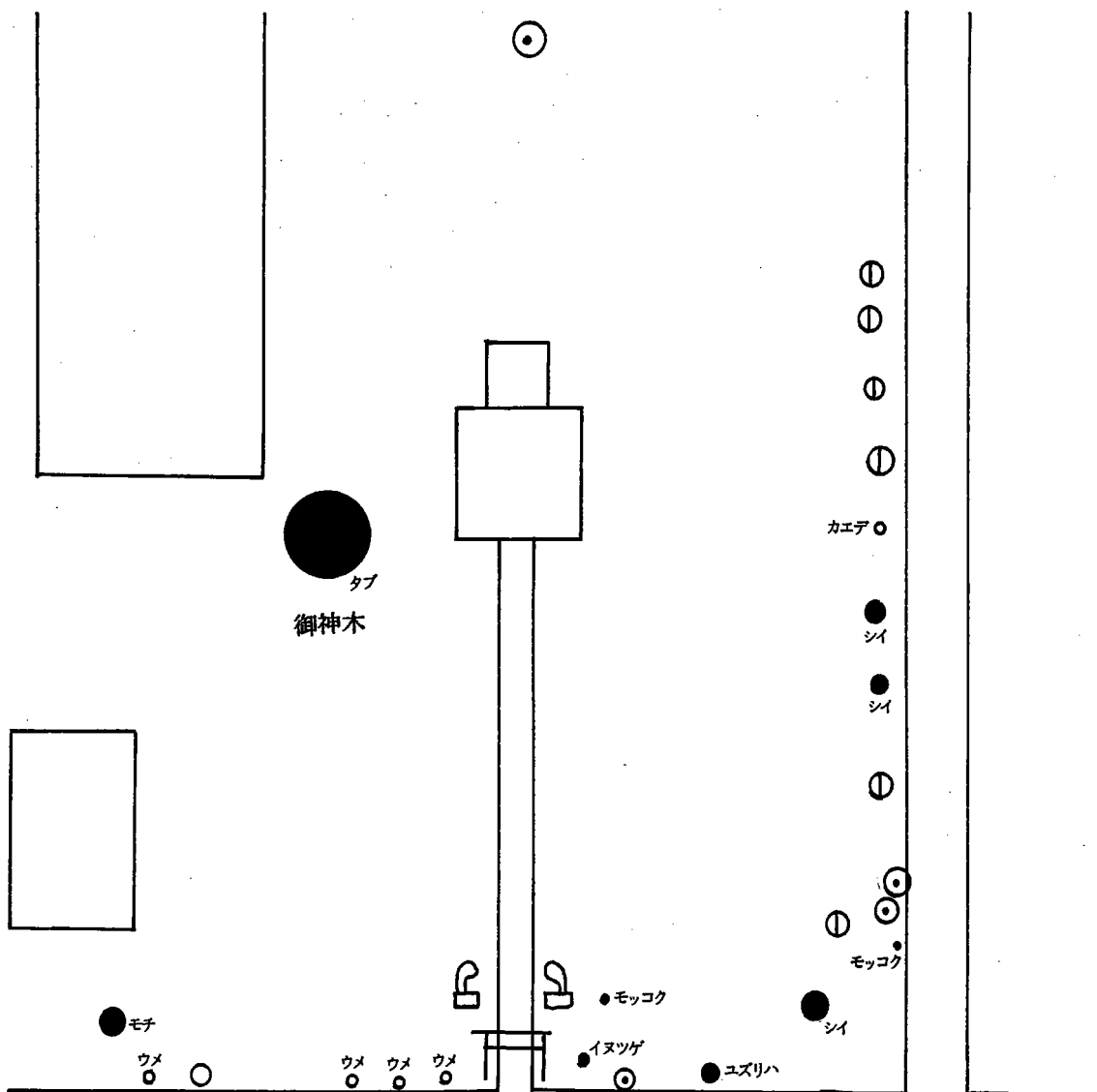
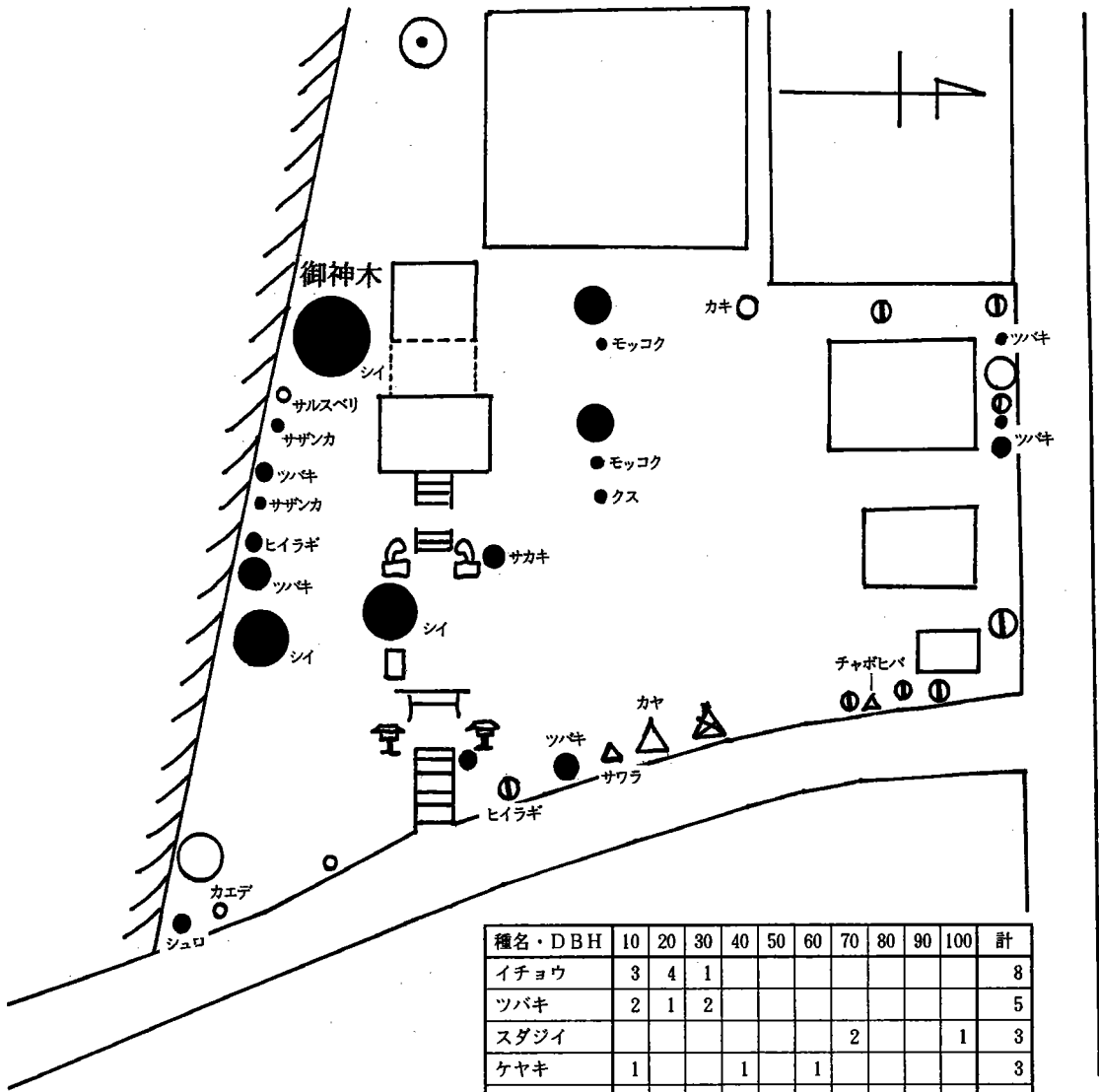


図17 御嶽神社 (大-51)



種名・DBH	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100	110	120	130	計
イチョウ			5	1										6
ウメ	4													4
スダジイ		1	1	1										3
サクラ			2	1										3
キンモクセイ	3													3
モチノキ	1			1										2
ケヤキ			1											1
カエデ	1													1
タブノキ													1	1
モッコク	1													1
ユズリハ		1												1
イヌツゲ	1													1
大-52	11	2	9	4									1	27

図18 白山神社 (大-52)



種名・DBH	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100	計
イチョウ	3	4	1								8
ツバキ	2	1	2								5
スタジイ							2			1	3
ケヤキ	1			1		1					3
モッコク	2										2
サザンカ	2										2
ヒイラギ		2									2
シラカシ				1	1						2
サクラ						1					1
カエデ	1										1
サルスベリ	1										1
シュロ			1								1
クスノキ	1										1
カキノキ			1								1
チャボヒバ	1										1
クロマツ			1								1
カヤ				1							1
サワラ		1									1
サカキ			1								1
大-56	14	11	4	3	1	2	2			1	38

図19 八幡神社 (大-56)



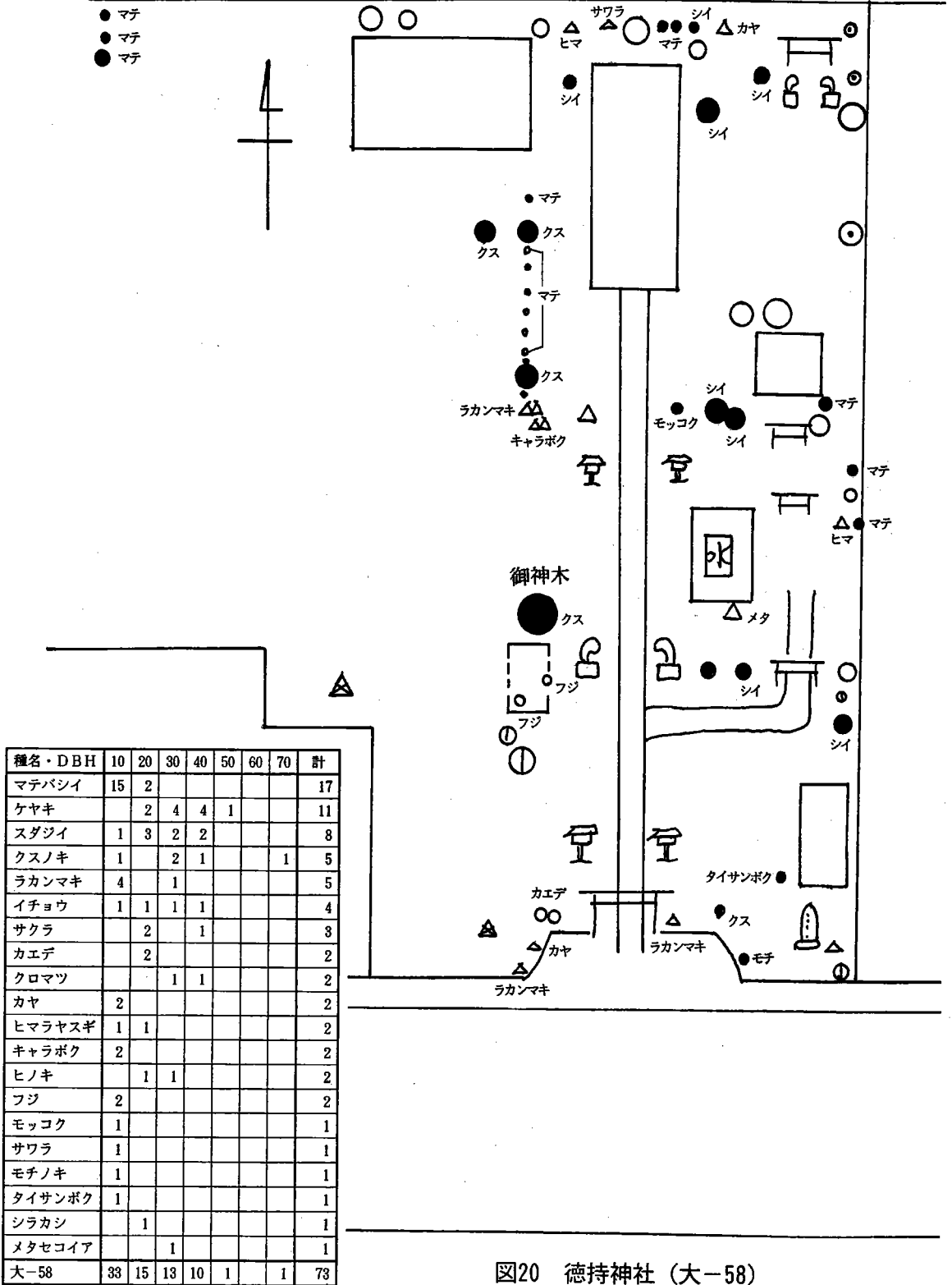
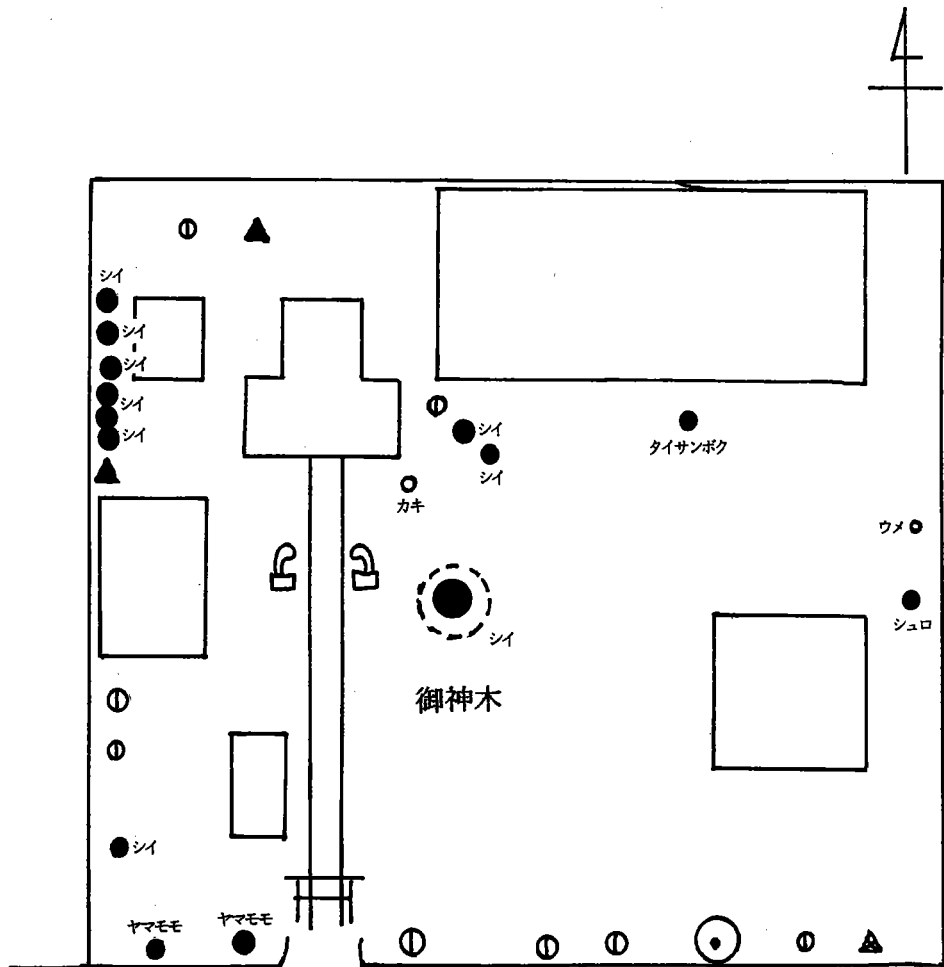


図20 徳持神社 (大-58)



種名・DBH	10	20	30	40	50	計
スダジイ		9		1		10
イチョウ		8				8
スギ		2				2
ヤマモモ		2				2
サクラ					1	1
カエデ	1					1
シユロ		1				1
クロマツ		1				1
ウメ	1					1
タイサンボク		1				1
大-94	2	24		1	1	28

図21 八幡神社 (大-94)

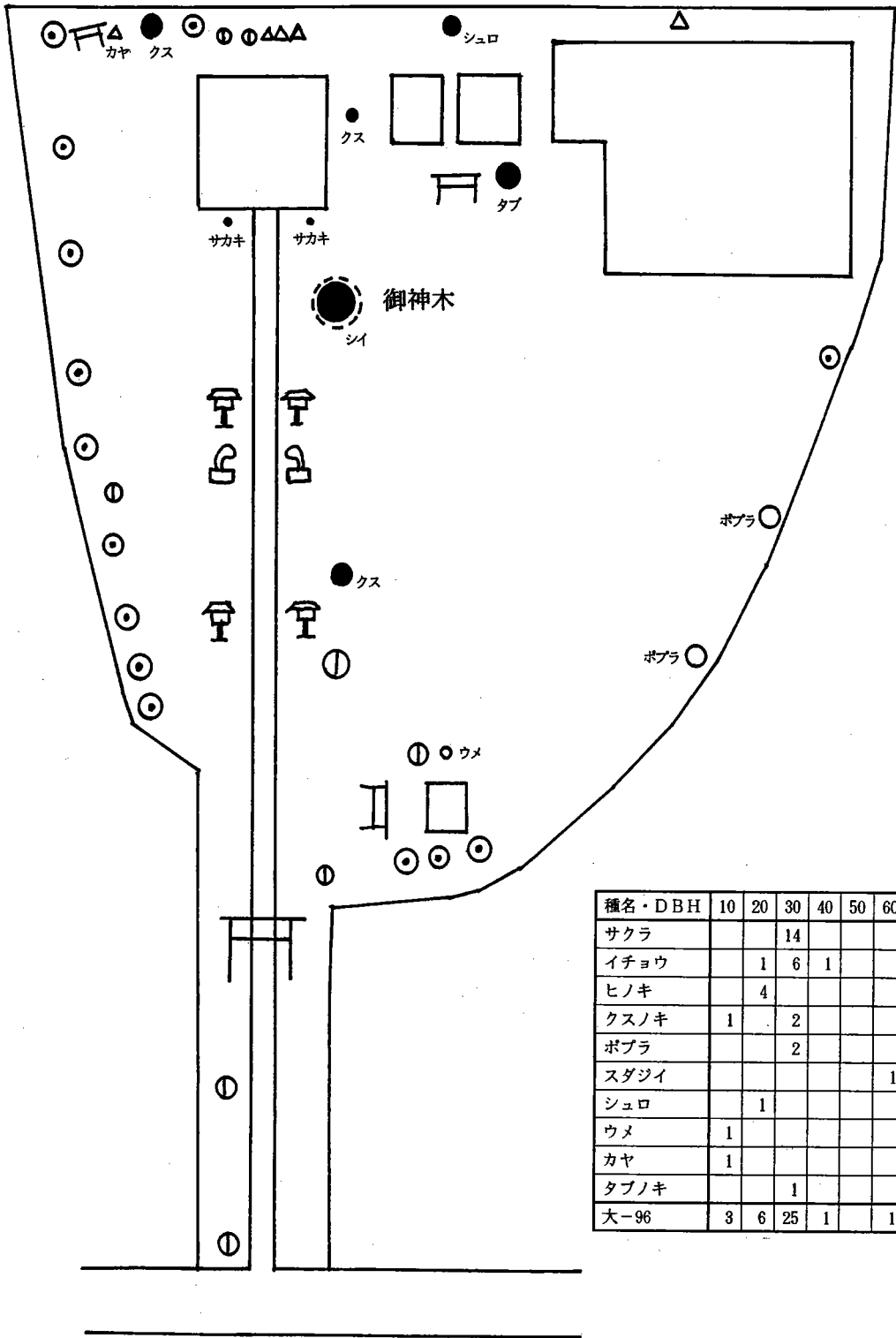
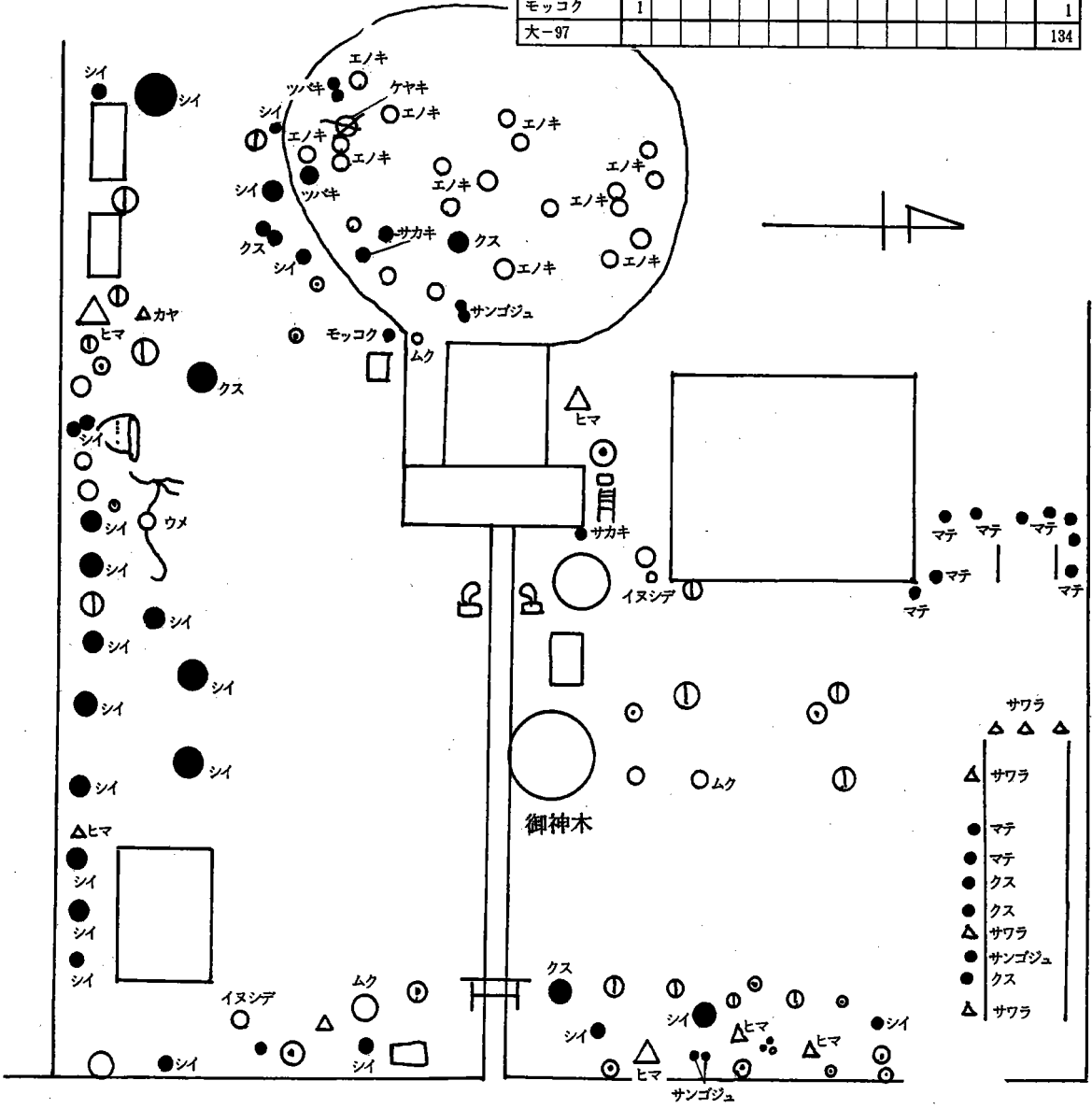


図22 諏訪神社 (大-96)

図23 新田神社 (大-97)

種名・DBH	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100	110	120	130	140	計
スダジイ	2	10	10	1	1										24
エノキ															18
サクラ	5	7	2	1											16
イチヨウ	2	4	5	3					1						15
マテバシイ	9														11
ケヤキ		3	3	1										1	8
サンゴジュ	8														8
クスノキ			3	1											7
サワラ		2	1												7
ヒマラヤスギ	2		1	1	1										6
サカキ	3														3
ムクノキ	1	1		1											3
ツバキ	3														3
イヌシデ	2														2
ウメ		1													1
シラカシ	1														1
モッコク	1														1
大-97															134



## 資料 4

### 東京の西多摩・北多摩・23区内の境内における大木の分布

#### 1. 調査の目的

多摩川の下流域の世田谷区・大田区における大木の分布を調査していると、気候、地形その他の自然的要因により、歴史的な影響により、特色を持って分布している。もう少し広い範囲で理解しようと、「多摩川中流域における神社の境内の樹木の研究」（1998年）のデータと今回の下流域のデータに加えて、世田谷区・大田区以外の23区域に分布する神社の境内を対象に、DBH50cm以上の大木や御神木に注目し、樹木の分布調査を実施した。すべての神社を調べるのは不可能なので、西多摩・北多摩地区では境内面積2000㎡以上、23区域では境内面積3000㎡以上の神社を対象として、調査を行った。調査対象神社は表1、2と図1に示した。

23区域では112社で、西・北多摩地域では64社の計176社について調査を行った。まだ予定した神社のすべての調査を完了していないが、一般的な傾向は理解できると考えて、資料として紹介する。

#### 2. 結果

調査した176社に生育していたDBH50cm以上の大木は、54種類であった。（表3、4）表中の最初の23区は世田谷区・大田区以外を指している。出現数の多い順に20種類について分布図を作成した。（図2～図21）境内に1本でも生育が見られた場合に●で示したが、量的には表現していない。

武蔵野台地の西部地域に限って分布しているのが、スギである。青梅市や狭山丘陵に多く見られる。

アカマツは狭山丘陵南部、小金井市、練馬区、杉並区などの台地中央部に限って生育が見られる。クロマツやサワラは西は府中市、武蔵野市、三鷹市から山手線の西側の台地中央部に見られる。イチョウとケヤキは都内全域に広く分布している。東部の沖積低地にやや少ないが、2種は他の樹木を圧倒して、出現数も多い。

アラカシは西多摩地域に生育の中心があり、台地中央部に少なく、世田谷区、中野区、渋谷区内に数カ所見られる。

サクラとエノキはイチョウ、ケヤキほどではないがかなり広い範囲に分布している。台地上に限って生育が見られる。

シラカシ、イヌシデ、ヒノキ、コナラは西多摩地域から山手線の池袋-新宿-渋谷のラインの西側まで分布している。

カヤは山手線のの上野-東京-品川ラインすなわち武蔵野台地の東端まで分布が見られる。スダジイとクスノキ、ムクノキは23区域に分布の中心が見られる。台地上が生育の中心であるが、一部東

部の沖積低地にも生育が見られる。

ヒマラヤスギは都内全域に、少ないが植えられている。アカガシとタブノキは東部域に限って分布が見られる。台地の東の端の段丘崖などに生育している。

大木全体の分布を見ると23区域での生育が少ない傾向が見られる。戦災の影響や、住宅密集地での環境悪化等による枯死の進行が原因と考えられる。今後さらに調査ポイントを拡大し、分析していきたい。

この研究の一部は平成12年度科学研究費補助金（奨励研究（B））課題番号12917006「東京の神社の御神木の分布とその変遷から都市環境を考える」による。

表1 東京23区調査対象神社（境内地3000㎡以上）

No.	神社名	区	境内地(㎡)	本殿の向き	地 形	御 神 木	調 査 日
1	日枝神社	千代田区	30221	東	段丘崖斜面上	イチョウ	2000. 7. 11
2	東京大神宮	千代田区	4049	南	段丘崖斜面上	スダジイ	2000. 7. 21
3	神田神社	千代田区	12210	南	段丘崖斜面上		2000. 7. 21
4	平河大菩薩	千代田区	2404				未調査
5	鉄砲洲稲荷神社	中央区	1528				未調査
6	根津神社	文京区	22367	南	段丘崖斜面上		2000. 7. 21
7	湯島神社	文京区	8200	南	段丘崖斜面上		2000. 7. 21
8	蔵川神社(しかわ)	文京区	3191				未調査
9	天祖神社	文京区	3491	西	平坦地		2000. 7. 21
10	富士神社	文京区	4287	南	平坦地	カヤ	2000. 7. 21
11	北野神社	文京区	3613	南	段丘崖斜面上	モッコク	2000. 7. 21
12	浅草神社	台東区	4795	南	平坦地	エンジュ	2000. 10. 15
13	今戸神社	台東区	4120	南	平坦地	クスノキ	2000. 10. 15
14	東照宮	台東区	16263	東	段丘崖斜面上	クスノキ	2000. 12. 16
15	愛宕神社	港区	11788				未調査
16	八幡神社	港区	4950	東	段丘崖斜面上		2001. 6. 17
17	乃木神社	港区	5087	南	段丘崖斜面上		2001. 6. 17
18	明治神宮	渋谷区	976000	南	平坦地	クスノキ	2000. 5. 7
19	東郷神社	渋谷区	27720	南	段丘崖斜面上		2000. 8. 8
20	八幡神社	渋谷区	4079	東	段丘崖斜面上	スダジイ	2001. 6. 17
21	氷川神社	渋谷区	11427				未調査
22	八幡神社	渋谷区	9917	南	段丘崖斜面上		2000. 5. 7
23	八幡神社	渋谷区	6370	東	段丘崖斜面上	(イチョウ)	2000. 8. 8
24	北谷稲荷神社	渋谷区	3303	南	段丘崖斜面上		2000. 8. 8
25	氷川神社	中野区	5000	南	段丘崖斜面上	アラカン	2000. 7. 27
26	氷川神社	中野区	5940				未調査
27	八幡神社	中野区	3462	南	段丘崖上平坦地		1998. 12. 23

28	北野神社	中野区	新井4-14-3	3797	南	段丘崖斜面上		2000. 7. 29
29	八幡神社	中野区	大和町2-30-3	3300	南	平坦地	ケヤキ	2000. 7. 27
30	米川神社	中野区	江古田3-13-6	4719				未調査
31	大宮八幡宮	杉並区	大宮2-3-1	44910	東	段丘崖斜面上	イチヨウ	2000. 7. 13
32	熊野神社	杉並区	堀ノ内2-6-6	15444	南	段丘崖斜面上	イチヨウ	2000. 7. 13
33	井草八幡宮	杉並区	善福寺1-33-1	33600			クロマツ	1998. 12. 23
34	八幡神社	杉並区	上荻4-19-2	9240	東	段丘崖上平坦地	コウヤマキ・ケヤキ	1998. 12. 23
35	天祖神社	杉並区	南荻窪2-37-22	6105	西	平坦地	ケヤキ	1998. 12. 23
36	天祖神社	杉並区	阿佐ヶ谷北1-25-5	5323				未調査
37	馬橋稲荷神社	杉並区	阿佐ヶ谷南2-4-4	3345				未調査
38	白山神社	杉並区	上荻1-21-7	4099	南	段丘崖上平坦地	クロマツ	1998. 12. 23
39	八幡神社	杉並区	下高井戸4-39-3	6074	南	段丘崖斜面上	(クロマツ)	2000. 7. 13
40	天神社	杉並区	高井戸西1-7-2	3339	南	平坦地		2001. 3. 20
41	稲荷神社	杉並区	久我山3-37-14	3241	南	段丘崖斜面上		2001. 3. 20
42	熊野神社	杉並区	和泉3-21-29	2156	南	段丘崖斜面上	クロマツ	2000. 7. 13
43	田端神社	杉並区	荻窪1-56-10	3155				未調査
44	品川神社	品川区	北品川3-7-15	8247	東	段丘崖斜面上		2000. 8. 28
45	荏原神社	品川区	北品川2-30-28	3614	東	平坦地	(クスノキ)	2000. 8. 28
46	水川神社	品川区	西五反田5-6-3	5427	南	段丘崖斜面上	(イチヨウ)	2000. 8. 26
47	居木神社(いるぎ)	品川区	大崎3-8-20	3572	東	段丘崖斜面上	カヤ	2000. 8. 26
48	鹿嶋神社	品川区	大井6-18-36	4767	西	段丘崖斜面上	(タブノキ)	2000. 8. 28
49	旗岡八幡神社	品川区	旗の台3-6-12	4934	東	段丘崖斜面上		2000. 8. 26
50	八幡神社	品川区	荏原7-5-14	4583	東	段丘崖斜面上	(スダジイ)	2000. 8. 26
51	碑文谷八幡宮	目黒区	碑文谷3-7-3	8580	東	段丘崖斜面上		2000. 8. 24
52	水川神社	目黒区	八雲2-4-16	5610	南	段丘崖斜面上	アカガシ	2000. 8. 24
53	熊野神社	目黒区	自由が丘1-24-12	3788	南	段丘崖斜面上	ケヤキ	2000. 3. 19
54	牛嶋神社	墨田区	向島1-4-5	3234	南	平坦地		2000. 10. 15
55	隅田川神社	墨田区	堤通2-17-1	3178				未調査
56	三囲神社(みめぐり)	墨田区	向島2-5-17	5615	南	平坦地		2000. 10. 15



No.	神社名	区	境内地(m <sup>2</sup> )	本殿の向き	地 形	御 神 木	調査日
57	富岡八幡宮	江東区	17084	南	平坦地	イチョウ	2001. 1. 7
58	亀戸天神社	江東区	15606	南	平坦地	ウメ・フジ	2000. 10. 25
59	香取神社	江東区	3729	南	平坦地		2000. 10. 25
60	深川神明宮	江東区	3448				2001. 1. 7
61	富岡八幡宮	江東区	4620	南	平坦地		2001. 1. 7
62	稲荷神社	足立区	3640				未調査
63	千住神社	足立区	6115				未調査
64	水川神社	足立区	4214	南	平坦地	スダジイ・タブノキ	2000. 5. 28
65	元宿神社	足立区	9451				未調査
66	水川神社	足立区	4715				未調査
67	大鷲神社(おおとり)	足立区	9570	南西	平坦地		2000. 5. 28
68	鷲神社(わし)	足立区	4950				未調査
69	葛西神社	葛飾区	5246	西	平坦地		2001. 4. 22
70	半田稲荷神社	葛飾区	3128	南	平坦地	イチョウ	2001. 4. 22
71	熊野神社	葛飾区	5940				未調査
72	湊間神社	江戸川区	12000				未調査
73	香取神社	江戸川区	3960	南	平坦地		2000. 10. 25
74	天祖神社	江戸川区	6128	南	平坦地		2000. 10. 25
75	穴八幡神社	新宿区	8992	東	段丘崖斜面上	クスノキ	2000. 6. 18
76	諏訪神社	新宿区	4524	南	段丘崖斜面上	(元スギ)	2000. 7. 29
77	熊野神社	新宿区	4600	南	段丘崖斜面上	イチョウ	2000. 5. 7
78	花園神社	新宿区	6600	東	平坦地	イチョウ	2000. 6. 16
79	赤城神社	新宿区	4840	南	段丘崖斜面上	(昔イチョウ)	2000. 7. 29
80	水稲荷神社	新宿区	8250	東	段丘崖斜面上	(昔ムクノキ)	2000. 7. 29
81	鎧神社	新宿区	3036	東	段丘崖斜面上		2000. 7. 27
82	西向天神社	新宿区	4290	西	段丘崖斜面上	クスノキ	2000. 6. 16
83	成子天神社	新宿区	9900	南	段丘崖斜面上	イチョウ	2000. 7. 27
84	水川神社	豊島区	6976				未調査

85	王子神社	北区	王子本町1-1-12	9321	西	段丘崖斜面上	イチョウ	2000. 5. 14
86	王子稻荷神社	北区	岸町1-12-26	6603	北	段丘崖斜面上	イチョウ	2000. 5. 14
87	平塚神社	北区	上中里1-47-1	8100	南	段丘崖斜面上	イチョウ	2000. 5. 14
88	八幡神社	北区	赤羽台4-1-6	4584	南	段丘崖斜面上		2000. 7. 16
89	熊野神社	北区	志茂町4-19-1	3633	南	段丘崖上平坦地		2000. 7. 16
90	八幡神社	北区	滝野川5-26-15	3236				未調査
91	水川神社	板橋区	水川町21-8	4738	南	段丘崖斜面上	(元スギ)	2000. 9. 15
92	水川神社	板橋区	双葉町43-1	5866	南	段丘崖斜面上	(元スギ)	2000. 9. 15
93	熊野神社	板橋区	志村2-16-2	7707	南	段丘崖斜面上		2000. 7. 16
94	水川神社	板橋区	蓮根2-6-1	3274	南	平坦地		2000. 7. 16
95	天祖神社	板橋区	南常盤台2-4-3	5115	東	段丘崖斜面上		2000. 9. 15
96	水川神社	板橋区	東新町2-16-1	7618	南	段丘崖斜面上		2000. 9. 15
97	北野神社	板橋区	徳丸6-34-3	5292	南	段丘崖斜面上		2000. 7. 16
98	諏訪神社	板橋区	大門11-1	6752	南	段丘崖上平坦地	イチョウ	1999. 1. 17
99	水川神社	練馬区	石神井台1-18-24	6659	南			1995. 11. 26
100	諏訪神社	練馬区	西大泉3-3-13	4411	南	平坦地		1995. 11. 26
101	水川神社	練馬区	水川台4-47-3	4950				未調査
102	天祖若宮八幡宮	練馬区	関町北3-34-30	8316	東	段丘崖斜面上	クロマツ	1995. 11. 23
103	八幡神社	練馬区	高松1-16-2	5689				未調査
104	春日神社	練馬区	春日町3-2-4	4703				未調査
105	愛宕神社	練馬区	田柄2-17-11	3300	南	平坦地		1999. 1. 17
106	水川神社	練馬区	大泉町5-15-5	4950	南	段丘崖上平坦地		1999. 1. 17
107	土支田八幡宮	練馬区	土支田4-28-1	7882	南西	段丘崖上平坦地		1999. 1. 17
108	素さの雄神社	荒川区	南千住6-60-1	5016	南	平坦地	イチョウ	2000. 10. 27
109	諏訪神社	荒川区	西日暮里3-4-8	3960				未調査
110	八幡神社	荒川区	西尾久3-7-3	3960	南	平坦地	イチョウ	2000. 10. 27
111	石濱神社	荒川区	南千住3-38-1	6574	南	隅田川右岸		2000. 10. 27
112	胡録神社	荒川区	南千住8-11-11	5151	南	隅田川右岸		2000. 10. 27
113	徳持神社	大田区	池上3-38-17	3041	南	平坦地		1998. 10. 30

No.	神社名	区	境内地(㎡)	本殿の向き	地 形	御 神..木	調 査 日
114	磐井神社	大田区	4066	東	平坦地	イチョウ	1998. 8. 29
115	八幡神社	大田区	5673	南	段丘崖斜面上	スダジイ	2000. 4. 6
116	八幡神社	大田区	3306	南	平坦地		1998. 11. 29
117	八幡神社	大田区	3167	南	平坦地		2000. 12. 24
118	神田神社	大田区	3552	南東	平坦地		2000. 12. 24
119	新田神社	大田区	3451	東	平坦地	ケヤキ	2000. 1. 22
120	六郷神社	大田区	13200	南	平坦地		1998. 12. 12
121	穴守稲荷神社	大田区	6600	南	平坦地		1998. 11. 15
122	羽田神社	大田区	3306	東	平坦地		1998. 11. 15
123	天祖神社	大田区	3308	南	平坦地		1998. 11. 15
124	八幡神社	大田区	6612	南	段丘崖斜面上	ケヤキ	2000. 4. 2
125	浅間神社	大田区	4958	南	段丘崖斜面上		2000. 4. 4
126	御嶽神社	大田区	3435	南	段丘崖斜面上	クロマツ	1999. 2. 7
127	世田谷八幡宮	世田谷区	13134	南	段丘崖斜面上		2000. 9. 24
128	玉川神社	世田谷区	6600	南	段丘崖斜面上		2000. 3. 21
129	玉川神社	世田谷区	5610	東	段丘崖斜面上		2000. 1. 8
130	天祖神社	世田谷区	3300	南	平坦地		2000. 3. 21
131	北澤八幡神社	世田谷区	3346	南	段丘崖斜面上		1999. 12. 28
132	松陰神社	世田谷区	15000	南	平坦地		1999. 7. 27
133	駒留八幡神社	世田谷区	3300	南	段丘崖斜面上		2000. 1. 3
134	駒繫神社	世田谷区	4950	東	段丘崖斜面上		2000. 8. 24
135	六所神社	世田谷区	4009	南	段丘崖斜面上	マツ類	1999. 11. 14
136	水川神社	世田谷区	11550	東	平坦地		1996. 12. 15
137	水川神社	世田谷区	3960	南	段丘崖上平坦地		2000. 1. 10
138	宇佐神社	世田谷区	8580	南	段丘崖斜面上		2000. 2. 12
139	八幡神社	世田谷区	3960	南	段丘崖斜面上	クロマツ	1999. 12. 28

表2 西多摩・北多摩調査対象神社（境内地2000㎡以上）

No.	神社名	市・町	境内面積	本殿の向き	地	形	御神木	調査日
1	住吉神社	青梅市	5309	南	小高い丘		スタジイ	96. 4. 25
2	御岳神社	青梅市	4071	南	平地		—	96. 9. 12
10	春日神社	青梅市	2723	南	霞川左岸段丘崖上	小高い丘	スギ	97. 1. 4
11	神明社	青梅市	2020	南	塩船210	丘陵の斜面上	ヒノキ	97. 1. 4
14	千ヶ瀬神社	青梅市	1914	南	千ヶ瀬町2-117	多摩川左岸段丘崖上部	スタジイ	97. 1. 6
19	阿蘇神社	羽村市	1841	南	羽加美4-6-7	多摩川左岸段丘崖上	スタジイ	95. 11. 27
27	浅間神社	瑞穂町	2531	南	箱根ヶ崎2598	狭山丘陵上部、周囲は雑木林	—	96. 10. 17
29	郷社阿豆佐味天神社	瑞穂町	13318	南	殿ヶ谷宮前1008	狭山丘陵下部斜面上部	アラカシ	96. 10. 26
32	熊川神社	福生市	4950	南	熊川1660	多摩川左岸段丘崖上	アラカシ	96. 3. 10
33	福生神明社	福生市	5290	東	福生1081	多摩川左岸段丘崖上	—	97. 2. 23
35	日吉神社（ひえ）	武蔵村山市	3380	南	中央4-1	狭山丘陵下部	スギ（二代目）	96. 7. 11
37	十二所神社	武蔵村山市	1851	南	三ツ木	狭山丘陵下部斜面上部	—	96. 10. 26
42	神明社	武蔵村山市	7343	南	中央2-125-1	平地	シラカシ	95. 11. 17
43	阿豆佐味天神社	立川市	6583	南	砂川町4-1-1	平地	—	96. 1. 13
44	熊野神社	立川市	2621	南東	高松町1-17-21	平地	—	96. 1. 13
47	諏訪神社	立川市	18559	南	柴崎町1-5-15	平地	—	97. 7. 23
50	熊野神社	昭島市	2003	南	中神町521	多摩川左岸段丘崖上	イチヨウ	96. 1. 15
51	拝島天神社	昭島市	2089	南	拝島町1905	平地	—	97. 2. 23
55	日枝神社	昭島市	3324	南	上川原町字八ヶ下	傾斜地（南向き斜面）	—	97. 8. 25
59	清水神社	東大和市	4125	東	清水町3-786	平地	—	95. 12. 22
61	八幡神社	東大和市	2674	南	奈良橋1-256	狭山丘陵上、周囲は雑木林	アラカシ（元スギ）	95. 12. 22
62	豊鹿島神社	東大和市	2840	南	芋窪1-2067	狭山丘陵斜面上部	シラカシ、スギ	97. 1. 23
63	村社熊野宮	東大和市	3854	南	蔵敷1-419	狭山丘陵斜面上部	スギ	97. 1. 26
66	諏訪神社	東村山市	2180	東	諏訪町1-4-3	柳瀬川支流右岸、小高い丘	オガタマ	95. 12. 22
68	秋津神社	東村山市	3390	南	秋津町5-27-1	柳瀬川右岸段丘崖上	ケヤキ	96. 1. 2
69	八坂神社	東村山市	15414	東	栄町3-85-1	平地	スギ	97. 1. 12
70	村社熊野神社	東村山市	3795	南	久米川町5-13-1	平地	ケヤキ	97. 1. 12
71	氷川神社	東村山市	2376	南	秋津町4-13-1	平地	ケヤキ	97. 1. 26
72	村社稻荷神社	東村山市	2376	北	恩多町3-32-2	平地野火止水左岸	—	97. 5. 22
74	山王稲穂神社	小金井市	2498	東	本町5-41-36	平地	—	97. 3. 9
77	小金井神社	小金井市	5933	南	中町4-7-2	平地	—	97. 5. 31
79	貫井神社	小金井市	7572	南	貫井南町3-8-6	野川左岸側段丘崖斜面上	—	97. 8. 18

No.	神社名	市・町	境内面積	本殿の向き	地	形	御神木	調査日
81	神明宮	小平市	4439	南	平坦地		ケヤキ(元モミ)	95.12.17
84	熊野宮	小平市	2086	北	平坦地	ケヤキ	エノキ(ムクノキ)	97.2.13
87	村社神明社	国分寺市	2033	西	小高い丘		—	96.1.13
88	神明社	国分寺市	2098	南	平坦地		—	96.1.29
93	本多八幡神社	国分寺市	2218	南	平坦地		—	97.3.9
95	熊野神社	国分寺市	2065	西	小高い丘		—	97.4.24
100	谷保天満宮	国立市	19800	東	多摩川左岸段丘崖下部		イチョウ	97.7.23
105	水川神社	清瀬市	2584	南	柳瀬川右岸段丘崖上、平坦地		—	96.1.3
110	日枝神社水天宮	清瀬市	10000	南	平坦地		スギ	97.5.22
121	子ノ神社	東久留米市	2323	南	黒目川左岸段丘崖上小高い丘		(ケヤキ、シラカシ)	97.2.11
123	上染谷八幡神社	府中市	4042	南	平坦地		—	96.11.21
135	人見稻荷神社	府中市	3300	南	浅間山下部		—	97.8.18
139	熊野神社	府中市	2670	南	平坦地		—	97.9.11
142	天神社	西東京市	3185	南	白子川左岸小高い丘		イチョウ	95.10.9
143	尉殿神社	西東京市	4068	南	平坦地		スギ(二代目)	95.10.9
144	阿波州神社	西東京市	3226	東	平坦地		イチョウ	96.11.24
145	東伏見稻荷神社	西東京市	14273	南	石神井川左岸段丘崖上小高い丘		—	96.12.14
147	田無神社	西東京市	5244	南	石神井川左岸段丘崖上平坦地		イチョウ	95.12.15
149	稻荷神社	武蔵野市	2597	南	平坦地		—	96.1.12
150	武蔵野八幡宮	武蔵野市	4554	南	平坦地		ケヤキ	96.4.21
151	杵築神社	武蔵野市	6600	東	平坦地		イチョウ	96.7.25
156	八幡大神社	三鷹市	3993	南	平坦地		スダジイ	96.10.10
157	天神社	三鷹市	2468	南	平坦地		—	97.4.26
159	中嶋神社	三鷹市	2686	東	平坦地(中央自動車道南側)		イチョウ	97.4.26
160	八幡神社	三鷹市	2046	南	平坦地(野川の左岸側段丘面)		ケヤキ	97.4.26
161	神明社	三鷹市	2917	西	神田川左岸		クスノキ(元ノリ)	97.10.19
163	布田天神社	調布市	10549	南	平坦地		ケヤキ	96.11.28
164	青渭神社	調布市	2145	東	少し高まった部分東側凹地		ケヤキ	96.12.22
171	八幡神社	調布市	3630	南	平坦地		—	97.8.3
172	若宮八幡神社	調布市	3465	西	府中用水左岸段丘崖上部		—	97.8.3
176	伊豆美神社	狛江市	3960	北	平坦地		—	96.12.15
	大國魂神社	府中市	62700					



図1 調査地

表3 東京の西多摩・北多摩・23区内の大木（DBH50cm以上）分布（176社）

	種名	出現数	出現率	科名	生活形	分布
1	イチヨウ	120	67.0	いちょう	落葉広葉樹	中国原産
2	ケヤキ	116	64.8	にれ	落葉広葉樹	山野に自生。本州、四国、九州、朝鮮、台湾
3	スタジイ	76	42.5	ぶな	常緑広葉樹	暖地の山地。本州（福島・新潟県以西） 四国、九州、朝鮮
4	クスノキ	68	38.0	くすのき	常緑広葉樹	暖地に自生。本州（関東地方南部以西） 四国、九州、朝鮮
5	シラカシ	58	32.4	ぶな	常緑広葉樹	山地に自生。本州（宮城・新潟県以西） 四国、九州、朝鮮、中国
8	ムクノキ	40	22.3	にれ	落葉広葉樹	山地に自生。本州（関東地方以西） 四国、九州、アジア東南部
7	イヌシデ	39	21.8	かばのき	落葉広葉樹	山地に自生。本州（岩手県以西）、四 国、九州、朝鮮、中国
6	サクラ類	38	21.2	ばら	落葉広葉樹	ソメイヨシノ、ヤマザクラ、エドヒガ ン、シダレザクラ、オオシマザクラ
9	クロマツ	32	17.9	まつ	常緑広葉樹	海岸沿いを中心に自生。本州、四国、 九州、朝鮮、中国
11	ヒノキ	24	13.4	ひのき	常緑広葉樹	本州（福島県以西）、四国、九州（屋 久島まで）、広く植林される
10	エノキ	22	12.3	にれ	落葉広葉樹	山地に自生。本州、四国、九州、朝鮮 南部
13	カヤ	19	10.6	いちい	常緑広葉樹	山地に自生。本州（宮城県以西）、四 国、九州、朝鮮
12	ヒマラヤスギ	17	9.5	まつ	常緑広葉樹	ヒマラヤ北西部～アフガニスタン東部 原産
14	アカマツ	15	8.4	まつ	常緑広葉樹	山野に普通。北海道（西南部）、本州、 四国、九州、朝鮮、中国東北部
15	スギ	12	6.7	すぎ	常緑広葉樹	日本特産、各地に自生。広く植林され る。本州、四国、九州
16	アラカシ	12	6.7	ぶな	常緑広葉樹	山野に自生。本州（宮城・石川県以西） 四国、九州、朝鮮、アジア東南部
17	アカガシ	11	6.1	ぶな	常緑広葉樹	山野に自生。本州（宮城・新潟県以西） 四国、九州、朝鮮南部、中国
18	コナラ	9	5.0	ぶな	常緑広葉樹	山野に自生。本州、四国、九州、朝鮮
19	タブノキ	7	3.9	くすのき	常緑広葉樹	暖地の沿海地に多い。本州、四国、九 州、朝鮮南部、中国、台湾、フィリピン
20	サワラ	7	3.9	ひのき	常緑広葉樹	山地に自生。本州（岩手県以西）、九 州、よく利用される

表4 東京の西多摩・北多摩・23区内の大木（DBH50cm以上）の分布

		23区	世田谷・大田区	23区計	西・北多摩	計
1	イチョウ	68	16	84	36	120
2	ケヤキ	59	15	74	42	116
3	スダジイ	51	13	64	12	76
4	クスノキ	47	13	60	8	68
5	シラカシ	17	7	24	34	58
6	ムクノキ	24	5	29	11	40
7	イヌシデ	13	9	22	17	39
8	サクラ	20	5	25	13	38
9	クロマツ	18	9	27	5	32
10	ヒノキ	9	0	9	15	24
11	エノキ	13	2	15	7	22
12	カヤ	13	3	16	3	19
13	ヒマラヤスギ	9	4	13	4	17
14	アカマツ	7	2	9	6	15
15	アラカシ	1	3	4	8	12
16	スギ	0	0	0	12	12
17	アカガシ	7	4	11	0	11
18	コナラ	2	1	3	6	9
19	タブノキ	6	1	7	0	7
20	サワラ	4	1	5	2	7
21	クヌギ	4	0	4	3	7
22	スズカケノキ	4	1	5	0	5
23	モミ	0	0	0	5	5
24	カエデ	1	0	1	3	4
25	キササゲ	3	0	3	0	3
26	メタセコイア	3	0	3	0	3
27	アカメガシワ	2	1	3	0	3
28	イヌザクラ	0	0	0	3	3



		23区	世田谷・大田区	23区計	西・北多摩	計
29	トウネズミモチ	2	0	2	0	2
30	ボダイジュ	2	0	2	0	2
31	クロガネモチ	2	0	2	0	2
32	モチノキ	2	0	2	0	2
33	ウラジロガシ	1	1	2	0	2
34	キ　　リ	2	0	2	0	2
35	トチノキ	1	0	1	1	2
36	モ　　ク　　ク	1	0	1	1	2
37	アキニレ	1	0	1	1	2
38	アオギリ	1	0	1	1	2
39	ミ　　ズ　　キ	0	1	1	1	2
40	ハリエンジュ	1	0	1	0	1
41	カ　　イ	1	0	1	0	1
42	ヤブニッケイ	1	0	1	0	1
43	ム　　ク　　ロ　　ジ	1	0	1	0	1
44	コ　　ブ　　シ	1	0	1	0	1
45	ア　　カ　　シ　　デ	1	0	1	0	1
46	カ　　キ　　ノ　　キ	1	0	1	0	1
47	シダレヤナギ	1	0	1	0	1
48	トウカエデ	1	0	1	0	1
49	タイサンボク	1	0	1	0	1
50	サ　　イ　　カ　　チ	1	0	1	0	1
51	ウバメガシ	0	0	0	1	1
52	ホ　　ウ　　ノ　　キ	0	0	0	1	1
53	イ　　チ　　イ	0	0	0	1	1
54	ツクバネガシ	0	1	1	0	1
	計	431	118	549	263	812
	調査神社数	85社	27社	112社	64社	176社



図2 スギの大木の分布



図3 アカマツの大木の分布





図4 クロマツの大木の分布



図5 サワラの大木の分布





図6 イチョウの大木の分布



図7 ケヤキの大木の分布





図8 アラカシの大木の分布





図9 サクラの大木の分布



図10 エノキの大木の分布





図11 シラカシの大木の分布



図12 イヌシデの大木の分布





図13 ヒノキの大木の分布



図14 コナラの大木の分布





図15 カヤの大木の分布



図16 スダジイの大木の分布





図17 クスの大木の分布



図18 ムクノキの大木の分布





図19 ヒマラヤスギの大木の分布



図20 アカガシの大木の分布





図21 タブノキの大木の分布

---

---

た ま がわ か り ゆう い き      じん じ ゃ   け い だ い   じ ゅ も く   けん き ゅ う  
「多摩川下流域における神社の境内の樹木の研究」

と く   け い だ い   じ ゅ し ゅ こ う せい      ば い ち  
— 特に境内の樹種構成とその配置について —

(研究助成・一般研究VOL. 23-No.130)

著 者      あ き   や ま   よ し   の り  
秋 山 好 則

発行日      2002年 3月31日

発 行      財団法人 とうきゅう環境浄化財団

〒150-0002

渋谷区渋谷 1-16-14 (渋谷地下鉄ビル内)

TEL (03)3400-9142

FAX (03)3400-9141

---

---